

# 01

題材名 「教えて、あなたのこと」 (第1時/全1時間)

目標 ◎友達の魅力(みりょく)を伝えよう。

領域等 話すこと聞くこと(エ)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「教えて、あなたのこと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 友達の魅力(良いところ)を聞き出そう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p38「きいてきいてきいてみよう」の準備学習。</li> <li>・ 本時の目標を知る。</li> </ul>
展開 30分	③ 担任が自己紹介する。(担任の紹介を兼ねた「学級開き」とする。) ・ 「一人芝居」として、ワークシートを持ちながら担任が自身に質問し、担任が自分で答え、担任自身に聞き返すことで、本時の学習の流れや要点を示す。(丁寧語を用い、簡潔に質問する。) ④ 一緒に学習する仲間の魅力を紹介しよう。 ・ 教科書p12~13を通読する。 ・ 二人一組で「他己紹介」をする旨を伝える。 ・ 限られた取材時間では質問項目を絞るとともに、一問一答で終わらせずに必要に応じて重ねて深く尋ねられるよう準備させる。 ⑤ 取材メモ(ワークシート)を配布する。 ・ 質問項目を考えさせ、取材メモ(ワークシート)に記入させる。 ・ 聞き出すための効果的な言葉を考える。 ・ 必要に応じて深く聞き出すための質問も考えさせる。 ⑥ インタビュー(取材)を始める。 ・ 3分程度ずつ、ペア同士で取材させる。 ⑦ 紹介文を書く。 ・ 名前のほか、インタビューで聞き出した魅力(印象に残ったこと)を「二文」にまとめる。 ・ 「二文目」には、インタビューをしての友達の印象、感想を述べさせてもよい。「～趣味が同じで、すぐに友達になれそうな～」 ・ 「文」について簡単に確認しておく。(一文とは、書き出しから句点まで。二文は、句点「。」が二つの「文章」となる。) ⑧ 他己紹介する。 ・ ペア(二人)でクラスみんなの前に出て、互いに紹介し合う。 ・ 紹介ごとに拍手をさせてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任の自己紹介を聞く。</li> <li>・ 学習の流れ(級友を取材して内容を整理し、その人の魅力を伝える)をつかむ。</li> <li>・ 教科書を通読して学習の流れを知る。</li> <li>・ ペアをつくる。</li> <li>・ 紹介に使えそうな質問を考える。</li> <li>・ 「お名前を聞かせてください」「どんな字を書きますか」「どんな意味がありますか」「出身はどこですか」「それは日本のどの辺りですか」「畑もありますか」「今、熱中していることは・・・」「一番の心配事は・・・」</li> <li>・ 「春花さんと言って、spring flower春の花と書くそうです。出身は東京の目黒区で、近くにはきれいな川が流れていて春になると・・・」</li> </ul>
終末 5分	⑨ 紹介メモは担任が預かり、児童理解の一助とする。(取材した側の児童の筆記力、語彙力、或いは取材された側の夢や環境など) ⑩ 次時の予告をする。 「次の時間は、『かんがえるのって おもしろい』」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身振りを加えて紹介する。感想を述べながら紹介してもよい。</li> <li>・ 次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・ 目標を黒板に書き、学習のめあてを確認する習慣づけを行う。
- ・ 個別のメモがとれるように、空欄の座席表を用意しておくとうい。

板書例

① 題材名「教えて あなたのこと」を黒板に書く。

② 本時の目標を知らせる。  
・インタビュー（取材）のための質問を考える。  
・聞き取った内容の要点をまとめる。

③ ワークシートの項目を中心に、質問の仕方を示しながら自己紹介する。  
問 まず、お名前をお聞かせください。  
答 ○○先生です。 問 ご出身はどちらですか？

⑤ インタビュー（取材）の準備  
・ワークシートを使って取材項目を考える。  
・一問一答で終わらせないように注意を与える。  
・p11「広げる」（マッピング）を参考にして取材内容を広げる。  
・敬語（丁寧語、尊敬語）を使う。

教えてあなたのこと

目標 友だちのみりよくを伝えよう

○担任紹介  
(インタビューの指導を兼ねて学級開き！)

○他己紹介する(魅力伝える)ためには、聞いたところを絞って取材をする。

○取材をしてから他己紹介文を書こう！  
・質問項目をワークシートに記入する。  
・二人一組で互いにインタビューする。  
・回答の要点をメモする。  
・名前のほかに、一番印象に残ったことを中心に紹介内容を二文にまとめる。  
(一文とは、「書き出しから句点まで」。)

ペアの相手を紹介しよう！  
・敬語(丁寧語)を使おう。  
・身振りや表情も言葉の一つ。

④ 教科書を通読して流れをつかませる。

⑥ インタビューでは一問一答で終わらないように注意する。紹介場面でも敬語を使い、身振りなども交えてよいことを伝える。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『かんがえるのって おもしろい』」

教えて、あなたのこと

w  
01

五年 組 氏名 )

今日の学習のめあて

□取材のメモをとろう

□心に残ったことをもとに、二文でまとめてしょうかいしよう。

教えて、あなたのこと(記入例)

w  
01

五年 組 氏名)

(

今日の学習のめあて

友だちのみりよくを聞き出そう

□取材のメモをとろう

- ・日本の岐阜から来ています。
- ・雪がたくさん降る地域だそうです。
- ・猿やかもしかなど、野生の動物と出会います。
- ・猿に出会っても、声をかけてはいけないそうです。
- ・でも、動物と出会うと、かわいいと思います。

□心に残ったことをもとに、二文でまとめてしょうかいしよう。

雪がたくさん降る岐阜という地域から来ています。  
住んでいた地域では、野生の動物と出会うことが多いそうですが、  
とてもかわいいなど思っている、岐阜 太郎さんです。

## 2

**題材名** 「かんがえるのって おもしろい」 (第1時/全1時間)

**目標** 詩を音読することができる

- ◎ 進んで感想を共有することで自分の考えを広げ、今までの学習を生かして、音読しようとする  
ことができる。

**領域名** B 書くこと (1) ア・(2) ア C 読むこと (1) オ・カ①

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かんがえるのって おもしろい」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">えがかれていることを思い浮かべながら音読をしよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 音読の練習をする。 ・教科書P.14-15を教師が読む。 「今度はみんなで声を合わせて読んでみよう」 「次は、一行ずつ交代で読んでみよう」 「最後に、第一連と第二連に分かれて読んでみよう」 ○ 声の高さや読む速さによって印象が異なる事を体感させ、児童 なりの特徴を出した音読ができるようにする。 ○ 漢字に変えながら板書する事で、より意味を理解させると共に 児童が理解できていない言葉について説明する。 ④ 詩を視写する。 「隙間や行に気をつけて、教科書の詩を写しましょう。」 「思い浮かんだ様子や心に残った言葉、自分の考えたことなどを イラストにして、挿絵として付け加えましょう。」 ○ 詩の中の言葉や表現からイメージする情景をイラストにして例示 すると良い。どうしても思い浮かばない児童については、教科書の挿 絵を少し変えて真似しても良い。 ・ 作者は谷川俊太郎 児童の名前絵 と入れると雰囲気が出る ⑤ 完成したオリジナル挿絵入りの「かんがえるのって おもしろい」 を見せながら皆で何度か音読をする。	・教師の指示に従いながら、いろ いろなパターンで詩を音読する。  ・教科書を見ながら、詩をワーク シートに書き写す。  ・友達の名前絵を見ながら、自分 の考えをさらに広める
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は「なまえつけてよ」の学習をします。」 「家で一度読んでおきましょう。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・言葉のリズムや繰り返しを味わわせながら、何度も音読する中で音に慣れさせる。
- ・それぞれの児童が感じ取った情景や印象に残った場面をイラストにして挿絵として入れることで、作品をより身近に感じられるようにする。
- ・音読が難しい場合は、教師の後について言わせるなど、少しずつでもかまわない。

# 板書例

① 題材名「かんがえるのって おもしろい」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「えがかれていることを思い浮かべながら音読をしよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 音読の練習をする。  
・教科書P.14-15を教師が読む。何度も方法を変えて音読させる。  
「みんなで声を合わせて読みます。」 「一行ずつ交代で読みます。」

④ 詩を試写する。  
・教科書P.14-15を見ながらワークシートに書かせる。  
・詩を書き終わったら、挿絵を描かせる。

児童の作品	かんがえるのって おもしろい えがかれていることを思い浮かべながら、音読をしよう。 「かんがえるのって おもしろい」
児童の作品	
児童の作品	

みなよくするって ふしぎだね  
けんかするのもし いみじたい  
しらないきもちが かくれてて  
まえよりもっと すきになる  
このおかのうえ このがっこうは  
みんなのちからで そだつてく

そらのあおさが ふかくなる  
このおかのうえ このきょうしつは  
みらいにむかって とんでいる

教師の思い描いたイラストを  
書き加えても良い

⑤ 児童の作品を見ながら、何度か音読をする。  
児童によって思い浮かべた情景が異なることを楽しむ。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【なまえつけてよ】の学習に入ります。」  
「一度自分で読んでおきましょう。」

かんがえるのって おもしろい

W 2

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 声に出して、谷川俊太郎さんの詩を読もう。

★声の高さ ★声の大きさ ★読む速さ

二 教科書を見ながら、詩を写そう。詩に合う挿絵を描こう。

か

ど

し

そ

こ

み

な

け

し

ま

こ

み

かんがえるのって おもしろい

W 2

五年 組 氏名 (

)

今日の学習のめあて

えがかれていることを思い浮かべながら、音読をしよう。

一 声に出して、谷川俊太郎さんの詩を読もう。

★声の高さ ★声の大きさ ★読む速さ

二 教科書を見ながら、詩を写そう。詩に合う挿絵を描こう。  
かんがえるのって おもしろい

どこかとおくへ いくみたい

知らないけしきが みえてきて

そらのあおさが ふかくなる

このおかのうえ このきょうしつは

みらいにむかって とんでいる

なかくするって ふしぎだね

けんかするのも いいみたい

知らないきもちが かくれてて

まえよりもっと すきになる

このおかのうえ このがっこうは

みんなのちからで そだってく

# 03

**題材名** 「なまえつけてよ」（第1時／全1時間）

- 目標**
- 全文を通読し、あらすじをつかむことができる。
  - ◎特徴的な言葉から、その人物の心情を読み取ることができる。

**領域等** C 読むこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「なまえつけてよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 人物の心情を読み取ろう。	・ 本時の目標を知る。
展開 30分	③ 範読する。 ・ 範読を聞かせながら、「話の中心となる人物やその人柄、題名に関わる出来事、人物同士の関係がわかるところ」に線を引かせる。 ④ 主な登場人物とあらすじを確かめる。 ・ 主要登場人物…春花 小学校5年生 / 勇太 同級の転校生 ・ 一日目：春花が牧場のおばさんから、仔馬に「名前、つけてよ」と頼まれる。帰宅途中に勇太と会うが、不愛想な態度で別れる。その夜、悩んだ末に一つの名前が浮かぶ。 ・ 二日目 牧場のおばさんから、子馬の名前「頼んだのに、ごめんなさいね」と言われる。勇太と陸は、困ったような顔をして春花を見ている。 ・ 三日目 放課後、すれ違いざまに勇太が春花に「紙で折った馬」を渡す。元気のいい字で「名前、つけてよ」と書いてある。春花は、校庭でサッカーに興じる勇太に「ありがとう」と心の中でつぶやく。	・ 範読を聞きながら、主な人物像、出来事などがわかるところ、その他気になるところに線を引く。 ・ 誰が何と言ったのか、どんな行動をとったのか、どんな表情をしたのかなどに注意しながら、本文を追っていく。 ・ 主要登場人物を確認する。
終末 10分	⑤ 三つの場面を追って、春花の心情の変化をとらえる。 ・ ワークシートを配布し、項目ごとに考えさせ、書き込ませる。 ・ 児童が感じ取った、「人物の言動に現れた思い」「人物の言動とは裏腹な思い」を自由に書かせ、発表させる。 ⑥ 全文を音読させる。 ・ クラス全員に順に音読させ、ワークシートの根拠の言葉春花と勇太の気持ちとその変化を確認する。 ⑦ 新出漢字と新出音訓の練習をさせる。 ・ 「任」「現」「際」「態」「飼」「似」「格」「情」「像」「象」「解」 ・ 「解」の「牛」が「午」とならないように注意する。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『図書館を使いこなそう』」	・ ワークシートであらすじを確認する。 ・ ワークシートを埋める作業を通して、人物の心情の読み取り方を知る。 ・ 新出漢字の注意点を聞く。 (他の新出漢字は家庭学習とする。) ・ 次時の見通しを持つ。

**指導のポイント**

- ・ 限られた時間の中での指導となるので、春花の心情変化と勇太の人物像の読み取りに絞って考えさせる。

板書例

②本時の目標を知らせる。  
・あらすじをつかみながら、中心人物の心情の変化をとらえる。

③教師が全文を読む。  
・春花と勇太という主要な登場人物の確認をする。  
・勇太の性格や心遣い、春花の心情変化に注目

④感想を伝える  
・春花や勇太の気持ちが「分かるなあ」と思ったら、その根拠となりそうな部分を指摘させる。

(1) 春花と勇太の気持ちが分かる部分を探し傍線を引く。  
(2) 線を引いた箇所をワークシートに書き写す。  
(3) 抜き書きした言葉から人物の心情を考える。

なまえつけてよ  
目標 人物の心情をとらえる

○本文を読み、大体的内容を読み取る。

主な登場人物  
・春花 小学校五年生  
・勇太 同級生(転校生)  
あらすじ  
①初日 「名前、つけてよ。」  
「なによ、その態度。」  
②二日目 「ごめんね」「いいんです」  
③三日目 「なまえ、つけてよ。」  
「ありがとう」  
(考えよう) ・ワークシートで  
二人の気持ちと人物像

感想(この作品を読んで考えさせられたこと)  
根拠となる言葉  
(例)春花は、仔馬にどんな名前を付けたのか。

新出漢字  
「任」「現」「際」「態」「飼」「似」  
「格」「情」「像」「象」「解」

⑤あらすじを確かめながら読み、作品の中心人物をとらえる。

⑥ 新出漢字「任」「現」「際」「態」「飼」「似」「格」「情」「像」「象」「解」の学習をさせる。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『図書館を使いこなそう』」

◎注目した言葉と二人の気持ち

会話主	注目した言葉	会話主の気持ち	備考
春花	何よ、その態度p21L12		
春花	いいんです、それなら仕方ないですね。 p26L2		
勇太	困ったような顔をして、春花をじっと見ていた。p26L4		
勇太	名前、つけてよ p26L11		
春花	ありがとう(心の中の声)p 27L3		

◎二人の人柄(人物像)

人物	人柄(人物像)
春花	
勇太	

◎作品を読んでの感想

--

◎春花は、あの仔馬に何という名を考えたのか。

根拠となることば	春花の気持ち	春花が付けたであろう名前
風のように走る馬に p23L8		

◎注目した言葉と二人の気持ち

会話主	注目した言葉	会話主の気持ち	備考
春花	何よ、その態度p21L12	失礼で嫌なやつ。不愉快。	勇太に対する印象はよくない。
春花	いいんです、それなら仕方ないですね。 p26L2	残念。一生懸命考えたことが無駄になった。	残念なことがあっても、その気持ちを相手に投げつけることをしない冷静な人。
勇太	困ったような顔をして、春花をじっと見ていた。p26L4	春花のほうを「じっと」見ていた。	不器用な人だが、他者の気持ちを自分のことのように考える人。 p21L2「ちらっと」との違い。
勇太	名前、つけてよ p26L11	春花の努力を無駄にさせたくない。 春花の落胆を少しでも小さくしたい。	少しでもがっかりさせないように気遣うだけでなく、ぶっきらぼうな態度をすることで勇太の好意にも気を遣わせないように考える優しい心の持ち主。
春花	ありがとう(心の中の声)p 27L3	心優しいいいやつ。心が温まる。	勇太に対する気持ちが大きく変わることによって快さを感じる。

◎二人の人柄(人物像)

人物	人柄(人物像)
春花	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌だと思っても、それを表に出さない我慢強い人。</li> <li>・命名の重さを強く感じる、物事に対して真剣に取り組む人。</li> <li>・人の気持ちが分かる優しい心をもった人。</li> </ul>
勇太	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャイ(恥ずかしがりや)で口下手(くちべた)。</li> <li>・「相手に気を遣わせない」という気遣いができる。</li> <li>・人から良く見られたいという気持ちをもたないさっぱりした性格。</li> </ul>

◎作品を読んでの感想

- ・互いに優しさがあれば、いつかは心が通じ合える。優しさが人をつなぐ。
- ・第一印象は外れることが多い。人は長く付き合ってみなければ本当のことはわからない。

◎春花は、あの仔馬に何という名を考えたのか。

根拠となることば	春花の気持ち	春花が付けたであろう名前
風のように走る馬に p23L8	・子馬への希望と期待を込めた、いい名前を付けたい。	・はやて(疾風・颯)

## 4

**題材名** 「図書館を使いこなそう」（第1時／全1時間）

**目標** 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づくことができる。  
 ◎積極的に、学校図書館の仕組みを知って読書に親しみ、本を紹介するためにメモを書いたり発表する文を考えたりすることができる。

**領域名** 知識及び技能 （3）オ①

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「図書館を使いこなそう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             日常的に読書に親しみ、考えを広げよう。           </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 日本十進分類法について知る。 ・教科書P. 32-33を補足説明をしながら読み、児童に理解させる。 「図書館を利用したことはありますか。」 「日本の図書館はあるルールによって本が分類されています。」 「表を完成させながら、日本十進分類法について勉強しましょう」 ○教科書p32を見ながら、0から9の分類をワークシートに整理させる。具体的にどのような本がその分類に当たるのか、例示しながら書かせると良い。 ④ 自分の好きな本を紹介する準備をする。 「自分で読んでおもしろいと思った本について紹介しよう。」 「選んだ本について、表を埋めながらメモを作りましょう。」 「メモの中から、三つぐらいポイントを選び、話すことを文章に書いてみましょう。」 ○実際に図書館が併設されていないことから、本の紹介をしあうことで読書に慣れ親しませたり、新しい本に出会うきっかけにさせたりする。本を読む習慣のない児童においては、教科書の中に出てきた物語等でも構わない。 ⑤ 紹介しあう。 短い時間でも構わないので、紹介し合う。どの本に一番興味を持ったかなどを問い、チャンピオン本を決めても良い。	・教師の指示に従いながら、教科書や黒板を見ながらワークシートに整理する。 ・自分の好きな本、おもしろいと思った本について各項目についてかける部分をメモにおこす。 （全項目埋まっていなくても良い） ・メモをヒントに、簡単な紹介文を作る。 ・友達の紹介を聞きながら、自分の考えをさらに広める
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は「漢字の成り立ち」の学習をします。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・インターネットからの写真等を活用し、日本の図書館のイメージを持たせるとともに分類番号を例示する。
- ・実際に図書館が併設されているような補習校においては、教科書通りテーマを決めて数種類の本を探す活動を行うこともできる。
- ・本の紹介文章が難しい場合には、イラストを基に紹介させたり、紹介文の雛形を作ったりすると良い。

板書例

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「日常的に読書に親しみ、考えを広げよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

- ③ 日本十進法について知る。
- ・教科書P. 32-33を教師が説明しながら読む。
  - ・分類法について、ワークシートに記入しながら理解させる。

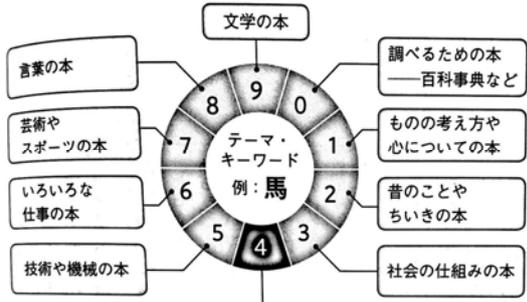
- ④ 自分の好きな本を紹介するための準備をする。
- ・ワークシートの項目についてメモを書かせる。
  - ・メモを書き終わったら、いくつか選び、文章を書かせる。
  - ・教師が例示しながら紹介文を書いたり読んだりすれば、児童が真似できる雛形にもなる。(文章を配布しても良い)

紹介の仕方(例)

私のオススメの本は「ハリーポッター賢者の石」です。分類番号は九番です。この本は、おばあちゃんが日本から送ってくれました。魔法使いの学校で出会う友達との関係や悪者と戦う姿にドキドキします。魔法使いの不思議な感じが好きな人にはぜひ読んでもらいたいです。



■日本十進分類法



「図書館を使いこなそう」

日常的に読書に親しみ、考えを広げよう。

本の紹介メモ

- ① その本が好きな理由
- ② あらすじ
- ③ お気に入りの登場人物
- ④ 読んでほしい場面やセリフ
- ⑤ 本と出会った時のこと
- ⑥ この本を読んでほしい時間や場所
- ⑦ 著者・作者について
- ⑧ 表紙など本の外見

- ⑤ 紹介し合う。
- 「できたところまでで、自分のお気に入りの本を友達や先生に紹介しましょう。」
- 「一番読んでみたいと思った本はどれでしたか？」

- ⑥ 次時の予告をする。
- 「次の時間は、【漢字の成り立ち】の学習に入ります。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 日本十進分類法について知ろう。

分類 番号	内容
0	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

二 自分の好きな本について紹介する文章を考えよう。

紹介メモ

- 
- 
-

縦線が引かれた書き込み欄

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

日常的に読書に親しみ、考えを広げよう。

一 日本十進分類法について知ろう。

分類番号	内容
0	調べるための本
1	物の考え方や心についての本
2	昔のことや地いきの本
3	社会の仕組みの本
4	自然に関わる本
5	技術や機械の本
6	色々な仕事の本
7	芸術やスポーツの本
8	言葉の本
9	文学の本

二 自分の好きな本について紹介する文章を考えよう。

紹介メモ

- ・ ハリーポッター賢者の石
- ・ おばあちゃんから送ってもらった
- ・ 魔法使い学校
- ・ 魔法やミステリー好き

にオススメ

私のオススメの本は、「ハリーポッター賢者の石」です。分類番号は、九番です。この本は、おばあちゃんが日本から送ってくれました。魔法使いの学校で会う友達との関係や悪者と戦う姿にドキドキします。魔法使いの不思議な感じが好きな人にはぜひ読んでもらいたいです。

# 05

**題材名** 「漢字の成り立ち」 (第1時/全1時間)

**目標** 漢字の成り立ちについての知識を持つことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「漢字の成り立ち」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">漢字の成り立ちについて知ろう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時の目標を書く。
展開 33分	③ 教師が範読する。 ④ 漢字の成り立ちについて考えさせ、4つに分類する。 ・目に見える物の形を、具体的にえがいたもの。 ・目に見えない事がらを、印や記号を使って表したもの。 ・漢字の意味を組み合わせたもの。 ・音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの。 ⑤ どの部分が音を表しているかを考えさせ、漢字辞典で確かめさせる ⑥ 漢字の成り立ちを、漢字辞典を使って調べさせる。 ⑦ 新出漢字の練習 筆順に注意しながら練習させる。時間がないときは筆順だけ学校でやり、練習は宿題にすることもできる。	・範読後、各自全文を読む。 ・漢字には4つの成り立ちがあることを知り、その由来を具体的な漢字で理解する。 ・漢字辞典を使って調べる。 ・辞典がないときは、友達と話し合って考える。 ・漢字辞典で調べる。 ・漢字練習をする。
終 2分	⑧ 宿題の確認 (音読・漢字) ⑨ 次時の予告をする。	・次時の見通しをもつ。

## 指導のポイント

- 漢字はそれぞれ成り立ちがあることに気づかせ、教科書以外の漢字にも興味関心を広げるようにしたい。
- 漢字辞典を全員が持っていないことも多い。1冊をグループで見たり、ないときには話し合いで考えたりして興味を持たせる。
- 調べる時間がないときは、グループごとに調べさせ、後で発表させてもよい。

# 板書例

- ① 題材名「漢字の成り立ち」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 教師が読む（範読）。その後もう一度児童に読ませる。
- ④ 漢字の成り立ち（4つ）について考えさせる。

- ⑤ どの部分が音を表しているか考えさせ、漢字辞典で確かめさせる。
- ⑥ 漢字の成り立ちを漢字辞典を使って調べさせる。

漢字の成り立ち

**漢字の成り立ちについて知ろう**

- 一、漢字の成り立ちについて考えよう
- ① 目に見える物の形を、具体的にえがいたもの  
馬・山・門・火・手
- ② 目に見えない事がらを、印や記号を使って表したもの  
上・下・三
- ③ 漢字の意味を組み合わせたもの  
鳴・信・林
- ④ 音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの

音を表す部分  
意味を表す部分

- 二、どの部分が音を表しているのだろう  
河口、銅像、来週、案内板、絵画、国際
- 三、成り立ちを調べよう  
愛犬、年末、説明、清潔
- 四、新出漢字の練習  
許可河銅修復防災検  
移賞貿易潔

- ⑥ 新出漢字を練習させる。
- ⑦ 宿題の確認（音読・漢字）をする。
- ⑧ 次時の見通しをもつ。次は「春の空」を学習する。

漢字の成り立ち

五年 組

氏名 (

)

目標

--

一、漢字の成り立ち

①物の形や様子をえがいた絵文字を略して

--

②絵にしにくい事柄を印などで

--

③漢字の意味を組み合わせて

--

④音を表す部分と意味を表す部分を合わせて

--

二、どの部分が音を表しているだろう

銅

清

張

板

河

飯

三、成り立ちを調べよう

臣・末・明・管

四、新出漢字の練習

貿易 <small>ぼうえき</small>	預かる <small>あずかる</small>	河口 <small>かこう</small>			
国際 <small>こくさい</small>	銅像 <small>どうぞう</small>	移動 <small>いどう</small>			

漢字の成り立ち(記入例)

五年 組 氏名( )

w  
05

目標

漢字の成り立ちについて知ろう

一、漢字の成り立ち

①物の形や様子をえがいた絵文字を略して

象形文字：馬・山・門・火・手など

②絵にしにくい事柄を印などで

指事文字：上・下・三など

③漢字の意味を組み合わせて

会意文字：鳴・信・動など

④音を表す部分と意味を表す部分を合わせて

形声文字：粉・構・性・像など

二、どの部分が音を表しているだろう

銅 清 張 板 河 飯

三、成り立ちを調べよう

臣・末・明・管

四、新出漢字の練習

貿易 <small>ぼうえき</small>	預かる <small>あずかる</small>	河口 <small>かこう</small>	河口	河口	移動 <small>いどう</small>		
		河口					
		河口					
国際 <small>こくさい</small>	銅像 <small>どうぞう</small>	移動 <small>いどう</small>					

# 6

**題材名** 「春の空」 (第1時/全1時間)

**目標** 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。

- ◎ 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、春らしいものや様子を文章に書くことができる。

**領域名** 知識理解 (3) 我が国の言語文化 ア B 書くこと (1) ア

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 春についてのイメージを膨らませる お花見、桜、入学式、チューリップ、菜の花、春一番、ひな祭り ② 題材名「春の空」を黒板に書く。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             春らしいものや様子を文章に書き表そう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春といえば…を考える</li> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 33分	④ 音読の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 36清少納言の作品を教師が読む。 「今度はみんなで声を合わせて読んでみよう」 「次は、かたまりずつ交代で読んでみよう」</li> <li>○ 春はあけぼの／やうやう白くなりゆく山ぎは／すこしあかりて／紫だちたる雲の／ほそくたなびきたる 必要に応じて意味を説明してもよいが、言葉の響きやリズムに重きを置く。 NHK for schoolなどの映像教材を活用してもよい。</li> </ul> ⑤ 他の作品 (花冷え・春風) にも触れる。 「他の人がどのように春を感じていたのか、読んでみましょう。」 「みんなにとっての春を短い言葉で歌にしてみましょう。」 ○ 春についてのイメージから関連する言葉をいくつか考えさせ、それらの言葉を5.7.5や5.7.5.7.7のリズムでつなぐと良い。 例：桜→桃色、桜吹雪、お花見 「桜」 桃色の 花びらが舞う 花見かな ⑥ 完成した自分の作品 (春) を見せながら皆と交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示に従いながら、いろいろなパターンで音読する。</li> <li>・教科書を見ながら、花冷え・春風を音読する。</li> <li>・友達の作品を聞きながら、自分の考えをさらに広める</li> </ul>
終 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は「きいて、きいて、きいてみよう」の学習をします。」 「友達に聞いてみたい話題や質問を考えておきましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

**指導のポイント**

- ・言葉のリズムや響きを味わわせながら、何度も音読する中で音に慣れさせる。
- ・それぞれの児童が思い描いている春を作品に書き表わすことができるようにする。
- ・季節のイメージが持てない児童に対しては、春のイメージをこちらから提示し、穴埋めのような形でなんとか

く歌を作ることができた気持ちを味わわせるようにしたい。

## 板書例

① 児童がそれぞれに考えている春のイメージを書き出す。

④ 音読の練習をする。  
・教科書P.36を教師が読む。何度も方法を変えて音読させる。  
「みんなで声を合わせて読みます。」  
「一行（かたまり）ずつ交代で読みま

② 題材名「春の空」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。  
・「春らしいものや様子を文章に書き表そう。」

⑤ 他の作品にも触れる。  
・教科書P.37を見ながら音読させる。

春といえば・・・  
・さくら ・お花見 ・ひな祭り ・入学式

「春の空」

春らしいものや様子を文章に書き表そう。

「枕草子」 清少納言

春は あげぼの。  
やうやう（ようよう）白くなりゆく 山ぎは、  
すこし あかりて、  
紫だちたる 雲の  
ほそく たなびきたる

「花冷え」  
寒のもどり 春がすみ 花ぐもり  
↓ゆで玉子 むげばかがやく 花曇

「春風」  
風光る うららか のどか  
↓のどかさに 寝てしまひ（い）けり 草の上

（児童の作品を板書しても良い）

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【きいて、きいて、きいてみよう】の学習に入ります。」  
「友達に何について聞いてみたいか、考えておきましょう。」

⑥ 児童の作品を共有しながら、良いところを伝える。  
児童によって書き表した作品や選んだ言葉が異なることを楽しむ。

# 春の空

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 声に出して、清少納言の歌を読もう。

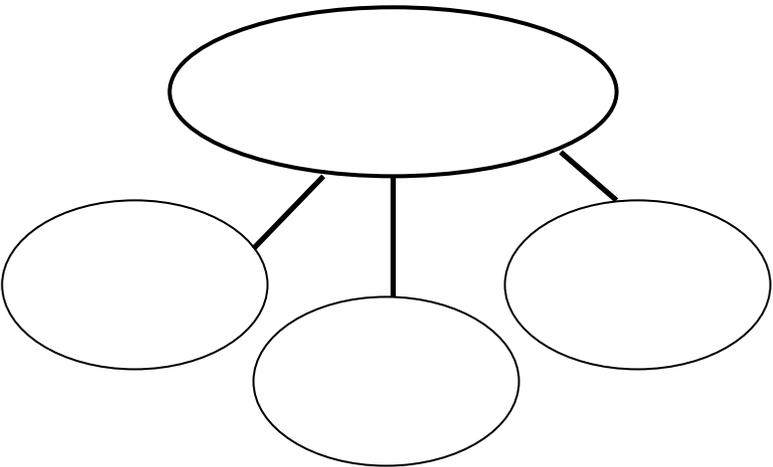
★リズムを味わう ★昔の言葉

春はあけぼの  
やうやう（ようよう） 白くなりゆく 山ぎは、  
すこし あかりて、  
紫だちたる 雲の  
ほそく たなびきたる

二 声に出して、他の作品も味わおう。

ゆで玉子 むけばかがやく 花曇 【中村 汀女】  
のどかさに 寝てしまひ（い）けり 草の上 【松根 東洋城】

三 春のイメージから、関係する言葉を考えよう。



-----

-----

-----

-----

-----

-----

# 春の空

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

春らしいものや様子を文章に書き表そう。

一 声に出して、清少納言の歌を読もう。

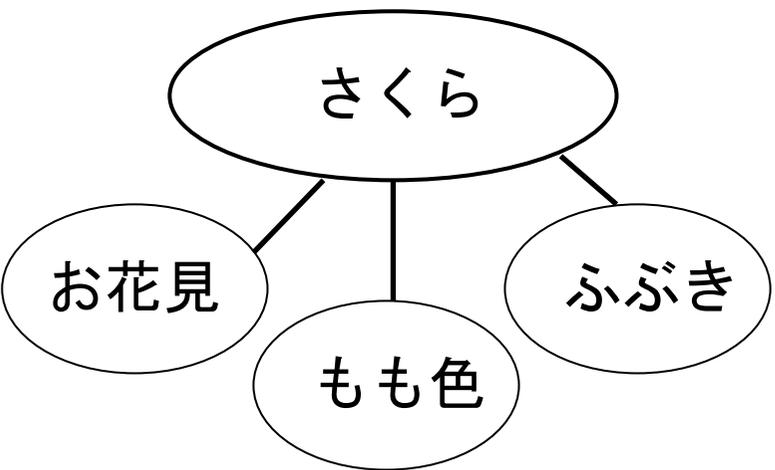
★リズムを味わう ★昔の言葉

春はあけぼの  
やうやう（ようよう） 白くなりゆく 山ぎは、  
すこし あかりて、  
紫だちたる 雲の  
ほそく たなびきたる

二 声に出して、他の作品も味わおう。

ゆで玉子 むけばかがやく 花曇 【中村 汀女】  
のどかさに 寝てしまひ（い）けり 草の上 【松根 東洋城】

三 春のイメージから、関係する言葉を考えよう。



-----

-----

-----

-----

-----

-----

# 07

**題材名** 「きいて、きいて、きいてみよう」（第1時／全3時間）  
**目標** インタビューの仕方を理解し、インタビューの準備をすることができる。  
**領域名** A 話すこと・聞くこと B 書くこと  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">インタビューについて知り、インタビューの準備をしよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 範読し、その後音読させる。 ④ P43を見て、インタビューの準備をさせ、決まったことをワークシートに書かせる。 ・机を3人の班にし、話し合いをさせる。 ⑤ P42の「たいせつ」を読み、説明する。 ⑥ 活動の手順と注意点を読み、役わりについてワークシートに書かせる。 ・大事などころには線を引かせてもよい。 ⑦活動の様子を読み、聞き手の質問で、よいたずね方だと思うところをワークシートに書かせ、発表させる。	・。 ・メンバー、順番、話題、時間質問を話し合ったり、考えたりする。 ・インタビューの仕方を知る。自分の考えをうらづける資料を探す。 ・役割をワークシートに書く。よく分からないことは、先生に聞く。 ・大事などころは教科書に線を引く。 ・教科書の例で、よいたずね方だと思うところを、ワークシートに書き、発表する。
終末 5分	⑧ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑨ 次時の見通しを持つ。 次の時間は「次の時間は、実際にインタビューをしてみましよう」	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しをもつ。

## 指導のポイント

- P 39のように3人の机を対面式にして、準備の話し合いを行わせる。時間は教師が児童の実態に合わせて設定してよい。おおむね1人10分以内。質問はあくまで話しての人柄や考え方が伝わるような内容であるかどうか、基準である。
- 今回は「インタビューとはどういうものか」がわかることが大事である。今までにもインタビューの経験がある児童もいるとは思いますが、「自分の知りたいことだけ一方的に聞く」こととは違うということを理解させたい。

# 板書例

- ①題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせ、ワークシートに書き込ませ

- ③範読し、その後音読させる。
- ④P43の準備を見ながら、話題等決めさせる。
- ⑤P42の「たいせつ」を理解させる。

- ⑥活動の手順と注意点を読み、理解させる。
- ⑦活動の様子を読み、よいたずね方をワークシートに書かせる。

<p>四、新出漢字</p> <p>準備 経験 設定 質問</p> <p>確かめる 表情 有効 所属</p> <p>再構成</p>	<p>三、よいたずね方</p> <p>話し手・・・質問をきいて答える。</p> <p>記録者・・・記録する。聞き取れなかったら、確かめる。(表情・口調。間も)</p>	<p>二、役わり</p> <p>聞き手・・・話し手に語ってほしいことが引き出せるようにきく。答えをきいて、次の質問をする</p> <p>④質問(五つ)</p> <p>③時間</p> <p>②話題</p> <p>①3人組を作り、順番を決める。</p>	<p>目標</p> <p>きいて、きいて、きいてみよう</p> <p>インタビューの仕方を知り、インタビューの準備をしよう。</p>
--	---	--	--

- ⑧新出漢字の練習をさせる。
- 宿題(音読・漢字)を確認する。

- ⑨次時の見通しをもつ。「次の時間は、実際にインタビューしてみよう」

きいて、きいて、きいてみよう①

五年 組 氏名 ( )

目標

一、インタビュ어의準備をしよう

① 順番 …

② 話題 …

③ 時間 …

④ 質問

五つ

二、役わり

聞き手 …

話し手 …

記録者 …

三、よいたずね方と思うのはどれだろう。

四、新出漢字

質	容	告
報	識	
確	準備	
属	応	

きいて、きいて、きいてみよう①(記入例)

五年 組 氏名( )

## 目標

インタビュ어의 仕方を 知り、インタビュ어의 準備を しよう。

一、インタビュ어의 準備を しよう

① 順番・・・ ○さん、▲さん、■さんの 順番

② 話題・・・ 例「休みの 日の 過ごし方」

③ 時間・・・ 1人 十分

④ 質問

五つ

例・休みの 日は、何時 ごろ 起きますか。・休みの 日に やる ことで、一番 好きな ことは 何 ですか。

など

## 二、役わり

聞き手・・・話し手に 語って ほしい ことが 引き出せる ように きく。答えを きいて、

次の

質問を する。

話し手・・・質問を きいて 答える。

記録者・・・記録 する。聞き 取れ なかったら 確かめる。(表情・口調・間も)

三、よいたずね方 と思う のは どれ だろう。

○質問者が「ぼくもサッカーを習っていて・・・」と自分のことを引き合いに出し、質問しているところ。

○別の聞き方をしてほしいとの要求に、しっかり答えてあげている。 など

## 四、新出漢字

質	報		確	属
容	識			
告			準備	応

**題材名** 「きいて、きいて、きいてみよう」（第2時／全3時間）  
**目標** 人柄が出るような質問をし、話し手の意図をとらえながら聞くことができる。  
**領域名** A 話すこと・聞くこと B 書くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             人がらがわかるような質問をしたり、話し手の内容をしっかり聞いたりしよう           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知り、ワークシートに書く</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 音読するする。 ④ P41の上を見て、記録者のメモの仕方について説明する。 ⑤ ⑤机を3人グループにして、インタビューを開始させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割の確認をする。1人目を開始する。</li> <li>・記録者はワークシートに書かせる。</li> </ul> ⑥ 1人目のインタビューが終わったら、記録者にすぐに発表メモ作りをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表メモの紙を配る。</li> <li>・記録者がうまくまとめられないときは、話し手や聞き手が教えてもよいことを伝える。</li> <li>・記録者に発表させる。</li> </ul> ⑦ インタビューをした感想を発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・。</li> <li>・教科書を見ながら、説明を聞く。</li> <li>・3人組になって、インタビューの1人目を開始する</li> <li>・記録者は発表メモ作りをする後の2人は見守ったり教えたりする。</li> <li>・感想を発表する。</li> </ul>
終末 5分	⑧ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑨ 次時の見通しを持つ。 次の時間は「次の時間は、インタビューの後半を行います」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

**指導のポイント**

- 記録者の役割が時間を左右すると思われる。実際のインタビューに入る前に、十分記録者の仕事について、説明し理解させる。その上で実際のインタビューに入ったほうが、混乱は少ない。児童の実態に合わせ、個別指導の必要がある児童には教師がついて指導した方がよい。
- 発表メモ作りは、記録者が書ける場合は、他の2人は見守るだけでよいが、うまくまとめられないときは、他の2人が助言するよう指導する。
- 早く終われば2回目もやってよい。

- ① 題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせ、シートに書かせる。

- ③ 音読させる。
- ④ P41 を見ながら、記録者の仕事内容について理解させる。

- ⑤ インタビュー1人目を行わせる。
- ⑥ 記録者に発表メモを書かせ、全体の前で発表させる。
- ⑦ 感想を発表させる。

きいて、きいて、きいてみよう

目標

人がらがわかるような質問をしたり、話し手の内容をしっかり聞いたりしよう。

一、記録者のメモ

- ・ 要点だけ
- ・ 数字や名前は正確に
- ・ 自分の印象と話し手の答えをまぜない

二、発表メモ

- ・ 数字、名前は正確に
- ・ 大切だと思ふことを取り出す
- ・ 話の内容を再構成
- ・ 自分の印象や感想を交え、表現を整えて

三、インタビューの感想

- ⑧ 宿題（音読・漢字）を確認する。

- ⑨ 次時の見通しをもつ。「次の時間はインタビューの後半を行います」

きいて、きいて、きいてみよう②  
五年組 氏名 ( )

W 08

目標

--

一、記録者のメモ

--

二、発表メモ

--

三、インタビュー中の記録者メモ

質問				
答え				
気づいたこと				

# きいて、きいて、きいてみよう②(記入例)

W 08

五年組 氏名( )

## 目標

人がらがわかるような質問をしたり、話し手の内容をしっかり聞いたりしよう。

## 一、記録者のメモ

- ・要点だけ
- ・数字や名前は正確に
- ・自分の印象と話し手の答えをませない

## 二、発表メモ

- ・数字、名前は正確に
- ・大切だと思うことを取り出す
- ・話の内容を再構成
- ・自分の印象や感想を交え、表現を整えて

## 三、インタビュー中の記録者メモ

質問	休日は何時に起きますか。			
答え	〇時ころ。			
気づいたこと	のんびりしていい。			

**題材名** 「きいて、きいて、きいてみよう」（第3時／全3時間）  
**目標** インタビューをして、それぞれの「きく」のちがいを考えることができる。  
**領域名** A 話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 インタビューをして、それぞれの「きく」のちがいを考えよう ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 2人目のインタビューを行わせる。 ・机を3人グループにする。音読する。 ・役割を確認する。 ・記録者は、19のワークシートを出させる。 ・記録者に、発表メモの紙を配る。 ④ 3人目のインタビューをする。 ⑤ それぞれの役割に応じた「きく」について考えさせ、ワークシートに書かせる。 ⑥ 発表させる。	・机を3人グループにし、2人目のインタビューをする。 ・3人目のインタビューをする。 ・役割に応じた「きく」について考え、ワークシートに自分の考えを書く。 ・発表する。
終末 5分	⑦ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑧ 次時の見通しを持つ。 次の時間は「漢字の広場」を学習します。	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しをもつ。

**指導のポイント**

- 実際のインタビューは、前回と同様である。今回は2回目であるから、スムーズに流れていくことが予想される。児童の実態に応じて、個別指導に入る。
- それぞれの役割に応じて「きく」ということは違う。しかし「どう違うかわからない」という児童もいるであろう。そのときは教科書P.42の下段の文を読ませたり、今までしてきたことを振り返らせたりし、自分の考えを書かせる。
- 「きく」について、どう違うかの意見発表では、賛成・反対など自分の意見を言うように助言する。答えは1つではないと考える。さまざまな意見の中から、一人ひとりが主体的に考えるようになればよいと考える。

- ①題材名「きいて、きいて、きいてみよう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせ、ワークシートに書かせる。

- ③インタビューの2人目を行わせる。
- ④インタビューの3人目を行わせる。

- ⑤それぞれの「きく」について考えさせ、ワークシートに書かせる。
- ⑥発表させる。
- ⑦仮名づかいの決まりが分かったか確認する。

きいて、きいて、きいてみよう  
目標

インタビューをして、それぞれの「きく」の  
ちがいを考えよう。

- 一、インタビューをしよう
- 二、役わりに応じた「きく」を考えよう

発 表 を 人 聞 く	記 録 者	話 し 手	聞 き 手
話し手の人柄や考え方を理解できるように 表くよく聞く。話し手を肯定的にとらえるよ 発聞うに聞く。等	数字や名前などを正確に聞く。何が大切 録かを考えながら聞く。自分の印象と話し 記手の答えを交えないようよく聞く。	答えの焦点がずれないように、質問の意図 しを考えながらよく聞く。等	人柄が表れるような質問を用意したから きそこを中心に聞く。答えに応じて質問を 聞変えることもあるので、よく聞く。等

きく、きく、きくみよう③

W 09

五年組 氏名 ( )

目標

--

一、インタビューをしよう

二、それぞれの役わりに応じた「きく」を考えよう。

手 き 聞	
手 し 話	
者 録 記	
人 聞 く 表 発	

きいて、きいて、きいてみよう③(記入例) W 09  
 五年 組 氏名 ( )

目標

一、インタビューをしよう

前回の続き 2番目3番目の人がやる。

二、それぞれの役わりに応じた「きく」を考えよう。

聞き	人柄が表れるような質問を用意したから そこを中心に聞く。答えに応じて質問を変える こともあるので、よく聞く。等
話し	答えの焦点がずれないように、質問の意図を考え ながらよく聞く。等
記録者	数字や名前などを正確に聞く。何が大切かを考 えながら聞く。自分の印象と話し手の答えを交 えないようよく聞く。等
人 を 聞 く	話し手の人柄や考え方を理解できるようによく聞 く。話し手を肯定的にとらえるように聞く。等

# 10

題材名 「漢字の広場①」（第1時／全1時間）

目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 教科書の漢字を使って、図書館の使い方を説明する文を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③漢字を読み、その後に音読させ、ワークシートに練習させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 「漢字をワークシートに書きましょう。」 ○ 書くときは、とめ・はね・はらい・おれや、書き順を確認しながら書く。 ④ 図書館の使い方を説明する文を、ワークシートに書かせる。 「図書館に初めてきた人に、ほんの借り方や読み方を説明する文をワークシートに書きましょう。」 「【本を借りるときは】、など場面を表す言葉を使って、相手に伝わるように書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」 ○ 難しい場合には、一文の一つでも教科書の言葉が使えていれば良い。 ○ すぐに書けた児童については、本の場所や種類を表す文を作らせても良い。例) 参考書と辞書は同じ棚にあります。	・音読し、読み方を覚える。 ・漢字をワークシートに書く。 ・図書館の使い方を説明する文をワークシートに書く。 ・書いたものを発表する。
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『言葉の意味がわかること』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ③ 既習の漢字の読み書きを確実に身に着けさせるために
- ・ 読みがわからない児童には、挿絵を手がかりに思い出すよう声をかける。知らない児童が多い場合は先に読みと意味を説明して、練習に時間をとる。
  - ・ イラストを基に場面や場所など順番に説明していくと、苦手な児童もどこを読んでいるかがわかる。
  - ・ 扱う漢字をカードなどに書いておくと黒板に書く手間が省ける。
- ④ 既習の漢字を生活の中で適切に使う力をつけるために
- ・ 国語辞典、漢字辞典が用意できる場合は、いくつかの漢字については辞書で調べさせてもよい。  
 (最新、分類など、漢字から意味を想像しやすい熟語がよい)
  - ・ できた文を紹介しあい、図書館の使い方が説明できているかどうか確認すると同時に、漢字が使えていたら丸をつける。漢字で書けるところがあったら「ここも漢字が使えるよ。」と促す。

## 板書例

① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「教科書の漢字を使って、図書館の使い方を説明する文を書こう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書の熟語を、一通り読み、書き、意味を教える。

静か「話をしないこと、シーンとしている」以内「上につく数字も入る、以上は？以下は？」のように意味や関連語について説明をしながら書くと理解しやすい。

④ 図書館の使い方を説明する文章を書かせる。

状況を決め、「本を借りるときは」「本を読むときは」などの言葉を使って、説明する文章を書く。

漢字の広場①  
教科書の漢字を使って、図書館の使い方を説明する文を書こう。

静か

順番

五さつ以内

・  
・

（児童の実態によっては、全て書かなくてもよい。説明に必要な言葉があったら黒板に書いて教える）

図書館の使い方を説明する文を書こう。

例（途中まで黒板に書き、続きをワークシートに書かせてもよい）

本を借りるときは、順番にならびます。借りられる本は、五さつ以内です。

本を読むときは、案内図を見ながら読みたい本を探します。席について、極力静かにすごします。

<すぐに書けない子への手だて>

- ・使わせたい言葉を（ ）にするなど、穴埋め方式で書かせる。
- ・すぐに書けた児童については、本の場所を説明する分を書かせて実際に図書館の人になったつもりで説明させても良い。

⑤ 次時の予告をする。

「次の時間は、『言葉の意味がわかること』を学習します。」

漢字の広場①

W  
10

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。


二 「本を借りるときは」「本を読むときは」など場面を表す言葉から始めよう。書ききれなかったらうらに書こう。


五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

教科書の漢字を使って、道案内する文を書こう。

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。

最新	季節	分類	配置
区別	伝記	参考書	辞書
児童書	百科事典	英語	戦争
便利	公共	案内図	要望
司書	借りる	順番	五さつ以内
説明	静か	席	極力

二 「本を借りるときは」「本を読むときは」「本を読みたいときは」など場面を表す言葉から始めよう。書ききれなかったらうらに書こう。

本を借りるときは、順番に並んで司書のところに持っていく  
ます。借りることができるのは、一人五さつ以内です。

本を読むときは、席で極力静かに読みます。

# 11

**題材名** 「見立てる」(第1時/全3時間)

**目標** 事実や感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

◎ 粘り強く文章全体の構成を捉えて、要約しようとするすることができる。

**領域名** 知識理解(2)情報の扱い方 ア C 読むこと (1)ア

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 要旨という言葉を知っていますか。 文章の内容の中心となる事柄や筆者の考えの中心となる事柄 ② 題材名「見立てる」を黒板に書く。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">文章全体の構成を考え、「見立てる」の要旨をまとめよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・要旨という言葉の意味を知る (教科書p46右下)  ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 33分	④ 「見立てる」を読み、事例や段落構成に着目して筆者の考えを捉える。 ・段落はいくつありますか。→6つ ・大きくいくつに分かれていますか。→3つ ・ほとんどの段落で、くり返し使われている言葉は何でしょうか。 →見立てる、想像力 ・筆者の考えがまとめられているのは、どの段落でしょうか。→⑥ ⑤ 文章の要旨をまとめる。 「見立てるというのはどういうことですか。」 「あや取りの例を一つ具体的に挙げてみましょう。」 「筆者が言いたい⑥をもう少し短くまとめられますか。」 ○ これら三つを簡潔に繋ぐと、要旨が出来上がる。児童の実態に応じて教師が主導し、要旨の文章を作れるようにすると良い。 ○ 字数を制限すると発展的な学習につなげることができる。	・教科書p46-47をみながら、教師の問いかけに対する答えを考える。  ・教師の問いかけに対する答えの該当箇所を探し、要旨をまとめるためにふさわしい文章の形にする。
終 2分	⑥ 筆者の考えを捉えたうえで、自分の考えを伝え合う。 「筆者は想像力があっての「見立てる」という行為だと言っていますが、皆さんはどう思いますか。」 ○ 答えにくそうな場合は、あや取り以外の事例を考えさせても良い ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は「言葉の意味がわかること」の学習をします。」 「筆者が伝えたいことが何かを考えながら、読んでおきましょう。」	・友達の見解や考えを聞きながら自分の考えをさらに広める。  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

・説明文の構成や特徴を(始め、中、終わりに分かれること、終わりの部分に筆者の考えがまとめられていること、最初に持論を述べたうえで、最後にもう一度念押しをされていることが多いこと、など。)をおさえる。

・最初から要旨を書くのは難しいので、一つずつ質問して文章に書き表すことを繰り返し、少しずつ要旨を書き表すことができるようになるようにしたい。展開の⑥は実態に応じて省略しても良い。

# 板書例

① 「要旨」という言葉の意味をおさえる。

② 題材名「見立てる」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。  
・「文章全体の構成を考え、「見立てる」の要旨をまとめよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 「見立てる」を読み、筆者の考えを捉える。  
・教科書P.46-47を教師が読む。(児童に読ませても良い)  
・形式段落、意味段落の個数を確認する。  
・何度も出てくる言葉に着目させる。  
・筆者の考え(主張)に注目させる。

⑤ 文章の要旨をまとめさせる。  
・3段階に分けて発問を繰り返しながら、文章に書き表させる。  
1) 「見立てる」ことの説明  
2) あや取りにおける「見立てる」具体例  
3) 筆者の主張の要約

<p>要旨とは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事から</li><li>・筆者の考えの中心となる事から</li></ul> <p>「見立てる」</p> <p>文章全体の構成を考え、「見立てる」の要旨をまとめよう。</p>	<p><b>要旨</b></p> <p>あるものを別のものとして見るということ。「見立てる」という。そこには想像力が働いている。あや取りの形を田んぼや油あげなどと結びつけることも「見立てる」例の一つだ。このように、見立てるという行為は、自然や生活と深く関わっている私たちの想像力に支えられているのである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今までそんな風に考えたことがなかった</li><li>・なるほど、と思った。</li><li>・満月の中に見えるのが日本はウサギの餅つきというけど、国によってちがうのも「見立てる」だと思った</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・だん落は、全部で六つある</li><li>・大きく三つの場面に分かれている</li><li>・見たてる、想像力、が何度もくり返し出てくる</li><li>・筆者の考えは、⑥(終わり)に出てくる</li></ul>
---	---	---

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【言葉の意味がわかること】の学習に入ります。」  
「筆者が伝えたいことは何かを、考えてながら読んでおきましょう。」

⑥ 筆者の考えを捉えたうえで、自分の考えを伝え合う。  
「皆さんは、野口さんの考えを知って、どう思いましたか。」  
児童によって考え方が異なることを楽しんだり、友達の考えを聞いて自分の考えが深まったりすることを楽しませる。

五年組 氏名（

）

要旨とは  
今日のめあて

- ・段落は（ ）つ
- ・大きく（ ）つの場面
- ・（ ）と（ ）がくり返し使われている
- ・筆者の考えは、（ ）にまとめられている

★要旨作りにチャレンジ★

---

---

---

---

---

---

---

---

五年 組 氏名 ( )

○筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事から

○筆者の考えの中心となる事から

要旨とは  
今日のめあて

文章全体の構成を考え、「見立てる」の要旨をまとめよう。

- ・段落は ( 六 ) つ
- ・大きく ( 三 ) つの場面
- ・ ( 見立てる ) と ( 想像力 ) がくり返し使われている
- ・筆者の考えは、 ( ⑥ ) にまとめられている

★要旨作りにチャレンジ★

あるものを別のものとして見るということ。「見立てる」という。そこには想像力が働いている。あや取りの形を田んぼや油あげなどと結びつけることも「見立てる」例の一つだ。このように、見立てるという行為は、自然や生活と深く関わっている私たちの想像力に支えられているのである。



# 12

**題材名** 「言葉の意味が分かること」 (第2時/全3時間)

**目標** 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。  
 ◎ 粘り強く文章全体の構成を捉えて、要約しようとするすることができる。

**領域名** 知識理解 (2) 情報の扱い方 ア  
 C 読むこと (1) ア・カ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 要旨という言葉覚えていますか。 筆者の考えを短く、文章に表すこと ② 題材名「言葉の意味が分かること」を黒板に書く。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・要旨の確認をする  ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 33分	④ 「言葉の意味が分かること」を読み、事例や段落構成に着目して筆者の考えを捉える。 ・初め、中、終わりの3つの部分に分けてみましょう。 ・「歯でくちびるをふんじやった。」について、原因とその結果を整理しましょう。 ・「朝食にスープを食べました。」については、どうですか。 ⑤ 文章の要旨をまとめる。 「筆者は言葉をどのように捉えることが大切だと言っていますか。」 「筆者が一番この文章で伝えたいことはなんですか。」 「この文章の要旨を150字以内でまとめられますか。」 ○ これらを確認してから始めると、要旨が書きやすい。児童の実態に応じて教師が主導し、要旨の文章を作れるようにすると良い。また書き始めや書き終わりを共通にすると書きやすい。 ○ 字数制限が難しい場合には、好きな字数で書かせても良い。 ⑥ 作った要旨を発表しあい、考えを深める。 「友達と同じ部分を書いていた人はいますか。」 「自分が選んでいない言葉や文を見つけることができましたか。」 ○ 児童がそれぞれ一人で書くことが難しい場合は、同じものを声に出して皆で音読しても良い	・教科書p48-53をみながら、教師の問いかけに対する答えを考える。  ・教師の問いかけに対する答えの該当箇所を探し、要旨をまとめるためにふさわしい文章の形にする。  ・友達の意見や考えを聞きながら自分の考えをさらに広める。
終 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は自分の意見を文章にまとめる学習をします。」 「似たような経験をしたことがないか、考えておきましょう。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・前時「見立てる」で練習した要旨づくりの2回目である。前時の学習を生かしながら書かせたい。
- ・文章の理解が難しい児童に対しては、筆者の主張が書かれている部分を明示し、そこから必要な言葉を精査させるなど、工夫したい。
- ・次時に向けて、原因と結果の概念については必ず押さえておきたい。

## 板書例

② 題材名「言葉の意味が分かること」を黒板に書く。

④ 「言葉の意味が分かること」を読み、筆者の考えを捉える。  
・教科書P. 48-53を教師が読む。(児童に読ませても良い)  
・はじめ、中、おわりを確認する。  
・事例の原因と結果を考える。

③ 本時の目標を児童に知らせる。  
・「「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

⑤ 文章の要旨をまとめさせる。  
発問を繰り返しながら、文章に書き表させる。  
1) 筆者の考える言葉の捉え方  
2) 筆者の主張の要約

児童の 作品や 教師例	要旨	「歯でくちびるをふんじやった」 原因…自分が覚えた言葉を、別の場面で使おうとした 結果…うまくいかなかった 「朝食にスープを食べました。」 原因…英語と同じ感覚で「食べる」という言葉を使った 結果…やや不自然に聞こえた	「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめよう。	「言葉の意味が分かること」 ・内容の中心や考えの中心
		← 言葉の意味を一つの「点」としてとらえるのではなく、 広がりのある「面」としてとらえる。 わたしたちが自然だと思っているものの見方が決して 当たり前ではないことに気づかせてくれる。		

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、自分の意見を文章にまとめる学習をします。」  
「似たような経験をしたことがないか、考えておきましょう。」

⑥ 作った要旨を発表し合い、考えを深める。

「友達と同じ部分を書いていた人はいましたか。」

「自分が選んでいない言葉や文を見つけることができましたか。」

友達の考えを聞いてより良い要旨が作れるかもしれないことを考えさせる。





# 13

**題材名** 「文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう」（第3時／全3時間）

**目標** 文章を読んで理解したことにもとづいて、自分の考えをまとめることができる。  
 ◎ 学習課題に沿って、筆者の考えに対する自分の考えを発表しようとするすることができる。

**領域名** 知識理解（2）情報の扱い方 ア  
 A 話すこと・聞くこと （1）エ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 前の授業で先生が作った「言葉の意味が分かること」の要旨を読んでもみます。思い出しながら、聞きましょう。 ② 題材名「文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう」を黒板に書く。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分の考えを経験や例と共にまとめ、発表しよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。	・「言葉の意味が分かること」の概要を思い出す。  ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	④ 自分の考えを、経験や例と結びつけてまとめる方法を知る。 ・筆者の考えに、「その通りだ」「そうかもしれない」と思ったところはどこですか。 ・似たような言葉の間違いを経験したことはありますか。（もしくは、似たような言葉の間違いの例を考えてみましょう。） ⑤ 自分の考えをまとめ、文章に書き表す。 「文章を読んで、その通りだ、そうかもしれないと感じたことを書きましょう。」 「次に、似たような経験や例を考えて、書きましょう。」 「最後に、だから自分はこんな風にしていきたい、こんなことに気をつけたい、と考えたことについて書きましょう。」 ○ ④で共有した共感や納得、経験や考えうる事例を生かしながら、自分の考えを文章にまとめられるようにしたい。 ⑥ 自分の考えを発表し、さらに深める。 「まとめた自分の意見を発表しましょう。」 「友達の意見を聞いて、同じところや似ているところ、違うところを見つけることができましたか。」 ○ 相違点だけでなく、筆者の意見のように児童が友達の意見に共感したり納得したり、疑問を持ったりする気持ちを大切にす。	・教科書の文章や場面のどの部分を明確にしなが、自分の意見を持つ。 ・似たような経験や身近に起こりそうな事例を考える。  ・教師の問いかけに対して、自分なりの言葉を使い、文章に書き表す。  ・友達の意見や考えを聞きながら自分の考えをさらに広める。
終 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は和語・漢語・外来語の学習をします。」 「3つの種類に分かれる日本語の言葉を考えてみましょう。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・意見文が書けない事には発表し、共有させることができないので、⑤以降に時間をかけたい。実態に応じて、手順を説明しながら、一つずついっしょに文章に書かせても良い。
- ・手順1の理由は、上位の児童のみでも構わない。

## 板書例

② 題材名「言葉の意味が分かること」を黒板に書く。

① 「言葉の意味が分かること」の要旨を確認する。  
「前の時間に勉強したことを思い出してみましょう。」

③ 本時の目標を児童に知らせる。  
・「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 自分の考えを経験や例と結びつけてまとめる方法を理解させる。  
・手順を一つずつ教師の範例と共に確認する。

⑤ 自分の考えをまとめ、文章に書き表させる。  
・一人一人に声をかけながら、書き進められるように支援する。

「文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう」

自分の考えを経験や例と共にまとめ。発表しあおう。

手順一 その通りだ、そうかもしれない、と思ったところ  
を理由といつしよに書く

手順二 似たような経験や例を原因と結果で書く

手順三 自分がこれから気をつけたいことやこんな風にし  
ていきたいと思うことを書く

○○さんの考え  
・（手順三の部分）  
△△さんの考え  
・（手順三の部分）

右で板書した児童それぞれの考えをもとに、感想  
を聞いたり、多数の児童の考えの共通点を探すな  
どしたものを書いたりしても良い。

⑥ 考えを発表し合い、自分の考えを深める。

「友達と同じところや似ているところ、違うところを見つけることができましたか。」  
友達の考えを聞いて、共感したり納得したり、疑問持ったりする気持ちを大切にする。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、和語・漢語・外来語の学習をします。」  
「3つの種類に分かれる日本の言葉をみんなで考えてみましょう。」

文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう

W 13

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

筆者の考えに共感したところ

似たような経験や例

「のようになりたい」、「のようなくと」気をつけたい

★友だちの考えを聞いて★同じところやちがうところは？

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

自分の考えを経験や例と共にまとめ、発表しよう。

### 筆者の考えに共感したところ

私は、五十三ページの「言葉の意味を面として考えることは、ふだん使っている言葉やものの見方を見直すことにもつながります。」の部分が一番筆者の意見に納得しました。

### 似たような経験や例

私も、wear は「着る」だと思いこんでいて、お母さんに「くつを着てもいい?」と聞いたことがあったからです。これは、eat の話と同じだな、と思いました。

### 「このようにしていきたい」、「このように」に気をつけたい

そのため、これからは日本語と外国語を考える時には、知っている言葉の意味を点で考えるのではなく、他にもっと良い言い方はないかな、などと一度考えてから言いたいと思いました。

### ★友だちの考えを聞いて★同じと「ろやちがう」と「ろは?」

- ・似たような例のところが私と似ていた。
- ・言葉のことだけでなく色々なものの見方を言っていた

# 14

**題材名** 「和語・漢語・外来語」(第1時/全2時間)

**目標** 和語・漢語・外来語の違いと区分けをし、使い分けを確かめることができる。  
和語・漢語・外来語の由来を理解することができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「和語・漢語・外来語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">和語・漢語・外来語の感じのちがいを考えよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書く。
展開 35分	③ 範読後、音読する。 ④ P.58上段の(1)(2)を読む。同じ内容を表しているのに、感じが違うのはどうしてだろう。 ⑤ P.58の下段からp.59の上段を読む。和語・漢語・外来語について知ろう。 ・和語について説明する。 ・漢語について説明する。 ・外来語について説明する。	・範読を聞いた後、音読する。 ・感じの違いを話し合う。 ・ワークシートに書き込む。 ・ワークシートにまとめたことを発末表する
終末 5分	⑥ 新出漢字の練習をする ⑦ 宿題(音読・漢字)の確認する。 ⑧ 次時の見通しを持たせる 「次の時間はp.59の下段の問題について学習します」	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 使われている言葉の相違、それから受ける印象の相違などといった観点で読み比べさせる。

- ・帰省—ふるさとで過ごす・相当—かなり・混雑—混み合う
- ・ラッシュ—人が多く押し寄せる

○ 音で読むものは平仮名であっても漢語、訓で読むものは和語である。児童は平仮名で書かれているものは和語だと思い、漢字だけで書かれているものは漢語だと誤って理解することが多い。特に注意して指導する必要がある。

○ 外来語は日本語であり、発音も意味も違っていることを滞在国での経験を生かしながらか話し合うのもおもしろい。

板書例

- ①題材名「和語・漢語・外来語」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせ、ワークシートに書き込ませる。

- ③範読後、音読する。
- ④p.58 上段の(1) (2)を読み、感じの違いについて話し合う。

- ⑤P. 58の下段からP. 59の上段を読む  
由来について説明する。

和語・漢語・外来語  
目標

和語・漢語・外来語の感じの違いを考えよう

一、和語・漢語・外来語の由来

- ① 和語・・・漢字を訓で読むもの  
例ふるさと、過ぎす、人、多い、かなり  
・もともと日本にあった言葉
- ② 漢語・・・漢字を音で読むもの  
例帰省、相当、混雑、予想  
・古くに中国から入った言葉  
・日本で漢字を組み合わせて作った音読み  
みの言葉
- ③ 外来語・・・片仮名で書くもの  
例ラッシュ  
・近代になってから日本に入ってきた言葉  
・日本人が発音しやすいように変形したり日本で作られたりしたものもある

二、新出漢字

過ぎす 混雑 可能 出版  
禁止 貸す

- ⑥新出漢字の練習をする。
- ⑦宿題（音読・漢字）の確認をする。

⑧⑧ 次時の見通しを持たせる

目標

Empty rectangular box for target setting.

一、和語・漢語・外来語をまとめよう

① 和語

例

② 漢語

例

③ 外来語

例

二、漢字練習

過			幹		
混			雜		
略			測		
禁			貸		
能					



# 15

**題材名** 「和語・漢語・外来語」 (第2時/全2時間)

**目標** 和語・漢語・外来語の違いと区分けをし、使い分けを確かめることができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「和語・漢語・外来語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">和語・漢語・外来語の感じのちがいを考えよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書く。
展開 35分	③ 範読後、音読する。 ④ P.59の下段を読み、和語と漢語で意味がどう違うのか考えよう ・生物ーなまもの - セイブツ ・色紙ー色紙 - シキシ ・風車ーかざぐるま - フウシャ ⑤ 教科書以外の漢語や外来語を探そう。 ※辞書を使ってよい。 1 和語と漢語で意味の違いがあるもの。 ・大家ーおおやータイカ ・目下ーめしたーモッカ ・初日 - はつひ - ショニチ 2 和語と漢語で意味がほとんど同じもの ・草原ーくさはらーソウゲン ・年月ーとしつきーネンゲツ 3 外来語と和語・漢語 ・ショッピングー買い物 ・ベースボールー野球	・範読を聞いた後、音読する。 ・和語と漢語の意味の違いを考える。 ・ワークシートに書き込む ・漢語や外来語の意味を考えながら探し、ワークシートに書く。 ・ワークシートにまとめたことを発表する
終末 5分	⑥ 宿題 (音読・漢字) の確認する。 ⑦ 次時の見通しを持たせる 「次の時間は日常を十七音でについて学習します」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 訓読みと音読みを取り違えた場合に、どんな感じがするか、意味がどう変わるかということにふれておくと、文脈の中で適切な意味を考えることにつながる。

○ 教科書の問題のように、同じ漢字表記で和語と漢語で意味の違い言葉だけでなく、意味が変わらない場合や、外来語を和語や漢語に置き換えたものも取り上げ、言語感覚を豊かにしていきたい。

板書例

①題材名「和語・漢語・外来語」黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせ、ワークシート

③範読後、音読する。

④p.59 下段を読み、和語と漢語では  
意味が違うことを考えさせる。

⑤文中以外の和語・漢語・外来語を探す。

「和語・漢語・外来語」

目標

和語・漢語・外来語の感じのちがいを考えよう。

一、和語と漢語の意味の違い

	和語	漢語
生物	なまもの	セイブツ
色紙	いろがみ	シキシ
風車	かざぐるま	フウシャ

二、ほかにも漢語や外来語を探そう

①和語と漢語で意味の違いのあるもの

大家（おおや、タイカ）  
目下（めした、モツカ）  
初日（はつひ、シヨニチ）

②和語と漢語で意味がほとんど同じもの

草原（くさはら、ソウゲン）  
年月（としつき、ネンゲツ）

③外来語と和語・漢語

ショッピング 買い物  
ベースボール野球

⑥宿題（音読・漢字）を確認する。

⑦⑦ 次時の見通しを持たせる

目標

--

一、漢語と和語で意味の違い

	和語	漢語
生物		
色紙		
風車		

二、ほかにも探そう

①和語と漢語で意味の違うもの

②和語と漢語で意味がほとんど同じもの

③外来語と和語・漢語

# 和語・漢語・外来語② (記入例)

五年組 氏名 ( )

W 15  
( )

## 目標

和語・漢語・外来語の意味の違いを考えよう。

## 一、漢語と和語で意味の違い

	和語	漢語
生物	なまもの・・・さしみや魚など	セイブツ・・・生き物
色紙	いろがみ・・・色のついた紙	シキシ・・・サインをもらう紙
風車	かざぐるま・・・子どものおもちゃ	フウシヤ・・・大きな羽のついた家

## 二、ほかにも探そう

### ①和語と漢語で意味の違うもの

- 大家 (おおや・タイカ)
- 目下 (めした・モツカ)
- 初日 (はつひ・シヨニチ)

### ②和語と漢語で意味がほとんど同じもの

- 草原 (くさはら・ソウゲン)
- 年月 (としつき・ネンゲツ)

### ③外来語と和語・漢語

- ショッピング・買い物
- ベースボール・野球

# 16

題材名 「日常を十七音で」 (第1時/全1時間)

目標 ◎日本独特のリズムに親しみ、俳句のリズムを用いて日常の一コマを表現することができる。

領域等 B 書くこと (2) イ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「日常を十七音で」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標の横に、活動内容を書く。 見たこと・感じたことを俳句で表そう</p> <p>③ 次の言葉を板書しながら、韻律習得だけでなく俳句作りを通して「より良い言葉を探す」楽しみがあることを伝える。 ・ 言葉を選びすぎる・・・より良い言葉を選ぶ。 ・ 芸術的俳句・・・鑑賞する値打ちがある俳句。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p 60を読み、本時の目標と活動内容を知る。</li> <li>・ 単なる「五七五作り」活動ではなく、「言葉を精選するおもしろさ」が含まれていることを知る。</li> <li>・ 心情ではなく、情景を詠む。</li> <li>・ 俳句の特徴を整理する。 (「拍数」は、手を叩いて数えてもよい。例:「今日」は2拍、「器用」は3拍。)</li> </ul>
展開 35分	<p>③ 「虹の橋～」を音読して、俳句の特徴を板書する。 ・ 五七五 (十七音は「字数」ではなく「拍数」) ・ 季語 (四季を表す言葉は一語だけである) ・ 情景 (直接感情を表す言葉を使わずに、心に映る風景を詠む。)</p> <p>④ p 61を通読し、「雨の中～」を板書して③を再確認する。 また、「喜怒哀楽」を直接表す言葉は使われないことに気づかせる。 ・ 雨の中あじさいたちがゆれている (「たち」による擬人化) (季語) (感情の言葉なし) (十七音) ・ 班ごとに音読させて、リズムを感じ取らせる。</p> <p>⑤ 「雨の中～」を詠む作者の気持ちを考え、意見交換する。 (意見交換させることで、感情を表す言葉(喜び、楽しさ、悲しみ、寂しさなど)がなくても、気持ちを読み込むことができることに気づかせる。 また、「～踊りだす」「～子どもが～」などとの比較によって、印象の違い、言葉の効果に気づかせる。</p> <p>⑥ 俳句を創り、作品交流する。 ・ p 62を通読し、p 61などの季語を使って十七音で俳句を作る。 ・ 「かな」「や」などの「切れ字」や歴史的仮名遣いを使うと「俳句らしく」なるが、「指導外」とする。(中学校3年で学習する)</p> <p>・ 創作できない児童には、「雨の中～」やp 62下段などの句の一部を、「より良い言葉」に入れ替えて作り直させる程度でよい。 ・ 創作では、「定型」で、季節を表す言葉(歳時記による正しい「季語」でなくてもよい)が一語入ればよいこととする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あじさい」を擬人化することで、情景(心の目で見る風景)を詠んでいることに気づく。</li> <li>・ 「あじさいたち」を見ている作者の気持ちを考え、意見交換する。</li> <li>・ 「たち」「ども」の接尾語の違いで、幼さや優しさ、可愛らしさ、荒々しさ、粗雑などを、また、「揺れる」「踊る」などの動詞の違いで擬人化された表情とともに気持ちまでも違ってくることに気づく。</li> <li>・ 「言葉を選ぶこと」で、情景だけでなく作者の置かれた状況や心情までもが異なって捉えられることを知る。</li> <li>・ 交流を通じて言葉の幅を広げる。</li> </ul>
終末 5分	<p>⑥ 新出漢字の練習をさせる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次は、『古典の世界』」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四つの新出漢字「句」「常」「桜」「序」の注意点を聞く。</li> <li>・ 次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・ 俳句と川柳の違いが不明確になっている現代であることから、その差異については触れない。

板書例

① 題材名「日常を十七音で」を黒板に書

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「見たこと・感じたことを五七五で表そう」

③ 学習の意義  
・五音、七音は、俳句だけでなく、「椰子の実」（島崎藤村）、「浜辺の歌」（林古溪）等の近代詩、小中学校の校歌、国歌を含む短歌など、日本を代表する韻律となっている。五七五の韻律の体感は、中学校での短歌・俳句の学習の基礎となる。  
・韻律体感の俳句作りだけでなく、「言葉を厳選する」姿勢の涵養が大きな目的の一つである。

⑤ 俳句の基本(補習校では)  
・定型（自由律には触れない）  
・季語（歳時記には触れない）  
・情景（直接、感情を表す言葉は使わない）

日常を十七音で

目標 見たこと・感じたことを俳句で表そう

- ・選りすぐる・・・より良いものを選ぶ
- ・芸術的・・・鑑賞する値打ちがある

俳句の特徴

- ・五七五・・・十七音（字数ではなく「拍数」）
- ・季語・・・四季を表す言葉（一つだけ）
- ・情景・・・心感じる風景（写真を撮るよう）

情景の変化（言葉を入れ替える）

雨の中 あじさいたちが ゆれている

雨の中 あじさいたちが 踊りだす

雨の中 あじさいどもが 踊りだす

俳句を創ろう

新出漢字

句 常 序 桜

④ 五七五のリズムに親しみ、より良い言葉を探す楽しさを味わう。

⑥ 新出漢字の注意点。（ハネ：句の二画目、常の十画目、序の七画目）（トメ：桜の二画目）

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、「古典の世界（一）」

日常を十七音で

w  
16

五年 組 氏名( )

今日の学習のめあて

□俳句の特徴をまとめよう。

□情景の変化を味わおう。

◇俳句を創ろう

日常を十七音で(記入例)

w  
16

五年 組 氏名( )

今日の学習のめあて

見たこと・感じたことを俳句で表そう

□俳句の特徴をまとめよう。

五七五 十七音の拍数

季語 四季を表す言葉を一つだけ

情景 個々感じる風景を写真をとるように

□情景の変化を味わおう。

雨の中 あじさいたちが ゆれている

雨の中 あじさいたちが おどりだす

雨の中 あじさいどもが おどりだす

◇俳句を創ろう

# 17

**題材名** 「古典の世界(一)」 (第1時/1時間)

**目標** さまざまな物語を味わい、昔の人々の心にふれることができる。  
言葉のひびきやリズムを味わいながら、声に出して読むことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「古典の世界(一)」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">言葉のひびきやリズムを味わいながら、声に出して読もう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書く。
展 開 35 分	③ 題からどんなことを想像したか発表させる。 ④ 古典について説明する。 ⑤ 範読し、続いて児童に音読させる。 ⑥ 3つの物語の中から好きなものを選び、視写させる ⑦ その物語を選んだ理由をワークシートに書かせる。 ⑧ 選んだ物語を暗記させる。 ・時間を設定する。 ⑨ それぞれの物語に分かれ、発表会をする。 ・教科書を時々見ながら発表させてよい。 ⑩ 古典を読み、昔の人々の心にふれた感想を書かせ、発表させる。	・題を見て、どんなことを想像したか発表する。 ・古典の説明を聞く。 ・音読する。 ・ワークシートにていねいに書く ・選んだ理由をワークシートに書く。 ・選んだ物語を暗記する。 ・暗記した物語を同じ仲間と発表する。わからないところは教科書を見ながら発表する。 ・ワークシートに感想を書く。
終 5 分	⑪ 新出漢字の練習をする ⑫ 宿題（音読・漢字）の確認する。 ⑬ 次時の見通しを持たせる	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 1000年以上も昔の人々が書いた物語なのに、今でも愛されている普遍的な物語である。なぜ引き継がれてきたのかなど、考えさせるとおもしろい。
- 物語の内容を理解することも大切ではあるが、児童の発達段階によっては、言葉のひびきやリズムをとりながらの音読や暗記に楽しさを見出す児童もいる。古典のよさの一つであるため、認めていく方向で指導する。
- この時間内だけでは暗記することは難しい。宿題で習熟を目指すよう児童に話す。次回の最初に簡単な発表会を設けてもよい。

# 板書例

- ①題材名を黒板に書く。
- ②本時の目標を黒板に書く。

- ③題名から想像できることを発表する。
- ④古典について説明する。

⑤範読し、児童に音読させる。

- ⑥好きなものを視写させる。
- ⑦選んだ理由を書かせる。

「古典の世界（一）」  
目標

言葉のひびきやリズムを味わいながら  
声に出して読もう

□題名から想像できること。

- ・竹を取るおじいさんの話
- ・だれかのおうちの話

□どんなお話が好きかな。どんなところ？

- ・平家物語は、濁った音の響きがいい
- ・徒然草は、柔らかい雰囲気がある

◇書き写そう

◇暗記して音読しよう。

発表会

- ⑧選んだ物語を暗記させる。
- ⑨発表会をする。
- ⑩物語に分かれて発表会をする。

- ⑪新出漢字の練習をする。
- ⑫宿題の確認をする。
- ⑬次時の見通しを持たせる。

五年 組 氏名)

今日の学習のめあて

□好きな古典を書き写そう。

□選んだ古典のどんなところが好きかまとめよう。

五年 組 氏名( )

今日の学習のめあて

言葉のひびきやリズムを味わいながら、声に出して読もう。

□好きな古典を書き写そう。

※丁寧に書き写す

□選んだ古典のどんなところが好きかまとめよう。

※言葉の響きやリズムに着目したり、奥深い意味を持った言葉の使い方などに着目できるとよい

# 18

**題材名** 「目的に応じて引用するとき」(第1時/全1時間)

**目標** 情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。

◎ 進んで情報と情報との関係づけのしかたを理解し、学習課題に沿って、引用カードを書くことができる。

**領域名** 知識技能(2)情報の扱い方 イ B 書くこと (1)エ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「目的に応じて引用するとき」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             同じ文章から、目的に合わせて引用カードを書いてみよう。           </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 資料などを使って調べる時に気をつけることを知る。 「資料からメモを取る時に気をつけることがいくつかあります。」 ・目的をはっきりさせる ・目的にあった部分を、正確に書き写す ・出典となる本の情報を記録する ④ 教科書の文章を理解する。 「文章を読んで、どのようなことが書かれているのか考えましょう。」 「第一段落に、どのようなことが書かれていましたか。」 「第二段落に書かれている3つの森林の働きを見つけることができましたか。」 ○例示されている文章の構成と内容をしっかりと確認する。児童が読み取れない場合は、教師が説明したり、大切な言葉部分(二酸化炭素を吸収する、水不足や洪水を防ぐことができる、土をしっかりと抱え込む)に赤線を引かせたりしても良い。 ⑤ 木原さんの引用カードを見ながら、引用カードの書き方を知る。 「調べる目的が日本の森林の特徴ということは、どの段落を見れば良いですか。」 「その中で、大切な文章が2つ引用されています。読んでみましょう。」 「出典はどこに書いてありますか。」	・教師の説明を聞きながら、ワークシートに記入する。 ・教師の問いかけに対して、自分なりの言葉を使い、文章に書き表す。 ・友達の見解や考えを聞きながら自分の考えをさらに広める。
終 2分	⑥ 目的を「水害を防ぐ点」に変えて、引用カードに書く。 「水害を防ぐことについて書いてある場所はどこですか。関係している文章を2つ引用しましょう。」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間はみんなが過ごしやすい町への学習をします。」 「住んでいる町の中に見られる工夫を探してきましょう。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

・意見文が書けない事には発表し、共有させることができないので、⑤以降に時間をかけたい。実態に応じて、手順を説明しながら、一つずついっしょに文章に書かせても良い。

# 板書例

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「同じ文章から、目的に合わせて引用カードを書いてみよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 資料などを使って調べる時に気をつけることを知る。  
・教科書p70下段を見ながら、ワークシートにまとめる。

④ 教科書の文章を読み取らせる。  
・段落に何が書かれているのか、確認する。  
・3つの働きをおさえる。  
・児童が読み取れない場合には、大事なところに下線を引かせる。

<p>調べる目的</p> <p>水害を防ぐ点からみた森林の働き</p> <p>引用したい部分</p> <p>「森林の土は、水をよくしみこませ、ゆっくりと川に流す。」 「ダムと同じように、川の水の量を調整してくれるので、水不足やこうぜいを防ぐことができる。」</p> <p>出典</p> <p>遠山里子「森林の働き」大空書店、2020年、52ページ</p>	<p>書き留めるときに気をつけること</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 目的をはっきりさせる</li><li>・ 目的にあつた部分を、正確に書き写す</li><li>・ 出典となる本の情報を記録する</li></ul> <p>第一段落：日本の森林の特ちょう</p> <p>第二段落：森林の働き</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 二酸化炭素をきゆうしゆうする働き</li><li>② 水不足やこうぜいを防ぐ働き</li><li>③ 山の土をしっかりとかかえこむ働き</li></ol>	<p>「目的に応じて引用するとき」</p> <p>同じ文章から、目的に合わせて引用カードを書いてみよう。</p>
---	---	--

⑤ 木原さんの引用カードを見ながら、引用カードの書き方を知る。

⑥ 目的を「水害を防ぐ点」に変えて、引用カードに書かせる。  
「水害を防ぐことについて書いてある場所はどこですか。関係している文章を2つ引用しましょう。」

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【みんなが過ごしやすい町へ】の学習をします。」  
「住んでいる町の中に見られる工夫を探してみましよう。」

目的に応じて引用するとき

W 18

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

・ ( ) をはっきりさせる

・ 目的にあった部分を ( ) に書き写す

・ ( ) となる本の情報を記録する

第一段落：日本の森林の ( )

第二段落：森林の ( )

①

②

③

調べる目的

引用したい部分

出典

, 52 ページ

目的に応じて引用するとき

W 18

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

同じ文章から、目的に合わせて引用カードを書いてみよう。

- ・ (目的) をはっきりさせる
  - ・ 目的にあった部分を (正確に) に書き写す
  - ・ (出典) となる本の情報を記録する
- 第一段落：日本の森林の (とくちよう)
- 第二段落：森林の (働き)

- ① 二酸化炭素をきゆうしゆうする働き
- ② 水不足やこうずいを防ぐ働き
- ③ 山の上の土をしっかりとかかえこむ働き

調べる目的

水害を防ぐ点からみた森林の働き

引用したい部分

「森林の土は、水をよくしみこませ、ゆっくりと川に流す。」

「ダムと同じように、川の水の量を調整してくれるので、水不足やこうずいを防ぐことができる。」

出典

遠山里子「森林の働き」大空書店、2020年、52ページ

# 19

**題材名** 「みんなが過ごしやすい町へ」(第1時/全3時間)

**目標** 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

◎ 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しを持って報告する文章を書こうとすることができる。

**領域名** 知識技能(1)カ B 書くこと (1)イ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「みんなが過ごしやすい町へ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調べたことを報告する文章の書き表し方を知ろう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 見つけてきた身の回りの工夫を発表しあう。 「住んでいる町の中に見られる工夫を見つけることができましたか。」 ○宿題として探してくることが難しい場合は、教師がいくつか写真などともに例示したり、p72の挿絵から探させたりする。 ④ 調べ方を知る。 「よりくわしく調べる時には、どのような方法があるのでしょうか。」 ・インタビュー ・アンケート調査 ・実際に見て調べる ・本や資料で調べる ・インターネットで調べる ⑤ 報告する文章の構成を考える。 「調べたいことについて報告する文章を書くために、書き方を確認します。」 ○教科書p.74 組み立てメモで構成を確認し、「1. 調べたきっかけ」と「2. 調べ方」が実際にどのような文章に書き表されているのかを音読しながら確認する。	・各自持ち寄ったものを発表し、共有する。(もしくは、教科書の挿絵から考えられる町の中の工夫を探す) ・ワークシートに記入する。 ・教科書の該当箇所を音読しながら、文章の構成と書き表し方を確認する。
終 2分	⑥ きっかけと調べ方について真似しながら文章を書き始める。 「自分の調べたいことに置き換えながら、真似して文章に書き表してみましょう。」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は調べて分かったことを文章に書き表す学習をします。」 「住んでいる町の中の工夫について、調べてみましょう。」	・p.76を参考にしながら、置き換えて自分の文章を書き始める。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・宿題が難しかったり、一人で文章に書き表すことが難しかったりする場合は、全員で同じテーマについて書いても良い。他教科との連携で、総合的な学習の時間や社会、理科などに関連させられると教科書が資料になるため、書きやすい。
- ・教師側の事前準備が難しい場合は、教師の既存の知識を活かしながら情報を与え、そこから文章に書き表させても良い。例) 点字ブロック：黄色が多い、地面にある、点と線の二種類、目が見えない人のため  
 →交差点には点字ブロックが地面に敷かれている。目の見えない人が、誤って道に飛び出さなようにするためだ。点でできているものは注意を促し、線でできているものは誘導するためのものだ。・・・

# 板書例

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「調べたことを報告する文章の書き表し方を知ろう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 見つけてきた工夫を発表しあう。  
・事前に調べていない場合は、教科書の挿絵からわかることを発表しても良い。

④ 詳しく調べる時の方法を知る。  
・教科書p73を見ながら、特徴を抑えながらワークシートにまとめる。

⑤ 報告する文章の構成を考える。  
p74組み立てメモを見ながら、書き方を確認する。

<p>題名 点字ブロックを利用して、みんなが過ごしやすい町へ</p> <p>1. 調べたきっかけ 町を歩いていたら、白い杖を動かしながら歩いている人に出会った。その人は、足元にあるブロックをさわっていた。このブロックは何か、調べてみることにした。</p> <p>2. 調べ方 大きく分けて2つの方法で調べた。一つ目は、町に出て実際に目で見て色や形を調べることである。二つ目は、本やインターネットでの調査である。</p>	<p>題名 音声案内を利用して、みんなが過ごしやすい町へ</p> <p>1. 調べたきっかけ 2. 調べ方 3. 調べて分かったこと (1) 音声案内 (2) 過ごしやすい工夫 4. まとめ</p>	<p>住んでいる町の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・点字ブロック</li><li>・色々な言語での表示</li><li>・車椅子の人のための坂（スロープ）</li></ul> <p>調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・インタビュー</li><li>・アンケート調査</li><li>・実際に見て調べる</li><li>・本や資料で調べる</li><li>・インターネットで調べる</li></ul> <p>「みんなが過ごしやすい町へ」</p> <p>調べたことを報告する文章の書き表し方を知ろう。</p>
---	---	---

⑥ きっかけと調べ方について、真似しながら文章を書き始める。  
「自分の調べたいことに置き換えながら、真似して文章に書き表してみよう。」

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、調べて分かったことを文章に書く学習をします。」  
「住んでいる町の中に見られる工夫について調べてきましょう。」

五年 組 氏名 (

)

今日のめあて

調べ方

題名

1. 調べたきっかけ

-----  
-----  
-----

2. 調べ方

-----  
-----  
-----  
-----

今日のめあて

調べたことを報告する文章の書き表し方を知ろう。

調べ方

- ・インタビュー
- ・アンケート調査
- ・実際に見て調べる
- ・本や資料で調べる
- ・インターネットで調べる

題名

点字ブロックを利用して、  
みんなが過ごしやすい町へ

1. 調べたきっかけ

町を歩いていたら、白い杖を動かしながら歩いている人に出会った。その人は足元にあるブロックをさわっていた。このブロックは何か、調べてみることにした。

2. 調べ方

大きく分けて2つの方法で調べた。一つ目は、町に出て実際に目で見て色や形を調べることである。二つ目は、本やインターネットでの調査である。意味や歴史を調べた。

## 20

**題材名** 「みんなが過ごしやすい町へ」(第2時/全3時間)

**目標** 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

◎ 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しを持って報告する文章を書こうとすることができる。

**領域名** 知識技能(1)カ B 書くこと (1)エ

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「みんなが過ごしやすい町へ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読んでいる人に、より伝わる文章を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ 調べてきた分かったことを簡単に発表しあう。 「住んでいる町の中に見られる工夫について調べることができましたか。」 ○宿題として調べてくるのが難しい場合は、教師が事前に資料を用意したり、p72の挿絵を利用したりする。 ④ より伝わる文章にするための効果的な方法を知る。 「より読んでいる人や聞いている人に伝わるには、どのような工夫があるのでしょうか。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図表やグラフ、イラストなど効果的な資料を付け足す</li> <li>・一行あけたり、数文字下げたりしてすき間を作る</li> <li>○p. 75下段やp. 76の例を挙げ、確認する。</li> </ul> ⑤ 自分の調べてきたことや考えがより伝わるように書き表し方を工夫する。 「自分の調べたことをよりわかりやすく伝えるには、何を加えますか。」 ○教科書p. 76を見ながら、自分の文章には何を加えることでより相手にわかりやすくなるのか工夫し、「3. 調べて分かったこと」の続きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自持ち寄ったものを発表し、共有する。(もしくは、教科書の挿絵から考えられる町の中の工夫を探す)</li> <li>・ワークシートに記入する。</li> <li>・教科書の該当箇所を音読しながら、文章の構成と書き表し方を確認する。</li> <li>・p. 76を参考にしながら、置き換えて自分の文章を書き加える。</li> </ul>
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は調べて分かったことの続きとまとめを文章に書き表す学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

### 指導のポイント

- ・宿題が難しかったり、一人で文章に書き表すことが難しかったりする場合は、全員で同じテーマについて確認しながら書き進めても良い。
- ・教師側の事前準備が難しい場合は、スマートフォンやタブレットなどで情報を見せ、イラストとして書き加えさせても良い。
- ・他教科で使用している教科書等の情報を活用させても良い。

# 板書例

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「読んでいる人により伝わる文章を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 調べてきて分かったこと簡単に発表しあう。  
・事前に調べていない場合は、教科書の挿絵から前時に確認したことを復習しても良い。

④ より伝わる文章にするための方法を知る。  
・教科書p75.76を見ながら、ワークシートにまとめる。

3. 調べて分かったこと

(1) いろいろな場所

- ・交差点  
信号のそばなど、交差点には注意をうながすブロックがある。
- ・駅  
階段の上り下りの場所に、わかりやすく手すりと共にある。

(2) 問題点

- ・自転車  
決められた場所に停めないと、ブロックがかくれてしまう。

題名  
音声案内を利用して、みんなが過ごしやすい町へ

1. 調べたきっかけ
2. 調べ方
3. 調べて分かったこと  
(1) 音声案内  
(2) 過ごしやすい工夫
4. まとめ

効果的な方法

- ・ 図表やグラフ、イラストなど
- ・ 一行あけたり数文字下げたりする、すき間

住んでいる町の工夫

- ・ 点字ブロックは交差点にあった
- ・ 車椅子の人のための坂は入り口やトイレにあった

「みんなが過ごしやすい町へ」

読んでいる人により、より伝わる文章を書こう。

⑤ 調べて分かったことについて、工夫しながら文章を書き始める。  
「自分の調べてきたことをよりわかりやすく伝えるには、何を加えますか。」

⑥ 次時の予告をする。  
「次の時間は、調べて分かったことの続きとまとめを文章に書く学習をします。」

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

効果的な方法

3. 分かったこと

(1) -----

• ( )

• ( )

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

読んでいる人に、より伝わる文章を書こう。

効果的な方法

- ・ 図表やグラフ
- ・ イラストや写真
- ・ 一行あけたり、数文字下げたりする、すき間

3. 分かったこと

(1) いろいろな場所

- ・ ( 交 差 点 )  
信号のそばなど、交差点には  
注意をうながす点字ブロックが  
あった。



- ・ ( 駅 )  
階段の上り下りする場所に、  
わかりやすく手すりと共に点字  
ブロックがあった。



(2) 問題点

# 21

**題材名** 「みんなが過ごしやすい町へ」(第3時/全3時間)

**目標** 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

- ◎ 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しを持って報告する文章を書こうとすることができる。

**領域名** B 書くこと (1) イ・カ

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「みんなが過ごしやすい町へ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の考えを足し、報告する文章を見直そう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ わかりやすく伝えるためにどんな工夫をしたのか確認しあう。 「前の時間に書いた3. 調べて分かったことでは、どのような工夫を使いましたか。」 ○前時で書いた報告する文章の3に着目させ、使用した工夫(図表やグラフ、イラストや写真、レイアウトの隙間等)を発表しあう。 ④ まとめの部分に書き足すことを確認する。 「最後のまとめには、どのようなことを書き足すと良いのでしょうか。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことを簡潔に書く</li> <li>・分かったことから、考えたことや感じたこと、思ったことを書く</li> <li>・今後自分たちがどのようなことに気をつけたり心がけたりすれば良いかを書く</li> <li>○p.76の例を挙げ、確認する。</li> </ul> ⑤ 自分の書いてきた報告する文章の最後にふさわしいまとめを書く。 「報告する文章を完成させるため、まとめを書きましょう。」 ○自分の調べてきたことにふさわしい文章が書けるように助言する。 ○時間に余裕がある場合は、児童の文章をお互いに読み合い、文章の中でわかりやすい部分を児童同士で伝え合わせても良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自前時までに書き上げたものを発表し、共有する。(もしくは、教科書p76のお手本から読み取らせる。)</li> <li>・ワークシートに記入する。</li> <li>・教科書の該当箇所を音読しながら、文章の構成と書き表し方を確認する。</li> <li>・p.76を参考にしながら、置き換えて自分の文章を書き加える。</li> </ul>
終 2分	⑥ 報告する文章の構成がふさわしい構成になっているか、もう一度確認させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は同じ読み方の漢字の学習をします。」 「例えば、厚いと暑いのようなものです。他にもないか、探してみましよう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストをもとに、自分の書いた文章をもう一度見直す。</li> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・宿題が難しかったり、一人で文章に書き表すことが難しかったりする場合は、全員で同じテーマについて確認しながら書き進めても良い。
- ・教科書の例にあるまとめを使用し、一部分のみを変えて書き表しても良い。

# 板書例

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「自分の考えを足し、報告する文章を見直そう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ わかりやすく伝えるために前時で自分がどのような工夫をしたのか確認しあう。  
・そこまで書けていない場合には、教科書の例文を使用し、確認しても良い。

④ まとめの部分に書くことを確認する。  
・教科書p76を見ながら、ワークシートにまとめる。

4. まとめ

目の不自由な人でも気持ちよく安全にくらせるように、様々な場所に点字ブロックがあることが分かった。その工夫は、どのような人でも安心して過ごすことができるために、とても大切なものだと感じた。これからは、点字ブロックの上に何かが置かれていたら移動するなど、自分にできることをしていきたいと思った。

<参考資料>

徳田 克己「点字ブロック」  
福村出版（2011年）

題名  
音声案内を利用して、みんなが過ごしやすい町へ

1. 調べたきっかけ
2. 調べ方
3. 調べて分かったこと

(1) 音声案内  
(2) 過ごしやすい工夫

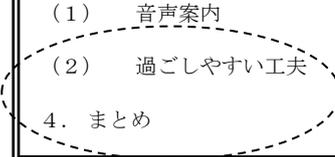
4. まとめ

「みんなが過ごしやすい町へ」

自分の考えを足し、報告する文章を見直そう。

まとめに書くこと

- ・分かったことを短くひと言で書く
- ・考えたことや感じたこと、思ったことを書く
- ・これから自分たちができることを考えて書く



⑤ 自分の描き進めてきた報告する文章の最後にふさわしいまとめを書き始める。  
「報告する文章を完成させるために、最後のまとめを書きましょう。」  
・前時で終わっていない場合は、調べて分かったことの続きから書かせても良い。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の時間は、同じ読み方の漢字の学習をします。」  
「暑いと熱い、厚いのようなものです。他にもないか、探してみましよう。」

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

まどめに書くこと

•

•

•

3. 分かったこと

(2) -----

• ( )

4. まとめ

<参考資料>

五年 組 氏名 ( )

今日のめあて

自分の考えを足し、報告す文章を見直そう。

まとめに書くこと

- ・分かったことを短くひと言で書く
- ・考えたことや感じたこと、思ったことを書く
- ・これから自分たちができることを考えて書く

### 3. 分かったこと

#### (2) 問題点

- ・ ( 点字ブロックの上に置かれる自転車 )

町の中には、たくさんの点字  
ブロックがあるが、自分のことし  
か考えずにものを置く人がいる。



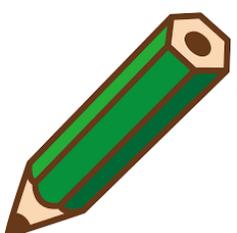
これでは、困ってしまう。

### 4. まとめ

目の見えない人が安全にらせるように点字ブ  
ロックがあることが分かった。これは、どのような人  
でも安全に過ごすためにはとても大切だと思った。物を  
置かないように呼びかけていきたい。

<参考資料>

報告する文章 チェックリスト



- 何について調べたのかわかるような題名になっているか。
- 調べたきっかけについて、書いてあるか。
- 調べ方は、書いてあるか。
- 調べて分かったことがいくつか書いてあるか。
- 分かったことには、図やグラフ、イラストや写真などの効果的な方法が使われているか。
- 見やすく間を開けながら、書かれているか。
- まとめには、分かったこと・思ったこと・自分のできるこれからが入っているか。
- 参考資料は書かれているか。

## 22

**題材名** 「同じ読み方の漢字」（第1時／全1時間）  
**目標** 同じ読み方の漢字について考えことができる。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「同じ読み方の漢字」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             同じ読み方の漢字について考えよう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知り、ワークシートに書く</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展 開 35 分	③ 同じ読み方の漢字を集める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・暑い、厚い、熱い                      ・測る、計る、量る</li> <li>・橋、端、箸</li> </ul> ④ どの漢字を使うのが適切か考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は（ ）ので、半袖です。</li> <li>・お茶は（ ）のが、おいしいです。</li> <li>・今日は寒いから（ ）いコートです。</li> </ul> ⑤ 同じ読み方の漢字をほかにも集める。 ⑥ 漢字の意味を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を作る</li> </ul> ⑦ 同じ読み方の漢字の、意味のちがいに気づかせる。 ⑧ 同じ音の熟語を調べ、線を引かせる。 ⑨ 意味のわからない言葉を辞書で調べさせる。 ⑩ 調べた意味を発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を使って考える。</li> <li>・ワークシートに書く。</li> <li>・ワークシートに書く。</li> <li>・辞書等使用してやる。</li> <li>・文章を作らせる。</li> <li>・ワークシートに読みがなを書き線を引く。</li> <li>・意味を調べ、ワークシートに書く。</li> </ul>
終 末 5 分	⑪ 次時の見通しを持つ。 「次の時間は『夏の夜』について学習します」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

### 指導のポイント

- 意味調べが終わらないときは宿題にする
- 新出漢字の練習を宿題に出す。

①題材名「同じ読み方の漢字」を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。

⑧同じ音の熟語を調べ、線を引かせる。

⑨意味のわからない言葉を辞書で調べさせる。

⑩調べた意味を発表させる。

③同じ読み方の漢字を集める。

④どの漢字を使うのが適切か考える。

⑤同じ読み方の漢字をほかにも集める。

⑥漢字の意味を調べる

「同じ読み方の漢字」  
目標

同じ読み方の漢字について考えよう。

一 同じ読み方の漢字を探す

- ・暑い、厚い、熱い
- ・測る、計る、量る
- ・橋、端、箸

- ・今日は（ ）ので、半袖です。
- ・お茶は（ ）のが、おいしいです。
- ・今日は寒いから（ ）いコートです。

- ・文章を作る

二 同じ音で意味のちがう熟語

- |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ・先生 | ・酸性 | ・先頭 | ・暴風 | ・功績 | ・意志 | ・照明 |
| 先制  | 賛成  | 銭湯  | 防風  | 鉦石  | 医師  | 証明  |

⑪次時の見通しを持つ





## 23

**題材名** 「夏の夜」(第1時/全1時間)

**目標** 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。

- ◎ 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、夏らしいものや様子を文章に書くことができる。

**領域名** 知識理解(3) 我が国の言語文化 ア B 書くこと (1) ア

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	<p>① 夏についてのイメージを膨らませる 海、スイカ、盆踊り、かき氷、ひまわり、風鈴、冷やし中華…など</p> <p>② 題材名「夏の夜」を黒板に書く。</p> <p>③ 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">夏らしいものや様子を文章に書き表そう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏といえば…を考える</li> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 33分	<p>④ 音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.80清少納言の作品を教師が読む。 「今度はみんなで声を合わせて読んでみよう」 「次は、かたまりずつ交代で読んでみよう」</li> <li>○ 夏は夜/月のころはさらなり/闇もなほ蛍の多く飛びつがひたる/また、ただ一つ二つなどほのかにうち光りて行くもをかし/雨など降るもをかし 必要に応じて意味を説明してもよいが、言葉の響きやリズムに重きを置く。NHK for school (おはなしのくにクラシック「枕草子」)などの映像教材を活用してもよい。</li> </ul> <p>⑤ 他の作品(炎天・涼風)にも触れる。</p> <p>「他の人がどのように夏を感じていたのか、読んでみましょう。」 「みんなにとっての夏を短い言葉で歌にしてみましょう。」</p> <p>○ 春についてのイメージから関連する言葉をいくつか考えさせ、それらの言葉を5.7.5や5.7.5.7.7のリズムでつなぐと良い。</p> <p>例：海水浴→波、はしゃぐ声、パラソル、砂浜 「海水浴」 たくさんの 人がガヤガヤ 砂浜で 楽しい気持ち カラフルな傘</p> <p>⑥ 完成した自分の作品(夏)を見せながら皆と交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示に従いながら、いろいろなパターンで音読する。</li> <li>・教科書を見ながら、花冷え・春風を音読する。</li> <li>・友達の作品を聞きながら、自分の考えをさらに広める</li> </ul>
終 2分	<p>⑦ 次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は「作家で広げるわたしたちの読書」の学習をします。」 「お気に入りの本があれば、持ってきてみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

### 指導のポイント

- ・言葉のリズムや響きを味わわせながら、何度も音読する中で音に慣れさせる。
- ・春の空で学習した体験を活かせるように用にする。

# 板書例

① 児童がそれぞれに考えている春のイメージを書き出す。

④ 音読の練習をする。  
・教科書P.80を教師が読む。何度も方法を変えて音読させる。  
「みんなで声を合わせて読みます。」  
「一行(かたまり)ずつ交代で読みます。」

② 題材名「夏の夜」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。  
・「夏らしいものや様子を文章に書き表そう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

⑤ 他の作品にも触れる。  
・教科書P.81を見ながら音読させる。

夏といえば・・・  
・スイカ ・海 ・ぼんおどり ・かき氷

「夏の夜」

夏らしいものや様子を文章に書き表そう。

「枕草子」 清少納言

夏は夜。 月のころはさらなり、  
闇もなほ、 蛍の多く 飛びちがひたる。  
また、 ただ一つ二つなど、  
ほのかに うち光りて 行くも をかし。  
雨など降るも をかし。

【炎天】  
真夏日 日盛り 西日 油照り 草いきれ  
↓炎天に すこし生まれし 日かげかな

【涼風】  
朝涼 夕涼 夏おしむ 秋近し  
↓どの子にも 涼しく風の 吹く日かな

(児童の作品を板書しても良い)

⑥ 児童の作品を共有しながら、良いところを伝える。  
児童によって書き表した作品や選んだ言葉が異なることを楽しむ。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【作家で広げるわたしたちの読書】の学習に入ります。」  
「お気に入りの本を持ってきましょう。」

# 夏の夜

W 23

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 声に出して、清少納言の歌を読もう。

★リズムを味わう ★昔の言葉

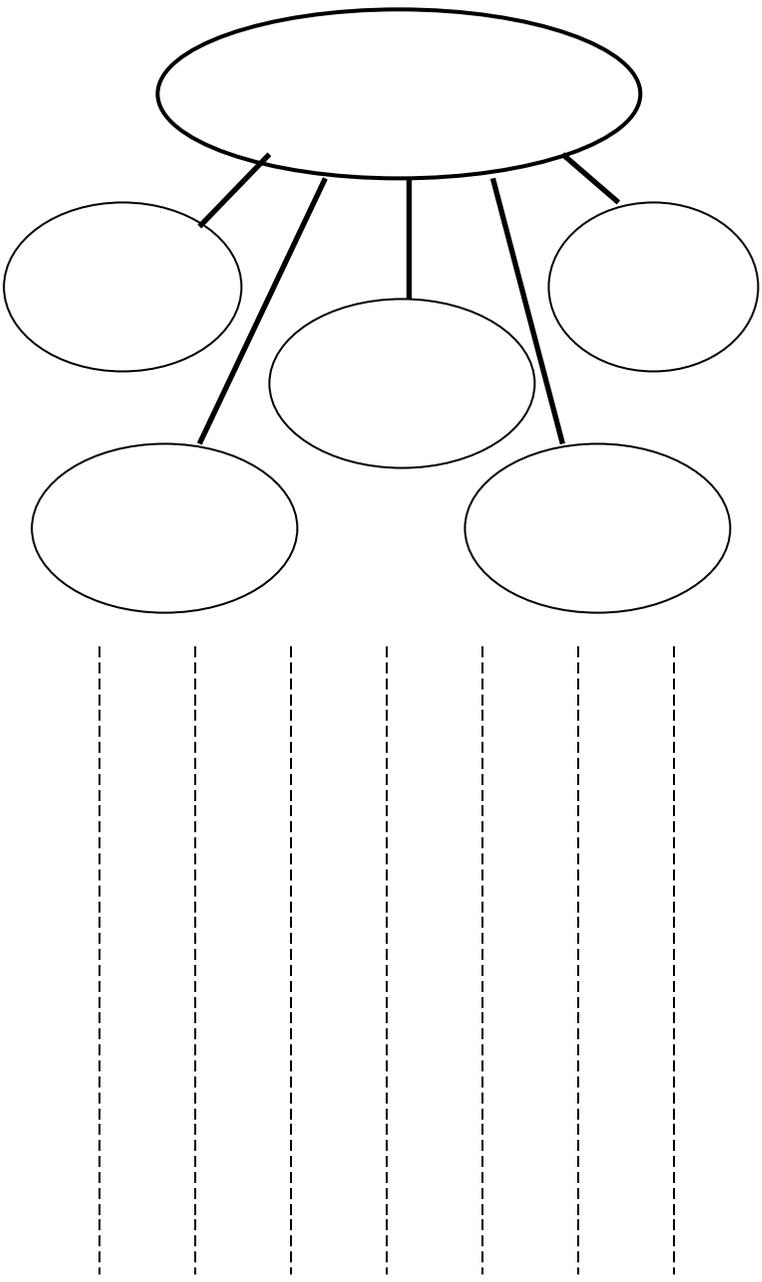
夏は夜。 月のころは さらなり、  
闇もなほ、 蛍の多く 飛びちがひたる。  
また、ただ一つ二つなど、  
ほのかに うち光りて 行くも をかし。  
雨など 降るも をかし。

二 声に出して、他の作品も味わおう。

炎天に すこし生まれし 日かげかな 【高浜 虚子】

どの子にも 涼しく風の 吹く日かな 【飯田 龍太】

三 夏のイメージから、関係する言葉を考えて作品にしよう。



# 夏の夜

W 23

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

夏らしいものや様子を文章に書き表そう。

一 声に出して、清少納言の歌を読もう。

★リズムを味わう ★昔の言葉

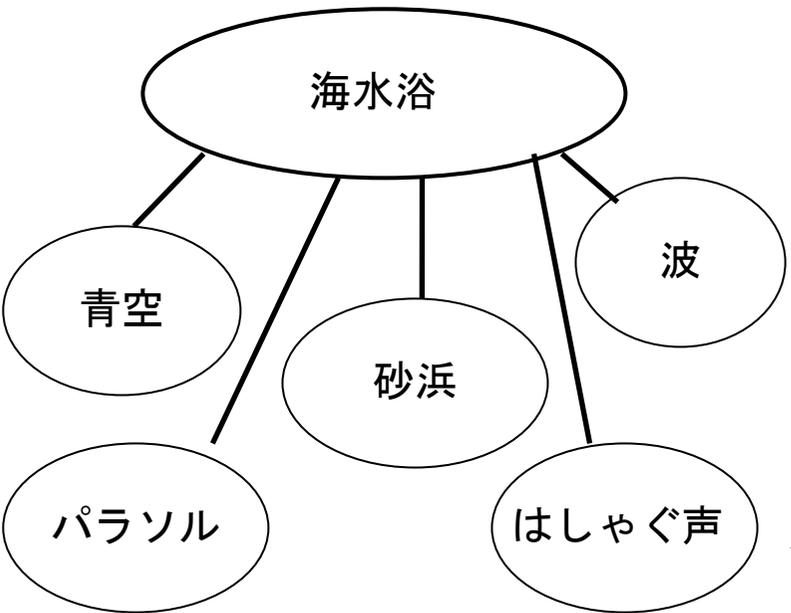
夏は夜。 月のころは さらなり、  
闇もなほ、 蛍の多く 飛びちがひたる。  
また、ただ一つ二つなど、  
ほのかに うち光りて 行くも をかし。  
雨など 降るも をかし。

二 声に出して、他の作品も味わおう。

炎天に すこし生まれし 日かげかな 【高浜 虚子】

どの子にも 涼しく風の 吹く日かな 【飯田 龍太】

三 夏のイメージから、関係する言葉を考えて作品にしよう。



たくさんの

人がガヤガヤ

砂浜で

楽しい気持ち

カラフルな傘

## 24

**題材名** 「作家で広げるわたしたちの読書」 (第1時/全1時間)

**目標** 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。  
◎進んで日常的に読書に親しみ、学習課題に沿って、本の魅力を伝え合おうとすることができる。

**領域名** 知識及び技能 (3) 才

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「作家で広げるわたしたちの読書」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             キャッチコピーを作って、本をしょうかいし合おう。           </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 本の作者を確認する。 ・それぞれ持参した本の作者を発表する。 「みなさんの選んできた本を書いた人は何という名前ですか。」 ○事前に本を持参することが難しい場合は、教科書p.83を使って、作家を4人確認する。 ④ 一人の作家が異なるテーマについて執筆していることを知る。 「重松清さんという作家を知っていますか。」 「どのような本を書いていますか。」 「それぞれの本のテーマは何ですか。」 ○p.84を見ながら、確認する。児童の実態によっては、絵本作家や外国人作家を扱っても良い。 ⑤ 紹介カードを作る。 「キャッチコピーとは、他の人の注意を引く宣伝文句のことです。」 「友達に読んでみたい、と思ってもらえるようなキャッチコピーを作って、しょうかいカードを作りましょう。」 ○複数冊比べるカードの作成には時間が足りないので、発表時に他にも「○○○」という作品もあります、程度に留める。 ⑥ 発表し合う。 ○短い時間でも構わないので、紹介し合う。どの本に一番興味を持ったかなどを問い、チャンピオン本を決めても良い。	・教師の指示に従いながら、教科書や黒板を見ながらワークシートに整理する。 ・教科書を見ながら、ワークシートにまとめる。 ・紹介する本に合う効果的なキャッチコピーを考える。 (相手が読みたくなりそうな文句や「え!？」と思うような驚きがあると効果的である。)
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は「からたちの花」の学習をします。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・図書館を使いこなすような学習で紹介をした場合は、キャッチコピー作りに比重置いて以前との差別化を図る。
- ・紹介カードの作成や紹介しあうことが難しい場合は、④まで学習した後、p.86-93に掲載されている「カレライス」を読み、感想や内容を共有してもよい。
- ・同じ作家の2作品を紹介カードに書かせ、そこに共通するキャッチコピーを考えさせても良い。(発展)

# 板書例

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「キャッチコピーを作って、本をしようかいし合おう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 本の作者を確認する。  
・児童が持参した本、もしくは教科書P.83を使って様々な作家がいることを知る。

④ 一人の作家が異なるテーマで作品を執筆していることを知る。  
・教科書p.84の重松清を例にとり、確認させる。

重松清さんの本

ぼくとお父さんの特製カレー、  
二人をつなぐ特製カレー。

「カレーライス」  
お母さんの忙しい、お父さんと二人きりのお父さんウィークに食べるのはいつもカレーライス。そんなお父さんにぼくが作るのもカレーライス。なかなか素直になれないぼくに、共感できます。

キャッチコピー

他の人の注意をひく、宣伝文句のようなもの  
他の人に「読んでみたいな」と思ってもらえる短い文

作家

- ・今森光彦さん
- ・上橋菜穂子さん
- ・さくらももこさん
- ・重松清さん

作家は同じでもテーマが違う

- (1) 小学生が中心  
「小学五年生」  
「さすらい猫ノアの伝説」
- (2) 考えるきっかけになる  
「おじいちゃんの大切な一日」  
「きみの町で」
- (3) 東日本大震災をテーマ  
「希望の地図」  
「また次の春へ」

「作家で広げるわたしたちの読書」  
キャッチコピーを作って、本をしようかいし合おう。

⑤ しようかいカードをつくる。  
「キャッチコピーというのは他の人の注意をひく、宣伝文句のことです。」  
「キャッチコピーを工夫して、しようかいカードを作りましょう。」

⑥ お気に入りの本を紹介し合う。  
「一番読んでみたいと思った本はどれでしたか？」

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、【からたちの花】の学習に入ります。」



キャッチコピーを作って、本をしようかいしよう。

今日の学習のめあて

一 どんな作家がいるかな。

・今森 光彦 さん

・上橋 菜穂子 さん

・さくら ももこ さん

・重松 清 さん

二 しようかいカードを作ろう。

( 重松 清 ) さんの本

キャッチコピー

ぼくとお父さんの特製カレー

二人をつなぐ特製カレー

「カレーライス」

お母さんの忙しい、お父さんと二人きりの“お父さんウィーク”に食べるのはいつもカレーライス。そんなお父さんにぼくが作るのもカレーライス。なかなか素直になれないぼくに、共感できます。

( 作家 )は同じでも

(テーマ) がちがう

- (1) 小学生が中心
- (2) 考えるきっかけになる
- (3) 東日本大震災をテーマ

# 25

題材名 「からたちの花」 (第1時/全1時間)

目標 ◎詩の内容を理解し、気持ちを込めて朗読することができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	<p>① 題材名「からたちの花」を黒板に書く。 ・この歌を知っているか。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 「からたちの花」を気持ちを込めて朗読しよう。</p> <p>③作詩(詞)背景を伝える。 ・この詩は、「詞」(曲を伴う詩を「詞」と書く。)でもある。作曲をした山田耕筰の体験をもとに書かれたと言われる。ワークシート参照。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・ 本時の目標を知る。</li> <li>・</li> <li>・ ワークシートの文章を読みながら詩の背景を知る。</li> </ul>
展開 30分	<p>④表現の特徴や内容を考えさせる。(自由に発言させる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何連構成か?(6連)</li> <li>・使われている技法は?(繰り返し法、比喩、呼びかけ、畳句)(畳句はリフレイン。同じ句を重ねる。)</li> <li>・リズムは?(5・7+6・7の繰り返し)</li> <li>・「よ」の呼びかけはどのような感じを受ける?(優しい)・「誰に」呼びかけている?(家族や友達、読者、もしかしたら自身に)・2連の「とげ」の痛さとは?(悩みや苦しみ、辛さ)・4連の「も」は、他に何が実ったというのだろうか?(栗や柿、あるいは自身の成長か)・からたちの実が「まろい金色」になるってどういうこと?何の比喩?(まろいという温かさ安らぎを導く人の優しさか)・「クライマックス(最も伝えたいところ)」はどこだろう?(5連)・「みんなみんなやさしかった」のは誰?そして、どんなことがあったのだろうか?(畑のおばさん始め出会った人たちが慰めてくれたのか)</li> <li>・1連と6連は同じ句の繰り返しだが、違いがあるとすると何が違う?(1連は現在、6連は過去の思い出と解釈するのが一般的。あの甘酸っぱい体験を振り返って、私たちに対して、何気ない優しさへの感謝や、その大切さを伝えようとしたのかもしれない)</li> </ul> <p>⑤朗読の練習をさせ、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間を取るく、抑揚～、強弱＝、速度→、余韻・・・など、記号を決める。</li> <li>・作曲者の体験や、表現技法、詩から受ける印象などを整理して、ワークシートに朗読記号をつける。(班ごとに話させてもよい。)</li> <li>・微音読で練習さる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法を確認する。</li> <li>・散文は「段落」だが、詩は「連」。</li> <li>「白い・青い・いつも・まろい・みんな」が反復(繰り返し)法。特に1連と6連は畳句。</li> <li>・一定のリズムに気づく。</li> <li>・誰がなぜ、からたちのそばで泣いたのか、どうしているときに誰がどのように優しくかったのかを想像する。</li> <li>・この詩で何を伝えたかったのかを考える。</li> <li>・朗読原稿をつくる。</li> </ul>
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読会を開く(朗読発表させ、簡単に称賛のコメントを加える。)</li> <li>・「からたちの花」(インターネット配信)の独唱を聞かせて終わるとよい。</li> <li>⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『どちらを選びますか』」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを込めて朗読する。</li> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

# 板書例

① 題材名「からたちの花」を黒板に書く。

② 本時の目標を知らせる。  
「気持ちを込めて朗読しよう」

④ 詩の特徴を整理する。  
・ 連、リズム、技法を簡条書きで板書する。  
・ まろい実がみんなの優しさに通じることを引き出す

⑤ 朗読をする。  
・ ワークシートの詩に、「間、抑揚、強弱、速度、余韻など」の記号をつける。  
・ 群読させる場合は、個人で考えさせたいうえで、班で話し合いをさせる。  
・ 状況に応じて、個人や班ごと、班内あるいは全体の前で朗読させ、簡単にコメント評価する。

からたちの花

○ 目標 気持ちを込めて朗読しよう。

○ 作詩（作詞）の背景を知ろう。

・ 作曲家の生い立ち（ワークシート）

○ 詩の特徴

・ 六連構成（一連と六連は現在と過去）

・ 五七音十六七音のリズム

・ 呼びかけ「よ」（話かけるような感じ）

（「学習の流れ」参照）

○ 朗読原稿を作ろう。

・ 間をとるところ

・ 抑揚をつけるところ

）

○ 朗読発表をしよう。

（みんなの感想）

・ ○○さん

・ ○○さん

・ ○○さん

③ ワークシートの「山田耕筰の体験」から、作詩の背景を考えさせ

⑥ 班内で相互に朗読を行い、代表が全体の前で朗読発表する。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『どちらを選びますか』」

からたちの花

w  
25

五年 組 氏名( )

今日の学習のめあて

からたちの花を気持ちを入れて朗読しよう

□心を込めて朗読しよう

◇朗読メモ

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

からたちのとげはいたいよ

青い青い針のとげだよ

からたちの畑の垣根よ

いつもいつもとおる道だよ

からたちも秋はみのもよ

まろいまろい金のたまだよ

からたちのそばで泣いたよ

みんなみんなやさしかったよ

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

からたちの花（記入例）

W  
25

五年 組 氏名（

今日の学習のめあて

からたちの花を気持ちを入れて朗読しよう

□心を込めて朗読しよう

◇朗読メモ

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

からたちのとげはいたいよ

青い青い針のとげだよ

からたちの畑の垣根よ

いつもいつもとおる道だよ

からたちも秋はみのもよ

まろいまろい金のたまだよ

からたちのそばで泣いたよ

みんなみんなやさしかったよ

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

（

## 26

**題材名** 「どちらを選びますか」 (第1時/全1時間)

**目標** 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

◎進んで互いの立場を明確にし、課題に沿って討論しようとするすることができる。

**領域名** 話すこと・聞くこと (1) オ

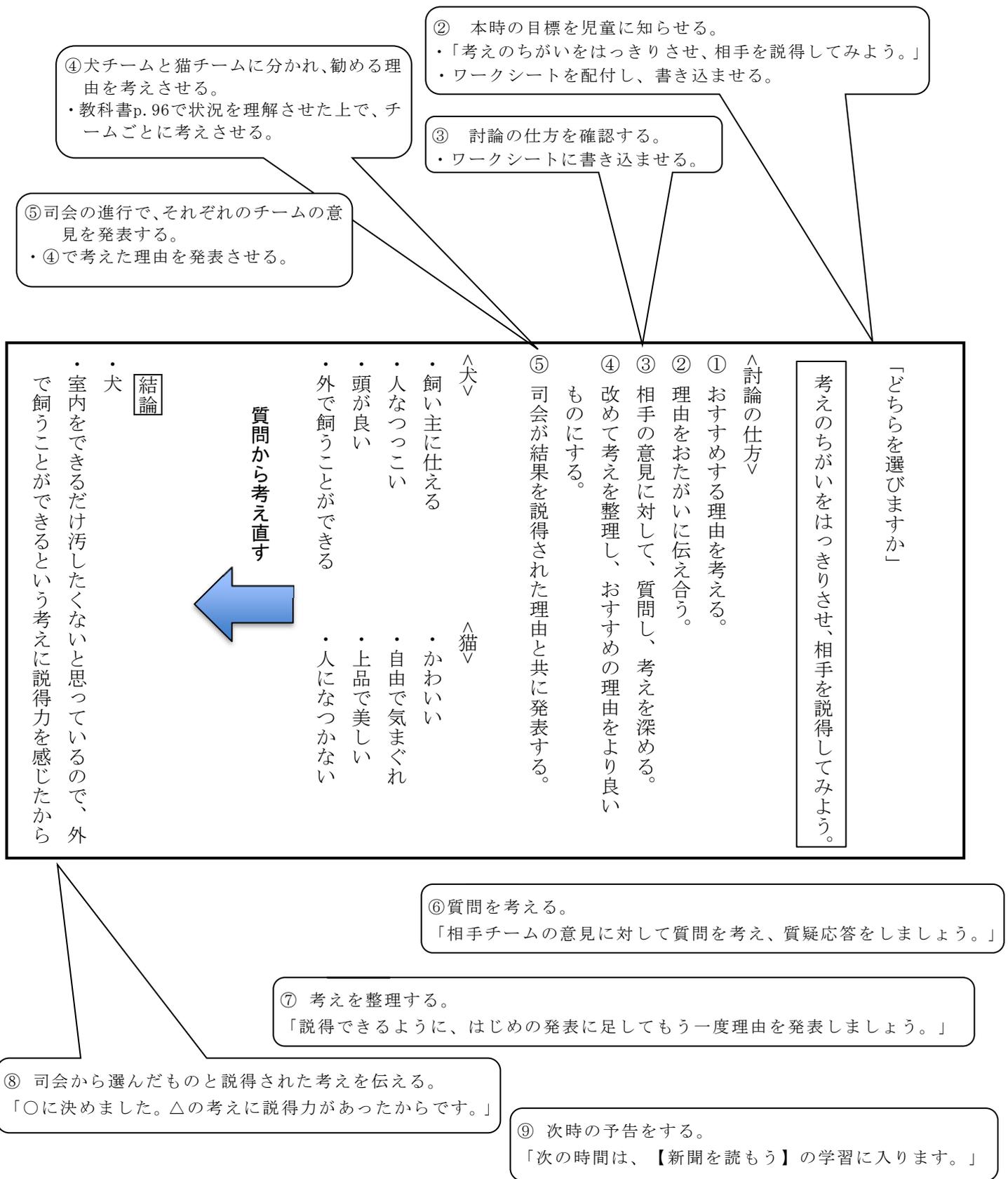
### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「どちらを選びますか」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             考えのちがいははっきりさせ、相手を説得してみよう。           </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 討論の仕方を知る 理由を伝え合う→質問する→考えを整理する→司会からどちらを選んだか、どの考えに説得力があったかを発表する ④ 犬チームと猫チームに分かれ、勧める理由を考えさせる。 「犬をお勧めするグループと猫をお勧めするチームに分かれて、校長先生にお勧めする理由を考えます。」 ○教科書p.96を使って、状況を理解させた上で、勧める理由を複数グループごとに考えさせる。 ⑤ 司会の進行で、それぞれのチームの意見を発表する。 「持ち時間は3分です。それぞれお勧めする理由を発表します。」 ○立場をはっきりさせてから、理由の個数を明確にし、一つずつ述べさせる。チームの中で役割を決め、全員が発言できるようにしたい。 ⑥ 質問を考える。 「相手チームの意見に対して質問を考え、質疑応答をしましょう。」 ○相手チームの意見を引用し、それに対して異なる意見があるという構成にすると、考えやすい。 ⑦ 考えを整理する。 「説得できるように、はじめの発表に足して、もう一度、理由を発表しましょう。」 ⑧ 司会から選んだものと説得された考えを伝える。 「○を飼うことにしました。△△という考えに説得力があったからです。」	・教師の指示に従いながら、教科書や黒板を見ながらワークシートに整理する。 ・友達と相談しながら、ワークシートにまとめる。 ・発表の仕方はp.97を参考にする ・相手の意見を尊重しながら、質問を考え、伝える。
終 2分	⑨ 次時の予告をする。 「次の時間は「新聞を読もう」の学習をします。」 「新聞を取っている人は、持ってきてきましょう。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・校長先生役【司会】は教師が行った方がよいと思うが、実態に応じて児童にさせてもよい。
- ・テーマは興味関心に基づき変えてもよい。(山vs海、おにぎりvsサンドイッチ、兄や姉vs弟や妹、など)
- ・決して論破することが目的ではなく、相手の意見を尊重しながら進められるように場に応じて助言する。

# 板書例



どちらを選びますか

W  
26

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 討論（とうろん）の仕方

①

②

③

④

⑤

二 発表のじゅんびをしよう。

不足理由	おすすめする理由
<p>-----</p> <p>-----</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
	相手の意見に対する質問
	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

どちらを選びますか

W 26

今日の学習のめあて

五年 組 氏名 ( )

考えのちがいはつきりさせ、相手を説得してみよう。

一 討論（とうろん）の仕方

- ① おすすめする理由を考える
- ② 理由をおたがいに伝え合う
- ③ 相手の意見に対して質問し、考えを深める
- ④ 改めて考えを整理し、おすすめの理由をより良いものにする
- ⑤ 司会が説得された理由と共に結果を発表する

二 発表のじゅんびをしよう。

不足理由	おすすめする理由
散歩や買い物と一緒に楽しむこともできる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 飼い主に仕える</li><li>・ 人なつっこい</li><li>・ 頭が良い</li><li>・ 外で飼うことができる</li></ul>
	相手の意見に対する質問
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自由に気まぐれだと</li><li>飼い主の言うことを</li><li>聞いてくれないのでは</li><li>ないか。</li></ul>

## 27

題材名 「新聞を読もう」(第1時/全4時間)

目標 新聞をいろいろな角度から見て、新聞の特徴を考えることができる。

領域名 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。 ② 目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             新聞をいろいろな角度から見て、特ちょうを考えよう。           </div> ワークシートを配付し、書き込ませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 持参した新聞をもとに、好きな項目から調べ、ワークシートに書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせて時間を決め、その中でできる範囲で調べさせる。例) 10分間、15分間など</li> </ul> ④ 新聞の特ちょうを考えさせ、まとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞が役立っている場面</li> <li>・どの面から読むかめる。</li> <li>・新聞の便利なところ</li> </ul> ⑤ 読んでみたい記事・これからも読み続けたいコーナー・発見したことなどを、新聞を見せながら発表させる。 ⑥ 自分の関心の高い記事を理由と共に発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞をもとに、関心の高い項目から調べて、ワークシートに結果を書き入れる。</li> <li>・新聞の特ちょうを一つずつ考え、ワークシートに書き、考えをまとめる。</li> <li>・特徴などについて発表する。</li> <li>・新聞を見ながらどの記事に興味関心があるか、発表する。</li> </ul>
終末 5分	⑦宿題の確認をする。 ⑧次時の予告をする 「新聞を読もう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

指導のポイント

- 持参した新聞をもとに行う授業である。新聞を取っている児童から集めておき、ない児童に貸すなど配慮する必要がある。または数がそろわないときは、グループ活動にしてもよい。
- 新聞の特徴を考えられないときは、テレビのニュースと比較させるとわかりやすい。また漢字が難しくて読めない等マイナスの特徴を挙げる児童もいることが予想される。それらも長所短所という意味からもとりあげてよい。新聞について冷静に判断し、自分の考えをもつことが大切である。
- 読んでみたい記事や発見したことなどを発表するときは、具体的にその場面を見せながら、発表させる。具体物があると発表しやすい。また理由もあわせて発表させる。

①題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。  
②本時の目標を児童に知らせ、ワークシートに書かせる。

③範読し、その後音読させる。  
④新聞をいろいろな角度から見てみる。

⑤新聞の便利なところや特徴について考え、発表させる。  
⑥自分の関心の高い記事など理由と共に発表させる。

新聞を読もう

目標

新聞をいろいろな角度から見て、  
新聞の持ちようを考えよう

一いろいろな角度から見ると

- ① 今日の面積一位
- ② 身近なニュース発見
- ③ わたしのお気に入りコーナー
- ④ 印象に残るこの一まい

二新聞の持ちようを考える

- ① 新聞が役立つっている場面
- ② どの面から読むか
- ③ 新聞の便利なところ

←

自分の速さで読める、好きな面から読める  
繰り返し読める、ファイリングできるなど

三読んでみたい記事や発見したことなど話し合おう

⑦宿題の確認。(音読・漢字)

⑧次時の見通しを持つ。「新聞を読もう」です。

# 新聞を読もう①

W 27

五年組 氏名 ( )

## 目標

一、いろいろな角度から見よう。

- ① 今日の面積一位 ( )
- ② 身近なニュース発見 ( )
- ③ わたしのお気に入りコーナー ( )
- ④ 印象に残るこの一まい ( )

二、新聞の持ちようを考えよう。

- ① 新聞が役立っている場面
- ② どの面から読むか
- ③ 新聞の便利などころ

↓

三、読んでみたい記事や発見したことなど話し合おう。

# 新聞を読もう①(記入例)

W 27

五年組 氏名( )

## 目標

新聞をいろいろな角度から見て、新聞の特ちょうを考えよう。

### 一、いろいろな角度から見てみよう。

- ① 今日の面積一位 (自分が持ってきた新聞で見てみる )
- ② 身近なニュース発見 (右に同じ )
- ③ わたしのお気に入りコーナー (例スポーツ )
- ④ 印象に残るこの一まい (自分で見て決める )

### 二 新聞の特ちょうを考えよう。

#### ① 新聞が役立っている場面

多くの人に情報を与えることができる。一部あれば家族全員が読める。  
など

#### ② どの面から読むか

自分が気になっている面から読む など

#### ③ 新聞の便利などころ

時間があるとき、さまざまな場所で、手軽に読める など

←

自分の速さで読める、好きな面から読める  
繰り返し読める、フアイリングできるなど  
など

### 三、読んでみたい記事や発見したことなど話し合おう。

児童の考えで話し合う

題材名 「新聞を読もう」（第2時／全4時間）

目標 報道記事の特徴をつかむことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。 ② 目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">報道記事の特ちょうをつかもう。</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く
展 開 33 分	③ 児童に音読させる。 ④ 見出し・リード文・本文・写真や注について読み、逆三角形の構造になっていることを説明する。 ⑤ 報道記事に、いつ・どこで・誰が・何をした・なぜ・どのように書かれているところに、赤線を引かせる。 ⑥ 持参させた報道記事を1つ選ばせ、いつ・どこで・誰が・何をした・なぜ・どのようにを探させ、ワークシートに書かせる。	・音読する。 ・わからないことがあったら質問する ・赤線を引きながら、確認する。 ・自分の関心のある報道記事を1つ選び、いつ・どこで・誰が・何をした ・なぜ・どのようにについてワークシートに書く。
終 末 5 分	⑦ 新出漢字を練習させる。 ⑧ 宿題（音読・漢字）の確認をする。 次時の予告をする。 「新聞を読もうを学習します。」	・新出漢字を練習する。 ・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○音読はさまざまな方法がある。声をそろえ一斉に読む・グループで読む・一人で読む・段落ごとに読む・まる読み（読点）で次の人と代わるなど、児童の実態に合わせ、常に同じではなく変化をもたせると、児童の興味関心が高まる。

○いつ・どこで～をワークシートに書かせるが、早く終わる児童と時間がかかる児童がいる。早くできた児童には、2つ目の記事に取り組みさせる。ワークシートに書くスペースがないときは、新聞に赤線を引くだけでもよい。児童の意欲を喚起したい。

○新出漢字は筆順に気をつけさせたい。ただ速く書くだけではなく、授業中は筆順・字形に注意しながら丁寧に書くことを指導する。

- ①題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせ、ワークシートに書かせる。

- ③音読をさせる。
- ④見出し・リード文・本文・写真や注などを説明する（逆三角形の構成）。

- ⑤「いつ・どこで・だれが・何をした・なぜ・どのように」について、記事に赤線を引かせる。
- ⑥持参した新聞も同じか確かめさせる。

新聞を読もう

目標

報道記事の持ちようをつかもう

一 逆三角形の構成とは何か

二 次のことを確かめる

- ① いつ
- ② どこで
- ③ だれが
- ④ 何をした
- ⑤ なぜ
- ⑥ どのように

三 新出漢字

「政」「経」「示」「逆」「比」「困」

- ⑦新出漢字の練習をさせる。
- ⑧宿題（音読・漢字）の確認をする。

⑨次時の見通しをもつ。「新聞を読もう」を学習します。

新聞を読もう②

五年組

氏名（

）

目標

--

一 逆三角形の構成とは何だろう。

二次のことを確かめよう。

- ① いつ
- ② どこで
- ③ だれが
- ④ 何をした
- ⑤ なぜ

⑥ どのように

三、新出漢字

比 べる	示 す	政 治		
困 む	逆 三角 形	経 済		

# 新聞を読もう②(記入例)

五年組 氏名( )

W  
28

## 目標

### 一 逆三角形の構成とは何だろう。

結論を先に見出して示し、リード文から本文へと、次第に詳しく書かれている。  
このような書き方を、逆三角形の構成という。

### 二次のことを確かめよう。 32ページの記事

- ① いつ ……8日
- ② どこで ……スウェーデン王立科学アカデミー
- ③ だれが ……米ウッズホール海洋生物研究所・元上席研究員  
下村脩さん
- ④ 何をした ……ノーベル化学賞を受賞した
- ⑤ なぜ ……オワンクラゲの発行の仕組みを解明する過程で、  
緑色蛍光たんぱく質を分離し、その構造を解明した。
- ⑥ どのように ……そのたんぱく質は、生命科学の研究で、細胞内を動く分子にくっつけて追跡する便利な「道具」として世界中の研究者に使われているから。

## 三、新出漢字

政治			経済		
示す			逆三角形		
比べる			囲む		

## 29

**題材名** 「新聞を読もう」（第3時／全4時間）

**目標** 2つの記事を比べ、違いを考えることができる。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2つの記事を比べ、違いを考えることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 音読する。 ④ 2つの記事はどこが、どのようにちがうのか。理由（どの言葉からそう思ったのか）も合わせて考えさせ、ワークシートに書かせ、発表させる。 ⑤ そのちがいによって、受ける印象はどのように違うのか考えさせ、ワークシートに書かせる。 ⑥ 新出漢字の練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は比較的指導内容にゆとりがあるので、前時間に学習した「新出漢字」も練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの記事はどこが、どのように違うのか考え、理由と共にワークシートに書き、発表する</li> <li>・印象の違いをワークシートに書き、発表する。</li> <li>・新出漢字の練習をする。</li> </ul>
終末 5分	⑦ 宿題（音読・漢字）の確認をする。 ⑧ 次時の予告をする。 「新聞を読もうについて学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

### 指導のポイント

○同じ事実でも記者や新聞社の考え方により、微妙な違いがある。またその事実を受けての人の考え方によっても印象は違う。それらを見童が自発的に気づかないときは、教師が示唆してもよい。

○次の単元の新出漢字の練習を入れた。漢字は何回も機会をとらえ、目に触れさせたり練習させたりすると、習得率が高まる。

板書例

- ①題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を知らせ、書き込ませる。

- ③音読する。
- ④2つの記事はどこが、どう違うのか考え、理由と共に発表させる。

- ⑤その違いにより、受ける印象はどのように変わるか考え、発表させる。
- ⑥新出漢字を練習させる。

新聞を読もう

目標

二つの記事比べ、違いを考えよう

一 二つの記事はどこが、どうちがうか  
どこか

ちがい

理由

二 受ける印象

①の記事

②の記事

三 新出漢字 (前時・学習漢字)

「政」「経」「示」「逆」「比」「罍」

- ⑦宿題 (音読・漢字) の確認。

- ⑧次時の見通しをもつ。  
「新聞を読もう」を学習します。

新聞を読もう③

五年組

氏名(

)

目標

--

一、二つの記事はどこが、どうちがうか  
どこ

ちがい

理由

二、受ける印象

①の記事

②の記事

三、新出漢字 (前時・学習漢字)

政治	示す	比べる			
経済	逆 <small>三角形</small>	囲む			

新聞を読もう③(記入例)

五年組 氏名( )

目標

--

一、二つの記事はどこが、どちらがどうか  
どこ…見出し、写真

ちがいは…①は強敵が現れたけど、やるしかないと戦う姿勢を強調している。

①は強敵がいたが、北島自身が失速してしまったことを強調している。

理由 …同じ事実であるが、強調するものが違うと、受ける印象が変わってくる。

二、受ける印象

①の記事

強敵に立ち向かう強い選手。

②の記事

失速して不安がっている弱い選手。

三、新出漢字 (前時・学習漢字)

政治	示す	比べる
経済	逆 三角形	囲む

# 30

題材名 「新聞を読もう」（第4時／全4時間）

目標 2つの記事の違いから、読者の感じ方の違いを考えることができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2つの記事の違いから、読者の感じ方の違いを考えよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 音読の練習をする。 ④ 初めの段落の違いから、どんなことが考えられるか、ワークシートに書かせ、発表させる。 ⑤ ダーレオーエン選手について述べ方の違いをワークシートに書かせ、それをもとに読者はどう思うか考え、ワークシートに書かせる。 ⑥ 引用している文に違いがあるか考えさせ、ワークシートに書かせ、それをもとに読者がどう思うか考える。 ⑦ 本文が対応するのはどちらかを考えさせ、理由も述べさせる ⑧ 新聞の学習を通して考えたことや感じたことを発表させる。	・アとイの1段落を読み、違いをワークシートに書き、発表する。 ・述べ方の違いを書き、そこから読者がどう思うか書く。発表する ・考えたことをワークシートにまとめる。 ・発表したり友達の発表を聞く。 ・①と②は、アカイであることを考える。 ・学習した感想を発表する。
終 5分	⑨ 宿題（音読・漢字）の確認する。 ⑩ 次時の予告をする。 「敬語」について学習します。	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 初めの段落では、アは読者の不安をあおる内容であるが、イは事実しか書いていない。同じ事実からこれだけ違う記述が見られることに気づかせる。
- 引用文は、一連の事実から一部分を切り取って引用する。それは記者や出版社の考え方によって、どこをどのように引用するかが決まる。どれも事実であるにもかかわらず、読者には報道されたことしかわからないということに気づかせる。
- 新聞について長所短所、特長などについて、自分なりの意見が持てることが大切。承認する方向で発言を認めていきたい。

# 板書例

- ①題材名「新聞を読もう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を知らせ、シートに書き込ませる。

- ⑤ダーレオーエン選手の述べ方の違いを考え、発表させる。
- ⑥引用の違いを考えさせ、発表させる

- ③音読させる。
- ④初めの段落の違いを考えさせ、発表させる。

新聞を読もう

目標  
二つの記事の違いから、読者の感じ方の違いを考えよう

一 はじめの段落の違い  
ア  
イ  
違い

二 ダーレオーエン選手の述べ方の違い  
ア  
イ

三 読者の感じ方  
引用している発言  
ア  
イ

四 読者の感じ方  
前ページに対応する文  
①  
②

五 新聞の学習を通して、考えたことや感じたこと

- ⑦本文が対応するのはどちらかを考えさせ、理由も述べさせる。
- ⑧新聞の学習をして考えたことや感じたことを発表させる。
- ⑨宿題の確認（音読・漢字）をする。

⑩次時の見通しをもつ。「敬語」を学習します。

新聞を読もう④

五年組 氏名 ( )

W 30

目標

一、初めの段落のちがいを書こう。

二、ダーレオーエ選手の述べ方のちがいを書こう。

三、引用している文のちがいを読者はどう思ったろう。

四、新聞の学習を通して感じたことや考えたことを書こう。

# 新聞を読もう④(記入例)

W 30

五年組 氏名( )

## 目標

二つの記事の違いから、読者の感じ方の違いを考えよう。

### 一、初めの段落のちがいを書こう。

ア しばらく動かないこと、予選はよかったが、準決勝はタイムを落としたこと。不安が残ることを強調。

イ 強敵が現れたことを強調。北島選手については書いていない。

など

### 二、ダーレオーエン選手の述べ方のちがいを書こう。

ア 予選一位の安定した泳ぎ。大会に入ってから伸びはすさまじい。

イ 今年の欧州選手権の覇者。一米ートル90センチの長身を生かした大きな腕のかきで後半加速。

など

### 三、引用している文のちがいを読者はどう思うだろう。

ア 「そうですかねえ。」頼りない感じがして、読者は不安。

イ 「決勝はダーレオーエンがターゲットになってくる。世界記録が金メダルラインになるでしょう」力強い言葉に、読者は期待させられる。

など

### 四、新聞の学習を通して感じたことや考えたことを書こう。

児童の感じたことよい。

# 31

**題材名** 「敬語」 (第1時/全1時間)

**目標** 敬語の種類と使い方を理解し、正しく使おうとすることができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
	① 題材名「敬語」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">敬語の使い方を知ろう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。  ③ 範読し、敬語には敬語・ていねい語・謙譲語があることを話し、その後児童にも音読させる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書く。 ・範読を聞いた後、音読する。
展開 35分	④ ていねい語・尊敬語・けんじょう語を読み、教科書の大事な言葉に赤線を引かせる。  ⑤ 敬語の言葉を探し、発表させる  ⑥ P.104の下段のどこを、どんな表現にしたらよいかを教科書で直させる。  ⑦ P.104の下段のどんな相手に対し、どんなとき敬語を使うかをワークシートに書かせ、発表させる。  ⑧ 敬語を使って短文を作らせる ・本当のことでなく、想像でもかまわない。  ⑨ 新出漢字の練習をさせる。	・教科書に赤線を引く  ・敬語を発表する。  ・間違いを教科書に直接直す。  ・敬語の使い方を考え、ワークシートに書く。 ・敬語を使った短文を書く。
	⑩ 宿題 (音読・漢字) の確認する。  ⑪ 次時の予告をする。	・次時の見通しを持つ。
	終	
	5分	

## 指導のポイント

- 尊敬語や謙譲語は理解が難しい。なるべく多くの事例をを事前に集め、常態で言う場合と敬語で言う場合を比較させることが、理解への近道になる。
- 尊敬語や謙譲語は、決まった言い方の場合が多い。手紙の書き方の学習を踏まえ、手紙文に特定して指導してもよい。
- 誤った敬語の使い方や過剰な敬語についても取り上げていくとよい。
  - × 「先生いますか」 ○ いらっしゃいますか
  - × 「父はいらっしゃいません」 ○ いません
  - × 「お客さんが来ました」 ○ いらっしゃいました
  - × 「明日行ってよいでしょうか」 ○ 伺って

# 板書例

- ①題材名を黒板に書く。
- ②本時の目標を黒板に書く。

③範読し、丁寧語等について話す。その後音読させる。

④赤線を引かせる。

⑤敬語の言葉を探し、発表させる。

「敬語」  
目標  
敬語の使い方を知ろう

ていねい語 親しくない人、大勢の人  
です、ます、ございます

そんな敬語 相手や話に出てくる人  
いらっしゃる おっしゃる めしあがる  
くださる

けんじょう語 自分や身内のこと  
伺う 申す いただく 参る

◇短文を作ろう

先生が家庭訪問で、  
わが家にいらしゃいました。

- ⑥教科書の表現を直させる。
- ⑦ワークシートに整理させる。
- ⑧敬語を使って短文を作らせる。

- ⑨新出漢字の練習をする。
- ⑩宿題の確認をする。
- ⑪次時の見通しを持たせる。

敬語

五年組 氏名 (

) w  
31

目標

--

一、ていねい語

--

二、そん敬語

--

三、けんじょう語

--

四、短文作り

--

五、新出漢字

歴史	大勢
招く	職員室

# 敬語(記入例)

五年 組

氏名 (

)

## 目標

敬語の使い方を知ろう。

### 一、ていねい語

ていねい語↓親しくない・大勢の人。「です」「ます」「ございます」

### 二、そん敬語

尊敬語↓相手や話に出てくる人に対して使う

ア、特別な言葉 来る↓いらっしゃる、言う↓おっしゃる 食べる↓めしあが  
くれる↓くださる

イ、「お(ご)になる」 校長先生がお話しになります

ウ、「れる(られる)」 先生は、もう帰られました

エ、「お」や「ご」を付ける ご卒業、ご意見、ご家族、お体

### 三、けんじよう語

謙讓語↓自分や身内にとすることを使う

ア、特別な言葉を使う 行く・訪ねる・聞く↓伺う

、言う↓申す 食べる・もらう↓いただく、行く↓参る

イ、「お(ご)ーする」

お客様を、お見送りしましょう。

### 四、短文作り

先生が家庭訪問で、わが家にいらしゃいました。 等

### 五、新出漢字

歴史	大勢				
		招く	職員室		

## 32

**題材名** 「たずねびと」 (第1時/全2時間)

**目標** 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

- ◎ 粘り強く、物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとすることができる。

**領域名** C 読むこと (1) エ

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「たずねびと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 それぞれの場面で綾の前に現れたものや人物をたしかめよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 物語を読み、全体像を捉える。 「物語を聞き、どのようなお話なのかを考えましょう。わからない言葉には線を引きながら聞きましょう。」 ○教師が読んでも良いし、児童に交代で読ませても良い。 ④ 太平洋戦争や原子爆弾について確認する。 「広島に落とされた爆弾のことを知っていますか。」 ○事実のみを伝えるように気をつける。 ⑤ 場面ごとに整理する。 「8つの場面ごとに、綾の前に現れたものや人物を整理していきましょう。」 「場面ごとの綾の気持ちも考えてみましょう。」 ○意味段落ごとに、児童に問いかけながら、ワークシートに整理する。 (1) p. 106L1 - p. 108L5 (2) p. 108L7 - p. 109L1 (3) p. 109L3 - p. 109L15 (4) p. 110L2 - p. 110L11 (5) p. 110L13 - p. 113L2 (6) p. 113L4 - p. 115L8 (7) p. 115L10 - p. 118L2 (8) p. 118L4 - p. 119L7	・物語を読む ・ワークシートに記入する。
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は広島に行くことを決めるまでの綾の気持ちや広島に着いてからどのような変化があったのかを考えます。」 「家でもう一度考えながら、読んでいきましょう。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・時代背景や状況について必要がある場合は、教科書QRコードを読み取り追加説明をしても良い。
- ・読み終わった後に、どのような話であったか、一番印象に残った場面や表現、不思議に思ったところやよくわからなかったことなど、簡単に話し合っても良い。
- ・それぞれの場面で、綾が何と出会いどのような気持ちになっているのか、児童の考えをもとに整理していく。
- ・場面ごとに小見出しをつけさせても良い。(1)もう一人の私?との出会い (2)夢にまで出てきたアヤ…など)

板書例

① 題材名「たずねびと」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 ・「それぞれの場面で綾の前に現れたものや人物をたしかめよう。」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 物語を読み、全体像を捉える。

④ 太平洋戦争や原子爆弾など、時代背景について確認する。

⑤ 場面ごとに確認する。  
 ・児童に問いかけながら、綾が出会ったものや人について確認する。  
 ・ワークシートに、書き込ませる。

場面	綾の前に現れたものや人	気持ち
(一)	ポスター	自分と同じ名前
(二)	楠木アヤ(十一さい)	びっくり
(三)	アヤの文字(夢)	とても気になる
(四)	ポスター(2回目)	気になり続ける
(五)	お兄ちゃん	
(六)	お母さん	アヤちゃんを探
(七)	週末の広島行き	しに広島に行き
(八)	平和記念公園、原爆ドーム	たい
(九)	ゆつたり流れる川	信じられない
(十)	平和記念資料館	ひどい、悲しい
(十一)	追悼平和祈念館	おどろき
(十二)	たくさんの人の写真	うちのめされる
(十三)	原爆供養塔	悲しい、つらい
(十四)	土まんじゅう	見つけたい
(十五)	小さなおばあさん	がっかりさせた
(十六)	静かに流れる川	こまった
(十七)	当時はにぎやかな町	はずかしい
(十八)		わすれない
(十九)		二度としない

「たずねびと」  
 それぞれの場面で綾の前に現れたものや人物を  
 たしかめよう。

⑥ 次時の予告をする。  
 「次の時間は、広島に行くことを決めるまでの綾の気持ちや、広島に着いてからどのような変化があったのかを考えます。」  
 「もう一度家で考えながら読んでみましょう。」



五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

場面	(一)	(二)	(三)	(四)	(五)	(六)	(七)	(八)
綾の前に現れたものや人	ポスター 楠木アヤ(十一さい)	アヤの文字(夢)	ポスター(二回目) お兄ちゃん	お母さん 週末の広島行き	平和記念公園、原爆ドーム ゆったり流れる川 平和祈念資料館	追悼平和祈念館 たぐさんの人の写真	原爆供養塔 土まんじゅう 小さなおばあさん	静かに流れる川 当時はにぎやかな町
綾の気持ち	自分と同じ名前 びっくり	とても気になる	気になり続ける	アヤちゃんを探しに行 きたい	信じられない ひどい、悲しい おどろき うちのめされる	悲しい、つらい 見つけたい	がっかりさせた 困った はずかしい	わすれない 二度と戦争はしない

### 33

**題材名** 「たずねびと」 (第2時/全2時間)

**目標** 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

◎ 粘り強く、物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとすることができる。

**領域名** C 読むこと (1) エ

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「たずねびと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">綾の心情の変化について考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ 広島に行くことを決めるまでの「綾」の気持ちを自分と重ねながら読み、想像させる。 「綾はどのような理由から行くことを決めたのでしょうか。」 ○綾の気持ちを想像しながら、なぜ綾が広島まで行くことにしたのか、話し合わせる。 ④ 広島に着いてから「綾」にはどのような変化があったのか、言葉に着目しながら心情の変化をとらえさせる。 「広島に着いてから、綾は様々なものや人に出会い、色々と気持ちも変化していきます。教科書の言葉から考えてみましょう。」 ○頭がくらくらしてきた(p. 111 L13-14)うちのめされるような気持ち(p. 113 L4)気が遠くなりそうだった。でも、どうしても目がはなせなかった(p. 114 L9) ⑤ 「たずねびと」の物語を一言で表す。 「この物語を短い言葉で表すと、どのようになるのでしょうか。」 ○物語文の構造(誰かが何かをきっかけに変化する)に合わせて考えさせる。 例) 綾が広島に実際に行ったことで、戦争を身近に感じ、戦争を忘れないことが大切だということに気づく物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)～(4)まで物語を黙読</li> <li>ワークシートに記入する。</li> <li>ワークシートに記入する。</li> <li>※余裕があれば、以下の部分についても考えさせると良い。</li> <li>問いかけてくるような気がした(p. 112 L2-3)</li> <li>はずかしくなって下を向いてしまった(p. 117 L14)</li> <li>いくつもいくつものおもかげが重なって、わたしの心にうかびあがってきた(p. 119 L6-7)</li> <li>ワークシートに記入する</li> </ul>
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は漢字の広場2の学習をします。」 「わからない言葉がある場合は、意味を調べておきましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

#### 指導のポイント

- 自分だったら、広島に行くか行かないか、どちらかを選択する形から綾の行くことと決めた気持ちに寄り添わせても良い。
- 物語の概要を⑤で確認した上で、作者の思い(平和の尊さ、戦争を知ることの大切さ、戦争を忘れない・語り継いでいくことの意義等)に触れても良い。

# 板書例

① 題材名「たずねびと」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「綾の心情の変化について、考えよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 広島に行くことを決めるまでの「綾」の気持ちを想像させる。  
・児童に問いかけながら、綾が決心した理由や気持ちを考えさせる。  
・ワークシートに、書き込ませる。

④ 広島に着いてから「綾」の心情の変化を言葉からとらえさせる。  
・作者の用いている言葉や表現ごとに、綾の心情の変化をとらえさせる。  
・ワークシートに、書き込ませる。

## 板書例

「たずねびと」

綾の心情の変化について、考えよう。

一： 広島に行くことを決意する綾

- ・ 同じ名前だから、とても気になる
- ・ 探し続けているなんてすごい
- ・ どうしても探しにこないのだろう
- ・ 広島に行けばわたしがアヤちゃんを見つけられる

二： 広島に着いてからの綾

- ① 頭がくらくらしてきた
- ・ 今まで知らなかった
- ・ ひどい
- ・ 苦しい
- ・ 想像できない
- ・ どうすれば良いのかわからない
- ② うちのめされるような気持ち
- ・ どうして今まで知らなかったのだろう
- ・ どうしてそんなひどいことが起きたのだろう

③ 気が遠くなりそうだった

- ・ 顔を見ると、一気に近い感じになる
- ・ いつまでも、いつまでも終わらない
- ・ 同い年やもっと小さな子どもも

三： 何をきっかけにどのように変わったか？

綾が 広島に実際にいき 戦争に関わる人や物に出会ったことで、戦争を身近に感じ、戦争を忘れないことが大切だということに気づいた

事実 自分事

きょうみ 他人事

⑤ 「たずねびと」の物語を一言で表す。  
・主人公があることをきっかけに変化する、という物語文の構造を意識させながら、一文にまとめさせる。  
・ワークシートに、書き込ませる。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の時間は、漢字の広場2を学習します。」  
「意味のわからない言葉があれば、調べてみましょう。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 広島に行くことを決意した「綾」の気持ち

二 広島に着いてからの「綾」の気持ち

①頭がくらくらしてきた

②うちのめされるような気持ち

③気が遠くなりそうだった

三 「たずねびと」は、綾が何をきっかけにどう変わった物語？  
きっかけ

変化

五年 組 氏名 ( )

綾の心情の変化について、考えよう。

今日の学習のめあて

一 広島に行くことを決意した「綾」の気持ち

・実際に行って、自分の目で見てみたい・代わりに探してみせる

・どうしてだれも今まで探してあげないんだろう、かわいそう

二 広島に着いてからの「綾」の気持ち

①頭がくらくらしてきた ・今まで知らなかった ・ひどい

・苦しい ・想像できない ・どうすれば良いのかわからない

②うちのめされるような気持ち ・どうしてそんなひどいことが

・一発の爆弾で十四万人の人が亡くなるなんてこわい

③気が遠くなりそうだった ・顔を見ると近い感じになる

・みんな探してもらえなくてかわいそう・いつまでも終わらない

三 「たずねびと」は、綾が何をきっかけにどう変わった物語？  
きっかけ

広島に実際に行き、戦争に関わる人やものにたくさん出会った

変化

戦争を身近に感じ、戦争を忘れないことが大切だということに気づいた。

# 34

題材名 「漢字の広場②」（第1時／全1時間）

目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 教科書の漢字を使って、登山家の半生を説明する文を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③漢字を読み、その後に音読させ、ワークシートに練習させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 「漢字をワークシートに書きましょう。」 ○ 書くときは、とめ・はね・はらい・おれや、書き順を確認しながら書く。 ④ 登山家の半生を説明する文を、ワークシートに書かせる。 「作家になったつもりで、登山家の半生を説明する文をワークシートに書きましょう。」 「【参加した】【続けた】、など言い切りの言葉を使って、相手に伝わるように書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」 ○ 難しい場合には、一文に一つでも教科書の言葉が使えていれば良い。 ○ すぐに書けた児童については、一文に出来るだけ沢山の言葉を入れられるように工夫させる。例) 週末初めて参加した登山で <b>自然に包まれた</b> のぼるは、登山に <b>熱中</b> し、毎週 <b>続けた</b> 。	・音読し、読み方を覚える。 ・漢字をワークシートに書く。 ・図書館の使い方を説明する文をワークシートに書く。 ・書いたものを発表する。
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『漢字の読み方と使い方』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ③ 既習の漢字の読み書きを確実に身に着けさせるために
- ・読みがわからない児童には、挿絵を手がかりに思い出すよう声をかける。知らない児童が多い場合は先に読みと意味を説明して、練習に時間をとる。
  - ・イラストを基に場面や場所など順番に説明していくと、苦手な児童もどこを読んでいるかがわかる。
  - ・扱う漢字をカードなどに書いておくと黒板に書く手間が省ける。
- ④ 既習の漢字を生活の中で適切に使う力をつけるために
- ・国語辞典、漢字辞典が用意できる場合は、いくつかの漢字については辞書で調べさせてもよい。  
 (同じ漢字を使った他の熟語探しや同じ部首の漢字探しなど、発展的に取り組ませても良い)
  - ・できた文を紹介しあい、図書館の使い方が説明できているかどうか確認すると同時に、漢字が使えていたら丸をつける。漢字で書けるところがあったら「ここも漢字が使えるよ。」と促す。

板書例

① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「教科書の漢字を使って、登山家の半生を説明する文を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書の熟語を、一通り読み、書き、意味を教える。  
子供達の語彙力に合わせて説明する。全熟語を扱うのが難しい場合には、イラストに基づき必要な熟語一語ずつでも良い。

④ 登山家の半生を説明する文章を書かせる。  
イラストの各場面を教科書の言葉を使いながら、言い切りの形で終わるように、説明する文章を書く。

漢字の広場②

教科書の漢字を使って、登山家の半生を説明する文を書こう。

熱中  
特訓  
成功  
・・・

(児童の実態によっては、全て書かなくてもよい。  
説明に必要な言葉があったら黒板に書いて教える)

三つの場面に分けて、説明しよう。

**はじめ**  
のぼるは、登山に熱中した。

**中**  
様々な失敗から反省したのぼるは、必死で特訓した。

**おわり**  
仲間との結束を強めたのぼるは、ついに頂上に達し、無事成功した。

<すぐに書けない子への手だて>  
・使わせたい言葉を( )にするなど、穴埋め方式で書かせる。  
・すぐに書けた児童については、本の場所を説明する分を書かせて実際に図書館の人になったつもりで説明させても良い。

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『漢字の読み方と使い方』を学習します。」

漢字の広場②

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。


二 「はじめ」「中」「おわり」の場面に分けて書こう。書ききれなかったらうらに書こう。書


五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

教科書の漢字を使って、登山家の半生を説明する文を書こう。

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。

初めて	参加	熱中	目標
失敗	反省	特訓	必死
茨の道	連帯感	悲願	達する

二 「本を借りるときは」「本を読むときは」など場面を表す言葉から始めよう。書ききれなかったらうらに書こう。

(はじめ) のぼるは、登山に熱中した。

(なか) 様々な失敗から反省したのぼるは、必死で特訓した。

(おわり) 仲間との結束を強めたのぼるは、ついに頂上に達し、無事成功した。

# 35

**題材名** 「漢字の読み方と使い方」（第1時／全1時間）

**目標** ○複数の読み方と特別な読み方をする漢字を、書いたり読んだりすることができる。

**領域等** 知識及び技能 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の読み方と使い方」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 特別な読み方をする漢字を読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>目標</li> </ul>
展開 30分	③複数の読み方をする漢字を学習させる。 ・p124下段の問題を解かせる。また、p124上段の問題を解きながら目標を確認する。 ・既習の漢字で、複数の読み方がある漢字を思い起こさせる。 ・「音楽 楽器 気楽 楽園」などの既習漢字を板書してもよい。 ・「読本」は「とくほん」「どくほん」「よみほん」とも読めるが。 ・教科書p124傍線部の漢字の読みを使った他の熟語を考えさせ、学習の幅を広げる。 ④呉音は、古く中国南方系の、仏教によく用いられる発音（修行ギョウ）。漢音は、その後遣唐使などが伝えた発音で、日本では「漢音」を正音とした（旅行コウ）。明治時代当初は、読みを漢音に統一しようとしたができなかった。児童から質問が出なければ、あえて触れる必要はない。 ⑤特別な読み方をする漢字を学習させる。 ・「大人、風邪、一日」などの「常用漢字表付表」の一部の熟字訓を学習させることになる。 ・p125を読み、傍線部の読み方を確認させる。 ・その他の「特別な読み方」をする言葉（熟字訓）を思い起こさせる。 ・「特別な読み方をする言葉」を使って短文をつくらせることで、意味の確認をしてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の問題に取り組み、複数の読み方があることを確認する。</li> <li>図（図画と図書）、強（強情と勉強）、重（重量と軽重）、建（建立と建設）などを指摘する。</li> <li>「世間」「行間」、「読書」「句 読点」「熟読」、「直火」「直線」、「明暗」「明朝体」など。</li> <li>重複（ジュウフクは呉音、チョウフクは漢音）は、どちらの読み方でもよい。</li> <li>既習の特別な読み方をする漢字を思い起こす。</li> </ul>
終末 10分	⑥新出漢字の練習をさせる。 ・ワークシートに読み仮名と共に書かせる。 ・p289で筆順を確認させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『秋の夕暮れ』」	<ul style="list-style-type: none"> <li>p125下段の漢字を読む。</li> <li>「手伝う」「今年」「小豆」「今朝」「五月」「三味線」「下手」「行方」など既習の漢字での特別な読み方を提示する。</li> <li>新出漢字を「財」「祖」「謝罪」「志」「永久」「毒」「當」「妻」「精」を練習させる</li> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

**指導のポイント**

- 常用漢字表の付表に示された読み方を学習する教材であり、また、多数の新出漢字を習得させる教材でもある。
- 「特別な読み方をする漢字」は既習の漢字であるので「読み」を、新出漢字は「書き」の学習をさせる。  
・適宜 p289 の筆順表を活用する。

板書例

① 題材名「漢字の読み方と使い方」を黒板に書く。

② 本時の目標を知らせる。  
・特別な読み方をする漢字を書いたり読んだりする。(漢音、呉音という名称には触れない。)

④  
・上が呉音、下が漢音。呉音の方が古く、「和音」とも呼ばれる。漢音は主に遣唐使が持ち帰った音で「正音」と呼ばれる

⑤ 特別な読み方をする漢字  
・常用漢字表の付表に示された読み方を学習させる。  
・「明日」は「あす」と読む。「あした」は、本来「夕べ」(夕方)の対義語で「朝」を表す。

漢字の読み方と使い方

目標 特別な読み方をする漢字を読んだり書いたりする。

○ 複数の音を持つ漢字

- ・ 本名 大名 名人 名案
- ・ 日時 来日 連日 休日
- ・ 言語 伝言 発言 予言
- ・ 建立 (コンリユウ) 建設 (ケンセツ)

○ 特別な読み方をする漢字

- ・ 一日 (ついたち)
- ・ 大人 (おとな)
- ・ 母さん (カアさん)
- ・ 明日
- ・ 昨日
- ・ 七夕
- ・ 二人

新出漢字

「財」「祖」「謝罪」「志」「永久」

「毒」「営」「妻」「精」

③ p124下段の問題に取り組ませる。  
・漢字には複数の読み方があることを確認する。

⑥ p289を参照しながら、新出漢字の学習をさせる。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『秋の夕暮れ』」

漢字の読み方と使い方

w  
35

五年 組 氏名（

今日の学習のめあて

）

□ 複数の音を持つ漢字を整理しよう

□ 特別な読み方をする漢字を整理しよう。

□ 新出漢字を整理しよう。

漢字の読み方と使い方(記入例)

五年 組 氏名)

今日の学習のめあて

特別な読み方をする漢字を読んだり書いたりしよう

□複数の音を持つ漢字を整理しよう

- ・本名 大名 名人 名案
- ・日時 来日 連日 休日
- ・言語 伝言 発言 予言
- ・建立(コンリユウ) 建設(ケンセツ)

□特別な読み方をする漢字を整理しよう。

- ・一日(ついたち) 大人(おとな)
- ・母さん(カアさん) 明日
- ・昨日 七夕
- ・二人

□新出漢字を整理しよう。

「財」「祖」「謝罪」「志」「永久」「毒」「営」「妻」「精」

# 36

題材名 「秋の夕暮れ」 (第1時/全1時間)

目標 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
 ◎ 「枕草子」を音読し、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「秋の夕暮れ」を黒板に書く。 P.36「春の空」P.80「夏は夜」を振り返り、今回は「秋」について書かれた文章であることを伝える。  ② 本時の目標を黒板に書く。 古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 古文を音読させ、文の意味を理解させる。 「まず先生が読みます。様子を想像しながら聞きましょう。」 「次は、みんなで読みます。先生が1文ずつ読むので、続けて読みましょう。」 「最後は、みんなで音読します。大きな声で読みましょう。」 現代語で読んでいるところが古文のどの部分にあたるか確認しながら、現代語訳を読む。 ○ わかりにくい言葉については黒板に書き、説明を加える。 「山の端」「いと」「ねどころ」「あはれなり」「をかし」など他にも児童から質問が出た場合、説明をする。	・音読し、読み方を覚える。  ・現代語訳の解説を聞き、文の意味を理解する。
終 2分	④ 秋らしいものや様子を文に書き、伝え合う。 「枕草子やP.127の秋に関わる言葉、俳句などを参考にして、『秋らしいもの』を考えて、文に書きましょう。」 「書いたものを伝え合ひましょう。」 ・発表できた児童の文を黒板に書き、紹介する。 ○ 単語でも思いついた児童を称賛し、文にできるように促す。  ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『よりよい学校生活のために』を学習します。」	・秋らしいものや様子を書く。  ・書いたものを発表する。  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・読み方が難しいところ、うまく読めないところなどは、教師が読んだ後に読み直させ、音で覚えられるようにするとよい。
- ・古文の細かい意味は理解できなくても、何度も読んで響きやリズムに親しむことを中心に行う。
- ・「秋らしいもの」は、育った環境や住んでいる国によって異なる。「なぜそれが秋らしいか」について児童なりに考えがもてていればよい。
- ・なかなか書けない場合は無理をせず、何度も読んだり、P.36「春の空」P.80「夏は夜」を振り返って読んだりするなど、児童の実態に合わせて、古文に親しむことを中心に行ってもよい。

板書例

① 題材名「秋の夕暮れ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「教師が全文を読む。教師の後に児童が読む。児童が全文を音読する。」という順で何度も読み、読み方を覚える。その後、現代語訳を読み、意味を理解する。

④ 枕草子やP.127の秋に関わる言葉、俳句などを参考にして、秋らしいものや様子を文に書き、伝え合う。

秋の夕暮れ

枕草子 春はあけぼの 夏は夜

古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。

山の端 山に

いと とても

ねどころ ねぐら ねるところ

あはれなり しみじみしたものを感させる

をかし 味わい深い

秋らしいもの

(例)

すすき

月見

落ち葉 かれ葉 紅葉 鈴虫 さんま

秋になり、月がとてもきれいだ。

公園の木が紅葉し、落ち葉もたくさんあった。

さんまがおいしい季節になった。

<すぐには書けない子への手だて>  
教科書のススキや月の写真について解説し、同じように秋に見られるものを考えさせる。日本に限定せず、現地での秋を感じさせるものでよい。  
言葉が思いついた子については、単語から文章にしたり、さらに他の言葉も考えたりするように勧める。  
教師が言葉を教え、その言葉をもとに文を作らせてもよい。

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『よりよい学校生活のために』を学習します。」

秋の夕暮れ

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

- 一 音読をして、言葉の響きやリズムに親しもう。
- はじめて聞く言葉を上に書き、意味を調べよう。

はじめてきく言葉	意味

二 秋らしいものや様子を文に書こう。

--

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。

- 一 音読をして、言葉の響きやリズムに親しもう。  
はじめて聞く言葉を上に書き、意味を調べよう。

はじめてきく言葉	意味
山の端	山に
いと	とても
ねどころ	ねどころ
あはれなり	しみじみしたものを感じさせる
をかし	味わい深い

二 秋らしいものや様子を文に書こう。

秋になり、月がとてもきれいだ。  
公園の木が紅葉し、落ち葉もたくさんあった。  
さんまがおいしい季節になった。

# 37

**題材名** 「よりよい学校生活のために①」（第1時／全3時間）

**目標** 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。

◎ 日常生活の中から議題を決めて、自分の立場を明確にして意見を書き出す。

**領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「よりよい学校生活のために①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 議題を決めて、話し合いの準備をしよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 日常生活の中から議題を決めさせる。 ・教科書P.129を教師が読む。実態に合わせて例を出すとよい。「日常生活の中でこうなるといいなと思うことについて意見を出そう」 「出た意見の中から、次回、話し合うものを、一つ選ぼう。」 ○ 教科書の内容は「よりよい学校生活のために話し合い、考えをまとめる」だが、補習授業校においては一つの議題にすることが困難なことも考えられる。「ペットを飼うなら犬かねこか」「住むなら日本か、〇〇国か」「朝ご飯はパンとご飯どちらがよいか」などが、2択で立場を決めやすい議題をいくつか提示して、その中から選ばせて意見を書いてよい。その場合④の活動は「理由」のみとなる。	・生活の中から変えていきたいことについて議題を決める。
終 2分	④ 議題についての立場を明確にさせ、意見を書かせる。 「自分の立場を決めたら、それについて意見を書きましょう。」 「現状と問題点、解決方法、理由 の順で書きましょう。」 ○ P.130を参考に、現状と問題点、解決方法、理由が書けた児童の文を紹介して参考にさせるとよい。 例：「毎日少しずつ片付けがよいと思います。なぜなら…」 ⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ・現状 → 「現在の状態」など、漢字の意味を解説するとよい。	・自分の立場を明確にして、意見を書く。 ・新出漢字の練習をする。
	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は書かれた意見をもとに話し合いをします。」 ワークシートは回収しておく。	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ 「話し合い」の学習は、補習授業校では特に難しい。3時間しか取れないこと、次の授業まで、一週間の間があくことを考慮して、児童の実態にあった議題にする。
- ・ 議題によっては、現状と問題点や解決方法はなく、理由が書ければよい。  
 例：日本と〇〇国、住んだらどちらがよい経験になるか。  
 「〇〇国がよい。他国の文化を知ることができるから。」

# 板書例

① 題材名「よりよい学校生活のために①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 ・「議題を決めて、話し合いの準備をしよう。」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。  
 ・教科書P. 128を教師が読む。

③ 日常生活の中から議題を決めさせる。  
 ・教科書P. 129を教師が読む。実態に合わせて例を出すとよい。  
 「日常生活の中でこうなるといいなと思うことについて意見を出そう」  
 「出た意見の中から、次回、話し合うものを、一つ選ぼう。」

④ 議題についての立場を明確にさせ意見を書かせる。  
 ・教科書P. 130 2 を教師が読む。  
 「自分の立場を決めて、ワークシートに意見を書きましょう。」  
 「具体的に自分ができるところを書きましょう。」

よりよい学校生活のために①	議題を決めて、話し合いの準備をしよう	議題 例 自分の部屋をきれいにしたい	立場 毎日片づける 一週間に一回、片付けタイム	意見	○現状と問題点 部屋がものすごく散らかっている。	○解決方法 毎日片づける	○理由 気づいたときにやれば きれいになると思う	新出漢字 現状 条件	(過程 評価 判断 賛成 も 時間があれば練習する)
---------------	--------------------	--------------------	----------------------------	----	-----------------------------	-----------------	--------------------------------	---------------	-------------------------------

<すぐに書けない子への手だて>  
 教科書の内容は「よりよい学校生活のために話し合い、考えをまとめる」  
 だが、補習授業校においては生活スタイルが異なるため、一つの議題にすることが困難なことも考えられる。  
 そこで、「ペットを飼うなら犬かねこか」「住むなら日本か、○○国か」  
 「朝ご飯はパンとご飯どちらがよいか」などが、2択で立場を決めやすい議題をいくつか提示して、その中から選ばせて意見を書いてもよい。  
 その場合、④の活動は、理由のみを書く。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
 とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
 「次の時間は、実際に話し合いをします。」  
 「自分の意見をいくつか考えておきましょう。」

よりよい学校生活のために①

W  
37

五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

--

一 議題を決めよう

議 題	立 場

二 自分の立場を決めて、意見を書こう。

--

○新出漢字の練習をしよう。

現 状	条 件

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

議題を決めて、話し合いの準備をしよう。

一 議題を決めよう

議 題	立 場
<p>(例)部屋をきれいに保つには何ができるか 行事を成功させるには何ができるか 海外の経験をいかすには何ができるか</p>	<p>(例)気づいたときにやる 一週間に一回 練習する 飾りつけをする 日記を書く 外国語を習得する 日本語をしっかり勉強する。</p>

二 自分の立場を決めて、意見を書こう。

気づいたときにやればよい。一週間に一回だと、最後の方は散らかる。  
行事に向けて司会の練習をする。お客さんが喜んでくれるよう折り紙を折る。  
毎日の出来事を忘れないよう日記を書く。  
せつかくこの国にいるのだから、外国語を習得する。

○新出漢字の練習をしよう。

現 状			
条 件			

# 38

題材名 「よりよい学校生活のために②」（第2時／全3時間）

目標 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

◎ 話し合いのしかた、話し合いのときに気を付けることを確認して、計画に沿って話し合う。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「よりよい学校生活のために②」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">立場を明確にして、話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	<p>③ 話し合いや質問のしかたを確認して、役割を決めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P.130 進め方の例 P.131 話し合いでよく使う質問のしかた を読ませる。</li> <li>司会や記録係を決めさせる。</li> <li>※ 映像を視聴できる環境であるなら、先に見せるとよい。</li> </ul> <p>④ 話し合いをさせる。</p> <p>「司会者の指示にしたがって話し合いをしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ずつが意見を言う。</li> <li>意見を付箋に書く。</li> <li>付箋を見ながら質問をする。</li> </ul> <p>「P.131を参考に質問してみよう。」</p> <p>例：片付けタイムとは、例えばどういうことですか。 ：どうして、毎日片づけようとするのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>たがいの考えの共通点やことなる点を確認する。</li> <li>考えをまとめる条件を考え、その条件にそって話し合う。</li> </ul> <p>○ 人数が少なかったり話し合いが難しかったりする場合は、教師が司会を兼ねたり、逆に、特に苦手な子に司会者をさせ、話す内容は教師が教えてもよい。</p> <p>⑤ 新出漢字の練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回の漢字「現状、条件」次回の漢字「判断、賛成」の読みも確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いのしかたを確認する。</li> <li>質問のしかたを確認する。</li> <li>前回の授業のワークシートをもとにして話し合いをする。</li> <li>メモを取りながら、話し合いに参加する。</li> <li>新出漢字の練習をする。</li> </ul>
終 2分	<p>⑥ 次時の予告をする。</p> <p>「次回は、話し合った感想を発表して、P.134の『意見が対立したときには』を読みます。漢字の練習もします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 意見を考えるのが難しい場合は、司会などをさせて話す内容を教える。
- 日本語の理解が困難な場合は、話し合いを見学させ、「●●さんの意見をどう思う。」など、感想を言う形で参加させたり、ワークシートのメモ欄に「なるほど、と思った意見をメモしましょう。」と促したりする。

# 板書例

① 題材名「よりよい学校生活のために②」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「立場を明確にして、話し合いをしよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

- ③ 話し合いや質問のしかたを確認して、役割を決めさせる。
- ・教科書P. 130、P. 131を教師が読む。児童にも読ませる。
  - ・司会、記録などの役割を決めさせる。人数によって、教師が兼ねる。

- ④ 「P. 130 話し合いのしかた」に沿って、話し合いをさせる。
- ・一人ずつ意見を出し合う。出した意見をふせん（四角い紙）に書いて皆が見えるように置く。または黒板に貼る。
  - ・P. 131を参考に質問する。わかったことは紙に加えて書く。
  - ・似ている意見を並べたり、異なる意見を確認したりする。

よりよい学校生活のために②

立場を明確にして、話し合おう。

議題 例 自分の部屋をきれいにしたい

話し合いの進め方

話し合いの役割

司会

記録係

新出漢字

過程 評価

(前回 「現状、条件」の復習、

「判断 賛成」も時間があれば練習する)

<話し合いが苦手な子への手だて>

- ・意見を考えるのが難しい場合は、司会などをさせて話す内容を教える。
- ・日本語の理解が困難な場合は、話し合いを見学させ、「●●さんの意見をどう思う。」など、感想を言う形で参加させたり、ワークシートのメモ欄に「なるほど、と思った意見をメモしましょう。」と促したりする。
- ・議題によっては、まとめることが難しい場合もある。その場合は、話し合いのしかたや、質問のしかたの習得に重点を置いて指導する。

- ⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

- ⑥ 次時の予告をする。  
「次回は、話し合った感想を発表して、P. 134の『意見が対立したときには』を読みます。漢字の練習もします。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 話し合いの仕方を確認しよう。

○130ページ「進め方の例」を読もう。

○131ページ「話し合いでよく使う質問のしかた」を読もう。

○話し合いの役割を決めよう。

司会 記録係

二 話し合いをしよう。

メモ

○新出漢字の練習をしよう。

過程			
評価			

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

立場を明確にして、話し合おう。

一 話し合いの仕方を確認しよう。

○130ページ「進め方の例」を読もう。

○131ページ「話し合いでよく使う質問のしかた」を読もう。

○話し合いの役割を決めよう。

司会 ●●さん 記録係 ■■さん

二 話し合いをしよう。

メモ

--

○新出漢字の練習をしよう。

過程	評価

# 39

**題材名** 「よりよい学校生活のために③」（第3時／全3時間）

- 目標** 話し合いの学習を振り返ろう。
- ◎ 話し合ったことをクラスで共有し、話し合いの中でよいと思ったことについて、感想を伝え合う。

**領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「よりよい学校生活のために③」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 話し合いの学習を振り返ろう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P. 133を読ませて、話し合いの学習について感想をかかせる。 書いたことをもとに感想を発表する。  ④ P. 134とP. 135「意見が対立したときには」を読ませる。 ・読むのが困難な場合は、教師が模範で読み、解説する。  ⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ・前回の漢字「現状、条件、判断、賛成」も確認する。	・感想を書き、発表する。  ・生活と照らし合わせて読む。  ・新出漢字の練習をする。
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次回は、『漢字の学習③』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

※ 全3回の「話し合い」の学習の最終になるため、出てきた語句や漢字の確認をしたり、前回の話し合いが盛り上がったのであれば、もう一回違う議題で学習したりするなど、弾力的に扱う。

## 指導のポイント

- ・ 日本語の理解が困難な場合は、前回の学習を思い出させて、「話し合ってどんなよいことがあったか。」を聞き出す。
- ・ 漢字の学習については、できるだけ何回も繰り返すこと、意味を考えながら学習することが重要である。ワークシートに書いたら、文章で使う練習をすると効果的である。

板書例

① 題材名「よりよい学校生活のために③」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「話し合いの学習を振り返ろう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ P.133を読み、話し合いの学習の感想を書かせ、発表させる。  
・話し合いのよさや、話し合いで学んだことを書くように促す。  
・書いた意見を発表させる。

④ P.134 P.135「意見が対立したときには」を読ませる。

よりよい学校生活のために③

話し合いの学習を振り返ろう。

感想

相手の意見がわかってよかった。

友達との意見の違いがおもしろかった。

いくつかの意見を組み合わせ、一つの考えが

出てくるのが勉強になった。

新出漢字

過程 評価

(前回 「現状、条件」の復習、

「判断 賛成」も時間があれば練習する)

<すぐに書けない子への手だて>

・「話し合いをしてよかったことは？」と問い、言えたことを書くように促す。

⑤ 新出漢字の練習をさせる。  
・前回の漢字も含め練習し、時間があったら漢字で文章を作らせる。

⑥ 次時の予告をする。  
「次回は『漢字の広場③』の学習をします。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 話し合いの感想を書こう。

--

○新出漢字の練習をしよう。

賛成	判断

○漢字の練習 現状 条件 過程 評価 判断 賛成


○習った漢字を使って、裏に文章を書こう。

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

話し合った感想を伝え合おう。

一 話し合いの感想を書こう。

皆の意見を組み合わせたら、いい解決方法を考え出すことができました。

〇〇さんが自分の体験をもとにして考えを言っていたので、説得力があると思いました。

〇新出漢字の練習をしよう。

判断	
賛成	

〇漢字の練習 現状 条件 過程 評価 判断 賛成


〇習った漢字を使って、裏に文章を書こう。

# 40

題材名 「漢字の広場③」（第1時／全1時間）

- 目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎ 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 教科書の漢字を使って、学級日誌を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字を読み、その後に音読させ、ワークシートに練習させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 「漢字をワークシートに書きましょう。」 ○ 書くときは、とめ・はね・はらい・おれや、書き順を確認しながら書く。 ④ 学級日誌の文を、ワークシートに書かせる。 「絵の内容が伝わるような学級日誌を書きましょう。」 「どんな文が書けそうですか？ 書く前に発表しましょう。」 「考えた文章を、ワークシートに書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」 ○ 実態に合ったかたちで漢字が使えていたら称賛し紹介する。 ○ 全ての漢字を練習してから文を考えることが難しい場合は、一つの場面の漢字を練習してその漢字を使った文を考えることを繰り返す。	・音読し、読み方を覚える。 ・漢字をワークシートに書く。 ・学級日誌の文をワークシートに書く。 ・書いたものを発表する。
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『固有種が教えてくれること』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 既習の漢字の読み書きを確実に身に着けさせるために
  - ・読みがわからない児童には、絵を手がかりに思い出すよう声をかける。知らない児童が多い場合は先に読みと意味を説明して、練習に時間をとる。
  - ・絵の場面で分けて順番に説明していくと、苦手な児童もどこを読んでいるかがわかる。
  - ・扱う漢字をカードなどに書いておくと黒板に書く手間が省ける。
- 既習の漢字を生活の中で適切に使う力をつけるために
  - ・国語辞典、漢字辞典が用意できる場合は、いくつかの漢字については辞書で調べさせてもよい。
  - ・全ての漢字を練習してから文を考えることが難しい場合は、一つの場面の漢字を練習してその漢字を使った文を考えることを繰り返す。

## 板書例

① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「教科書の漢字を使って、学級日誌を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書の熟語を、一通り読み、書き、意味を教える。  
絵と漢字をセットで確認する。

④ 絵をもとにして文章を書かせる。

### 漢字の広場③

教科書の漢字を使って、学級日誌を書こう。

都道府県 漁業 日本各地 産業

(児童の実態によっては、全て書かなくてもよい。)

学級日誌を書こう。

(例に一つ黒板に書き、それを参考にワークシートに書かせてもよい)

○日本各地で漁業がさかんに行われていることを学習した。

○試験管の中の液体を加熱して、変化を観察した。

○栄養に富み、健康的で塩分ひかえめな焼き魚とご飯の給食だった。↑すべて使えた◎

○植物の種を植えて芽が出るまでの観察の方法を確認した。

○学芸会に向けて、合唱と楽器の扱いを覚えた。

○号令を合図に、グラウンド一周の記録を計った。

<すぐに書けない子への手だて>

- ・ 場面の中から1つ選ばせ、漢字を一つでも使って話が作れたら称賛して書くように勧める。
- ・ すぐに書けた児童については、「ほかの場面でも考えてみよう。」「絵にある漢字を全て使ってみよう。」と勧める。

⑤次時の予告をする。

「次の時間は、『固有種が教えてくれること』を学習します。」

漢字の広場③

W  
40

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。


二 学級日誌に記録するように文章を書こう。書ききれなかったらうらに書こう。

五年

組

氏名（

）

今日の学習のめあて

教科書の漢字を使って、学級日誌を書こう。

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。

都道府県	日本各地	漁業	産業
億兆単位	面積	半径	例題
底辺	計量	変化	固体
試験管	加熱	結果	観察
方法	芽種	給食	栄養
富む	塩分	ご飯	焼き魚
健康	合唱	楽器	覚える
学芸会	記録	号令	一周

二 学級日誌に記録するように文章を書こう。書ききれなかったらうらに書こう。

億や兆などの、大きな数の学習をして、例題を解いた。栄養に富み、塩分ひかえめの健康的な給食を食べた。

# 4 1

題材名 「固有種が教えてくれること①」（第1時／全4時間）

目標 「固有種が教えてくれること」を読み取り、書かれている内容を理解できる。  
 ◎ 文章の内容を理解しようとしている。

領域等 B 書くこと C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「固有種が教えてくれること①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「固有種が教えてくれること」を読み、内容をとらえよう。	・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	・ ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ・ 「固有種」の意味を説明する。必要ならば黒板に書く。 ・ 教科書P. 146とP. 147の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『とらえよう』です。文章を初め、中、終わりの3つに分けて読み取ります。」 ③ 初め、中、終わりに段落を分けながら、教科書を読ませる。 実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。 一気に全て読むのではなく、初め、中、終わりで切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、児童の理解の度合いに合わせて進める。 ・ 「改行しているところに数字を入れましょう（全部で11段落）。」 ・ 「初め1、2段落。中3～10段落。終わり11段落の間に線を引きましょう。」 ・ 「筆者の考えの中心はどのようなことか、考えながら読みましょう。」 ④ 教科書の文を読み、筆者の考えをワークシートに書かせる。 (i)初めの筆者の考えを探す。(ii)終わりの筆者の考えを探す。 (iii)中を2つに分ける。(iv)中の前、後ろの筆者の考えを探す。 上のi～ivの順で進めるとよい。 ・ 「『初め』の筆者の考えは、最後の文章で分かります。」 ・ 「同じように、『終わり』の文章から筆者の考えを見つけましょう。」 ・ 「『中』は2つのことが書かれています。どこで分けられるでしょう。」 ・ 「『中』の前（後ろ）では、どんな事がらが書かれているでしょう。」	・ 固有種の語句を知る。 ・ 4時間の学習の最初の授業であることを知る。 ・ 教科書を読み、初め、中、終わりの構成を理解する。 ・ 教科書の文章を段落に分ける。
終 2分	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ・ 効果 統計 環境 分布 減少(減る) 保護 再び 増加(増える) 証人 限り 責任 など、使い方も合わせて教える。 ・ 時間が足りなければ、いくつかの漢字の書き順を練習し、他の漢字については読みと簡単な意味を教える。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、『ふかめる』ところです。文章の中で用いられている図表やグラフ、写真と文章の関わりに注意して読みます。」	・ 筆者の考えを抜き出しワークシートに書く。 ・ 新出漢字の練習をする。 ・ 次時の見通しを持つ。 ワークシートは第3時でも使用するため、回収する。

# 板書例

① 題材名「固有種が教えてくれること①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「『固有種が教えてくれること』を読み、内容をとらえよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。  
・教科書P.146とP.147の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう の3回に分けて学習を進めることを伝える。「今日の学習は『とらえよう』です。文章を初め、中、終わりの3つに分けて読み取ります。」

③ 初め、中、終わりに段落を分けながら読む。  
・「改行しているところに数字を入れましょう（全部で11段落）。」  
・「初め1、2段落。中3～10段落。終わり11段落の間に線を引きましょう。」  
・「筆者の考えの中心はどのようなことか、考えながら読みましょう。」  
実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。

④ 教科書の文を読み取り、筆者の考えをワークシートに書く。  
・筆者の考えが分かるところに線を引き、そこからワークシートに書き出させるとよい。

固有種が教えてくれること①

「固有種が教えてくれること」を読み、  
内容をとらえよう。

固有種 特定の国やちいきにしかない動植物

初め

わたしは、固有種たちがすむ日本の環境を、  
できるだけ残していきたい。

中

固有種が生き続けていくためには、ゆたかな  
環境が保全される必要がある。

固有種の保護は、その生育環境の保護との  
バランスが重要である。

終わり

わたしたちは、固有種がすむ日本の環境を  
できる限り残していかなければなりません。

それが、日本にくらすわたしたちの責任なので  
ないでしょうか。

新出漢字

効果 統計 環境 分布 減少(減る) 保護  
再び 増加(増える) 証人 限り 責任

<すぐには書けない子への手だて>

「筆者の考え」を見つけられない児童には、初め、中、終わりのそれぞれ終わりの方に筆者の考えがあることを伝える。

中は、3～7段落と8～10段落に分けられる。それぞれの最後に筆者の考えがあることを伝える。

⑤ 新出漢字の練習をする（3回に分けて）。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。  
増と減など、対義語で合わせて覚えるとよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、文章の中で用いられている図表やグラフ、写真と文章の関わりに注意して読みます。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 初め、中、終わりに分けて、筆者の考えを書こう。

構成	初め	中 前	.....	後ろ	終わり
筆者の考え					

○ 新出漢字の練習をしよう。


固有種が教えてくれること① 記入見本例 w 41

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

「固有種が教えてくれること」を読み、内容をとらえよう。

構成	筆者の考え		
初め	わたしは、固有種たちがすむ日本の環境を、できるだけ残していきたい。		
中前	固有種が生き続けていくためには、ゆたかな環境が保全される必要がある。		
後ろ	固有種の保護は、その生育環境の保護とのバランスが重要である。		
終わり	わたしたちは、固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければなりません。 (書けたら)それが、日本にくらすわたしたちの責任なのではないでしょうか。		

一 初め、中、終わりに分けて、筆者の考えを書こう。

○ 新出漢字の練習をしよう。(いくつか抜粋して練習)

効果	統計	環境	分布
保護	再び	証人	限り

## 4 2

題材名 「固有種が教えてくれること②」（第2時／全4時間）

目標 文章の中で用いられている図表やグラフ、写真と文章の関わりに注意して読める。  
 ◎ 情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する。

領域等 B 書くこと C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「固有種が教えてくれること②」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
展開 38分	資料と文章の関わりに注意して読みふかめよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声に合わせて読ませる。 ・「資料」の種類を説明する。必要ならば黒板に書く。 ・教科書P.146とP.147の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう の3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『ふかめよう』です。資料と文章の関わりに注意して読み、資料の効果について考えます。」 ※ 要旨にまとめるのは第3時、次回行うことを伝える。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・資料には様々なものがあることを知る。 ・4時間の学習の2回目の授業であることを知る。
	③ 資料と文章を関係づけながら、教科書を読ませる。 実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。 一気に全て読むのではなく、資料が出てくるごとに、資料と文章を線でつないだり解説したりするなど、児童の理解の度合いに合わせて進める。 ・「出てくる資料の数を数えましょう。」 ・「1と2は地図と表、3と4は地図（分布図）、5は写真、6と7はグラフと言います。」 ・「○の資料と文章のどの部分がつながっているのでしょうか。線でつなげましょう。」	・教科書の資料を読み、そこから何がわかるか考える。 ・資料の効果について考える。
終 2分	④ 教科書の資料の効果をワークシートに書かせる。 ・「筆者は、○の資料を示すことで、何を伝えたかったのでしょうか。」 ・「○の資料があるよさは？」「もし○の資料がなかったら？」 児童なりの考えでよい。 例「5のはく製の写真があると『もう生きていない』と伝わってくる。」 「7のグラフで、カモシカをたくさんほかくしていることが分かる。」	・資料の効果をワークシートに書く。
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ・効果 統計 環境 分布 減少(減る) 保護 再び 増加(増える) 証人 限り 責任 など、使い方も合わせて教える。 ・時間が足りなければ、いくつかの漢字の書き順を練習し、他の漢字については読みと簡単な意味を教える。	・新出漢字の練習をする。
	⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、『まとめる』です。『固有種が教えてくれること』の『要旨』と、読んでみた『自分の考え』を書きます。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・ 要旨、文章の構成などの学習に用いる言葉については、P.296を参照するとよい。

# 板書例

① 題材名「固有種が教えてくれること②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「資料と文章の関わりに注意して読みふかめよう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・教科書P. 146とP. 147の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう の3回に分けて学習を進めることを伝える。「今日の学習は『ふかめよう』です。資料と文章の関わりに注意して読み、資料の効果について考えます。」

③ 資料と文章を関係づけながら、教科書を読ませる。

実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。  
一気に全て読むのではなく、資料が出てくるごとに、資料と文章を線でつないだり解説したりするなど、児童の理解の度合いに合わせて進める。

教科書の資料の効果をワークシートに書かせる。

- ・「筆者は、○の資料を示すことで、何を伝えたかったのでしょうか。」
- ・「○の資料があるよさは？」 「もし○の資料がなかったら？」

固有種が教えてくれること②

資料と文章の関わりに注意して読みふかめよう。

資料の種類

グラフ 図表 写真 など

資料の効果

1 地図と表が日本とイギリスが似ているのに、日本に固有種が多いことが分かる。

2 地図と時代の推移から、日本がほかのちいきから分断されたことが分かる。

3と4 図から、気温と標高（ひょうこう）が変化に富んでいることが一目で分かる。

5 写真が絶滅（ぜつめつ）した動物がいることを伝えている。

6と7 グラフから、生息環境（天然林等面積）とニホンカモシカのほかく数の関係が分かる。

新出漢字

効果 統計 環境 分布 減少（減る） 保護  
再び 増加（増える） 証人 限り 責任

<すぐには書けない子への手だて>

「資料の効果」と聞かれても答えられない子もいると予想できる。問答を繰り返して気付かせたい。  
教師「もし資料2の地図がなくて文章だけ読んだらどう？」子ども「わかりにくい。」  
教師「何が？」子ども「日本が大陸から切りはなされたことがわかりにくい。」  
教師「なら、逆に資料があると何がいの？」子ども「～が、わかりやすい。」

⑤ 新出漢字の練習をする（3回に分けて）。  
前回できなかった漢字を中心に。できれば全て読むだけでもするとよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、『まとめる』です。『固有種が教えてくれること』の『要旨』と、読んでみた『自分の考え』を書きます。」



五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

資料と文章の関わりに注意して読みふかめよう。

一 資料と文章を結び付け、資料の効果について考えよう。

資料	資料の題	資料の効果 (児童の言葉でよい)
1	日本とイギリスの 陸生ほ乳類	地図と表が日本とイギリスが似ているのに、日本に固有種が多いことが分かる。
2	日本列島の 成り立ち	地図と時代の推移から、日本がほかのちいきから分断されたことが分かる。
3 4	1年間の平均気温 標高	図から、気温と標高(ひょうこう)が変化に富んでいることが一目で分かる。
5	絶滅したとされる 動物	写真が絶滅(ぜつめつ)した動物がいることを伝えている。
6 7	天然林等面積の推移 全国のニホンカモシカ ほかく数	グラフから、生息環境(天然林等面積)とニホンカモシカのほかく数の関係が分かる。

○ 新出漢字の練習をしよう。(いくつか抜粋して練習)

統計	環境	保護	責任
増える	増加	減る	減少

# 4 3

題材名 「固有種が教えてくれること③」（第3時／全4時間）

目標 目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、書き表し方を工夫しようとしている。

領域等 B 書くこと C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「固有種が教えてくれること③」を黒板に書く。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 「固有種が教えてくれること」を読んで、要旨をまとめよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声に合わせて読ませる。 ・「要旨」について説明する。必要ならば黒板に書く。 要旨とは「筆者が文章で取り上げている、文章の内容や考えの中心となる事がら」であることを確認する ・教科書P. 146とP. 147の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習の最後であることを伝える。 「今日の学習は『まとめよう』です。『固有種が教えてくれること』の『要旨』を書きます。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> <li>・要旨とは何かを理解する。</li> <li>・4時間の学習の3回目の授業であることを知る。</li> </ul>
	③ 「固有種が教えてくれること」を読み、「要旨」を書かせる。 「『筆者の言いたいこと』に気を付けて読みましょう。」 ・音読をする。筆者の言いたいことに線を引きながら読むなど、工夫して読むとよい。 「『要旨』をワークシートに書きましょう。」 ・書き出せない子には、第1時のワークシートをつなげて写せばよいことを伝える。 「第1時のワークシートの文章をつなげて、同じことを言っているところは削りましょう。」 「書けたことを発表しましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時のワークシートのように初め中終わりをまとめれば要旨をとらえられることを知る</li> <li>・自分の考えをワークシートに書く。</li> <li>・書いたことを発表する。</li> </ul>
終 2分	④ 新出漢字の練習をさせる。漢字のミニテストをしてもよい。 ・効果 統計 環境 分布 減少(減る) 保護 再び 増加(増える) 証人 限り 責任 など、使い方も合わせて教える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> </ul>
	⑤ 次時の予告をする。 「次は『固有種が教えてくれること』を読んだ『自分の考え』を書く学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・音読の時間は十分確保する。読むのが苦手な場合は、最初と最後だけ繰り返し練習してもよい。
- ・漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くことよい。

板書例

① 題材名「固有種が教えてくれること③」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「固有種が教えてくれること」を読んで、要旨をまとめよう。  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。  
・教科書P.146とP.147の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう の3回に分けて学習を進めることを伝える。「今日の学習は『まとめよう』です。『固有種が教えてくれること』の『要旨』を書きます。」

③ 第1時のワークシートを読みながら、「要旨」を書かせる。  
その代わりに、第1回のワークシートを改めて読み直す。「第1時のワークシートの文章をつなげて、同じことを言っているところは削りましょう。」

再び 増加 (増える) 証人 限り 責任	効果 統計 環境 分布 減少 (減る) 保護	新出漢字	終わり	中	初め	要旨 筆者が文章で取り上げている、文章の内容や 考えの中心となる事がら	「固有種が教えてくれること」を読んで、 要旨をまとめよう。	固有種が教えてくれること③
-------------------------------------	--	------	-----	---	----	---	----------------------------------	---------------

<すぐに書けない子への手だて>  
「要旨」とは何かを理解して書くことが難しい子が多いと予想される。  
「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめる学習を思い出させるなどしてから書くとよい。それでも難しい子には、第1時のワークシートを写させてもよい。

④ 新出漢字の練習をする。  
ミニ漢字テストをしてもよい。

⑤ 次時の予告をする。  
「次は『固有種が教えてくれること』を読んだ『自分の考え』を書く学習をします。」

固有種が教えてくれること③

W  
43

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

「固有種が教えてくれること」を読んで、要旨をまとめよう。

一 筆者が考える「固有種が教えてくれること」とはどんなことなのかに注意して、この文章の要旨をまとめよう。

初め
中
終わり

○ 新出漢字の練習をしよう。


五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

要旨と自分の考えをまとめよう。

一 筆者が考える「固有種が教えてくれること」とはどんなことなのかに注意して、この文章の要旨をまとめよう。

初め

日本には、固有種がたくさん生息するゆたかな環境がある。

中

固有種が生き続けていくためには、ゆたかな自然環境が保全される必要がある。固有種の保護は、その生息環境の保護とのバランスが重要である。

終わり

わたしたちは、固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければならない。

○ 新出漢字の練習をしよう。(今まで習った漢字の復習)


# 4 4

**題 材 名** 「固有種が教えてくれること④」（第4時／全4時間）

**目 標** 目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、書き表し方を工夫しようとしている。

**領 域 等** B 書くこと C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「固有種が教えてくれること④」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「固有種が教えてくれること」を読んで自分の考えを書こう。	・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。
展 開 38 分	・ ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ・ 「自分の考え」について説明する。 自分の考えは「事実」「感想」「意見」「理由」などがあると伝える。 ・ 教科書P. 146とP. 147の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習の最後であることを伝える。 「今日の学習は『まとめよう』の2回目です。『固有種が教えてくれること』読んだ『自分の考え』を書きます。」 ③ 「自分の考え」をワークシートに書かせる。 「『筆者の言いたいこと』に気を付けて読みましょう。」 ・ 音読をする。筆者の考えに賛成か反対かなど、問いながら読むとよい。 ・ 「『固有種が教えてくれること』を読んで考えたことを書きましょう。」 例「筆者の考えに賛成だ。なぜなら～」 「筆者の考えには賛成だが、『日本にくらすわたしたちの責任』という言葉には納得がいかない。なぜなら、固有種を守ることは、日本だけでなく世界中で重要なことだと考えるからだ。」など、考えを書かせる。 ・ 「書けたことを発表しましょう。」	・ 4時間の学習の4回目の授業であることを知る。 ・ 自分の考えをワークシートに書く。 ・ 書いたことを発表する。
終 2 分	④ 新出漢字の練習をさせる。漢字のミニテストをしてもよい。 ・ 効果 統計 環境 分布 減少(減る) 保護 再び 増加(増える) 証人 限り 責任 など、使い方も合わせて教える。 ⑤ 次時の予告をする。 「次は、『統計資料の読み方』を学習します。」	・ 新出漢字の練習をする。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ 漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くとよい。
- ・

板書例

① 題材名「固有種が教えてくれること④」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「『固有種が教えてくれること』を読んで自分の考えを書こう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・教科書P. 146とP. 147の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう の3回に分けて学習を進めることを伝える。「今日の学習は『まとめよう』です。『固有種が教えてくれること』読んだ『自分の考え』を書きます。」

③ 「自分の考え」をワークシートに書かせる。

「『固有種が教えてくれること』を読んで考えたことを書きましょう。」  
「まず『賛成』『反対』を書いて、その理由を書くと書き進めやすいです。」

固有種が教えてくれること④

「固有種が教えてくれること」を読んで  
自分の考えを書こう。

自分の考え

事実 意見 感想 理由

賛成

反対

理由（資料の効果にもふれて）

新出漢字

効果 統計 環境 分布 減少（減る） 保護  
再び 増加（増える） 証人 限り 責任

<すぐに書けない子への手だて>

「自分の考え」と言われても書けない子は多い。「筆者の考えに賛成か、反対か、または、一部賛成（反対）か？」と問い、その理由を考えさせるとよい。理由を述べる際は、「〇ページに〇〇とあるが…」と、その根拠を書かせると、より説得力のある文になると伝える。

④ 新出漢字の練習をする。  
ミニ漢字テストをしてもよい。

⑤ 次時の予告をする。  
「次は、『統計資料の読み方』を学習します。」

固有種が教えてくれること④

W  
44

五年 組 氏名 (

)

今日の学習のめあて

--

一 筆者の考えや論の進め方について、図表などの効果にもふれながら、自分の考えをまとめよう。

--

○ 新出漢字の練習をしよう。


五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

「固有種が教えてくれること」を読んで自分の考えを書こう。

一 筆者の考えや論の進め方について、図表などの効果にもふれながら、自分の考えをまとめよう。

例

(事実) 筆者は、たくさん資料をもとに「固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければならない。」と述べている。

(感想) 資料1からわかるように、日本にこれだけの固有種がいることはすばらしいことだと思う。

また、資料7からは、生息環境の保護と固有種の保護のバランスが大切なことがわかる。

(意見) わたしも、日本の環境を守っていくことが大切だと考える。

○ 新出漢字の練習をしよう。


# 45

**題材名** 「統計資料の読み方」 (第1時/全1時間)

**目標** 「統計資料の読み方」を読み、資料を読むときに気を付けることを理解する。  
 ◎ 統計資料を読み取り、簡単な意見文を書こうとしている。

**領域等** B 書くこと C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「統計資料の読み方」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 統計資料を読み取り、意見文を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教科書を読み、資料の内容について確認させ、気付いたことをワークシートに書かせる。 「本の貸し出し数の資料は、両方とも同じ月に同じところで調べたものです。なぜ違って見えるのだろうか」 「小学生が好きな本・ざっしの種類の資料は、上と下では違う結果になっています。なぜでしょうか。」 ④ 意見文をワークシートに書かせる。 ・事実と意見を分けて書かせる。 ・「事実」が書けない子には、資料を読んでわかることを言わせて、それをそのまま書くように促す。 「蔵書数が年々増えている。本の貸し出し数が増えている。」 ・次に「意見」を書かせる。 「本がたくさん読めるのはすばらしいことだ。図書室を利用すべきだ。」 「まんがも立派な読書だ。まんがばかり読むのはよくない。」	・資料を読んで気付いたことをワークシートに書く。 ・事実と意見に分けて意見文を書く練習をする。
終 2分	⑤ 新出漢字の練習をさせる。漢字のミニテストをしてもよい。 ・P. 285からを見直して忘れていそうな漢字を復習してもよい。 ⑥ 次時の予告をする。 「次は、『グラフや表を用いて書こう』を学習します。」	・書いたことを発表する。 ・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ 時間があつたら、P. 150 と P. 151 の資料も読み、そこからどんなことがわかるか話し合わせる。
- ・ 漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くとよい。

# 板書例

① 題材名「統計資料の読み方」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「統計資料を読み取り、意見文を書こう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・「『統計資料の読み取り方』の資料を読んで意見文を書く練習をします。」

③ 資料の内容について確認させ、気付いたことをワークシートに書かせる。

④ 意見文をワークシートに書かせる。

## 統計資料の読み方

統計資料を読み取り、意見文を書こう。

事実

意見

新出漢字（何度かやって覚えられていたら

他の漢字をやってもよい。）

再び 効果 統計 環境 分布 減少（減る） 保護  
増加（増える） 証人 限り 責任

⑤ 新出漢字の練習をする。  
ミニ漢字テストをしてもよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『グラフや表を用いて書こう』を学習します。」

# 46

題材名 「グラフや表を引用して書こう」①（第1時／全3時間）

目標 「くらし」についての考えをまとめよう

領域名 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「グラフや表を引用して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「くらし」についての考えをまとめよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・ワークシートに本時の目標を書く。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 手順を確かめる。 ④ 「くらしやすさ」「くらしにくさ」について思いつくままに書き出させる。 ⑤ 自分の考えをうらづける資料を探す。	・自分の考えをワークシートに書きこむ。 ・本や資料集、新聞、インターネットなどで探す。
終末 5分	⑥ 次時の見通しを持たせる 「資料を用いて文章にまとめます。」	・次時の見通しをもつ。

## 指導のポイント

- 事前に本時の学習の予告をし、資料を集めさせておくとよい。
- 教室に複数の資料を準備しておく

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④ 「くらしやすさ」「くらしにくさ」について、  
思いつくままに書き出す。

③ 手順を確かめる

グラフや表を引用して書こう

目標

「くらし」についての考えをまとめよう

くらしにくさ

くらしやすさ

⑤ 自分の考えを裏付ける資料を探す。

⑥ 次時の見通しを持つ。

# グラフや表を引用して書こう①

五年 組 氏名 ( )

W 46

今日の目標

くらしやすさ	
くらしにくさ	

○引用できる資料

# グラフや表を引用して書こう①(記入例)

五年組 氏名( )

W 46

<b>今日の目標</b>
くらしについての考えをまとめよう

くらしにくさ	どこに行っても人が多くて、歩きにくい
くらしにしにくさ	物価が高い おいしい空気がない
くらしやすさ	ないものがないというほど、物がたくさんある ゴミがおちていない 悪いことをする人がいない

## ○引用できる資料

インターネットで調べて、物価を比べる

ゴミの処理の問題について、図書館で探す

## 47

**題材名** 「グラフや表を引用して書こう」②（第2時／全3時間）

**目標** 「くらし」についての考えをまとめよう

**領域名** B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「グラフや表を引用して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">「くらし」についての考えをまとめよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 資料を引用して自分の考えを構想し文章にまとめさせる。 ・自分の考えをうらづける資料を探す。	・自分の考えを文章にまとめる ・目的にあった資料をさがす ・本や資料集、新聞、インターネットなどで探す。
終末 5分	④ 次時の見通しを持つ。 次の時間は「書いた文章をお互いに読み合います」	・次時の見通しをもつ。

### 指導のポイント

- 資料はコピーして文章に添付させる。その際、出典を必ず、明記させる。
- 原稿用紙があれば、活用する。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

③ 資料を引用して自分の考えを文章にする。

- ・身近な資料を活用して考える。
- ・プライバシーの保護も考え公表は控えても、考えさえる。

グラフや表を引用して書こう

目標

「くらし」についての考えをまとめよう

- ・文章表現との違いを感じる
- ・時間的経緯がどう分かるか

※投影的資料から、考えが浮かんでくることは、なぜか考える。

④ 次時の見通しを持つ。





# 48

**題材名** 「グラフや表を引用して書こう」③（第3時／全3時間）

**目標** 「くらし」についての考えをまとめよう

**領域名** B 書くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「グラフや表を引用して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">「くらし」についての考えをまとめよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 資料を引用して自分の考えをまとめたものを発表する。 ・資料を提示しながら発表する。 ・一人ひとりが発表するようにさせる。	・自分の考えを発表する。
終末 5分	④ 次時の見通しを持つ。 次の時間は「古典芸能の世界」を学習します。	・次時の見通しをもつ。

**指導のポイント**

- 資料はコピーして文章に添付させる。その際、出典を必ず、明記させる。
- 原稿用紙があれば、活用する。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

- ③ 資料を引用して自分の考えを文章にする。

グラフや表を引用して書こう

目標

「くらし」についての考えをまとめよう

・自分の今までの経験から皆に知らせたことを考える。

・自分の身近なことを、グラフ、表に表してみよう

(読書本の冊数、正月のお年玉の変化  
自分の年齢と身長 等)

- ④ 次時の見通しを持つ。

# グラフや表を引用して書こう③

五年 組 氏名 ( )

今日の目標	
参考文献	

参考となる表やグラフを、書いてみよう。

# グラフや表を引用して書こう③(記入例)

五年 組 氏名 ( )

W 48

<b>今日の目標</b>
くらしについての考えをまとめよう
ゴミ問題 ゴミ袋 処理方法 ゴミの量の推移
時代によって、量や内容物が変わってきている(グラフ) 各地で起きている問題について、例示する。
参考文献

参考となる表やグラフを、書いてみよう。

# 49

**題材名** 「古典芸能の世界」 (第1時/全1時間)

**目標** 古典について解説した文章を読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知る。  
 ◎ 学習課題に沿って、進んで古典について解説した文章を読もうとしている。

**領域等** 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「古典芸能の世界」を黒板に書く。 ・ 古典と芸能について解説を加える。黒板に書かずに話すだけでもよい。 古典…昔から受けつがれてきたもの 芸能…人間の体で表現する技	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 落語を見て、昔の人のものの見方や考え方を知ろう。 ・ 落語について解説を加える。 「言葉だけで物語を伝える」 「落ちがある」 「笑える話が多い」  ③ P. 154を読み、落語を見るとき視点の黒板に書く。 ○ (映像視聴が可能な場合) 落語を視聴させ、解説する。 ○ (映像が見られない場合) P. 274 P. 275を読ませる。話の筋や落ちがあることを確認する。  ④ 感想を伝え合う。 「落語を見た感想を書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」	・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。  ・ P. 154を読み、落語について知る。ワークシートに書く。  ・ 書いたものを発表する。
終了 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『カンジー博士の暗号解説』を学習します。」	・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ 教師が読んだ後続けて読んだり、教師が読んでいるところを指で追ったりさせる。
- ・ 古典芸能に親しむことが目標なので、上手に読めなくても、落語を視聴して楽しんだり、図書があるなら活用したりして、興味をもって触れることができればよい。

## 板書例

① 題材名「古典芸能の世界」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「落語を見て、昔の人のものの見方や感じ方を知ろう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ P. 154を読み、落語を見るとき視点の視点を黒板に書く。  
・映像を見られる環境であるなら、落語を視聴させる。その後、感想を話し合い、一つ一つの動きの解説を聞く。  
・映像を見られないときは、P. 274、P. 275を読ませ、落語がどんなものか教科書の写真を見ながら解説を聞く。

④ 落語を見た・読んだ感想を話し合わせる。

古典芸能の世界

古典 昔から受けつがれてきたもの  
芸能 人間の体で表現する技

落語を見て、昔の人のものの見方や感じ方を知ろう。

落語 言葉だけで物語を伝える

落ちがある

気を付けて見るところ

声の調子

顔の表情や向き

手や体の動き

せんすや手ぬぐい

(P.274) 寿限無

名前を呼んでいるうちにコブがひっこむ

(P.275) まんじゅうこわい

お茶が飲みたくて「お茶がこわい」と言う

<読むことが難しい子への手だて>

- ・ 教師が読んだ後続けて読んだり、教師が読んでいるところを指で追ったりさせる。
- ・ 古典芸能に親しむことが目標なので、上手に読めなくても、落語を視聴して楽しんだり、図書があるなら活用したりして、興味をもって触れることができればよい。

⑤ 次時の予告をする。

「次の時間は、『カンジエ博士の暗号解読』を学習します。」

五年 組 氏名 (

)

古典…

芸能…

今日の学習のめあて

落語…

気を付けて見るところ…

感想

五年 組 氏名（

）

古典…昔から受けつがれてきたもの

芸能…人間の体で表す技

今日の学習のめあて

落語を見て、昔の人のものの見方や考え方を知ろう。

落語…言葉だけで物語を伝える。

「落ち」がある。

笑える話が多い。

気を付けて見るところ…声の調子

顔の表情や向き

手や体の動き

せんすや手ぬぐい

感想

# 50

**題材名** 「カンジー博士の暗号解読」 (第1時/全2時間)

**目標** 同音異義の漢字を文や文章の中で書き分け、適切に使っていくことができる

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「カンジー博士の暗号解読」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">暗号解読の仕方を考え、問題を解こう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシート ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ P.156を音読させ、暗号解読の仕方を理解させる。 ・音読した後、少し考える時間をとる。 ・答えではなく、解き方がわかった児童に、やり方を発表させる。 ・だれも出ないときは、教師が解き方を説明する。 ・わからないときは、まずひらがなを入れ、その後国語辞典で正しい漢字を探す。 ・ここでやり方を十分理解させる。 ④ 第1問を解読する。 できたら答え合わせをする。 ・隣の人・グループ・全体で (学級の実態に合わせて) (1) ■友 — 親友    世界●▲ — 世界各地 (2) 正● — 正確    位▲ — 位置 (3) ■品 — 新品    電▲ — 電池 (4) 自● — 自覚 (5) ■行 — 進行	・暗号解読の仕方を理解する。 ・第1問を解いてみる。 ・答えあわせをする。
終末 5分	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ⑥ 宿題 (音読・漢字) の確認をする。 ⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、第2問から解いていきます」	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しをもつ。

## 指導のポイント

○児童は日常の経験から、同音異義の漢字があることに気づいている。ここでは、その漢字の特性を暗号解読というゲームにすることで、同音異義の漢字、ひいては漢字全般への興味関心を高めたい。

○教科書には、暗号解読の仕方の説明が書かれているが、学級の理解が高ければ、教科書を読まないで接問題を提示し、解かせてもよい。一つの記号が表す漢字がわかると、次の漢字もわかっていくという暗号解読の楽しさも味わわせたい。

# 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④ 第一問を解説する。

③ 暗号解読の仕方を説明する。

カンジー博士の暗号解読

目標

暗号解読の仕方を考え、問題を解こう

一 暗号解読の仕方

●▲■には同じ読み方の別の漢字が入る

(同音異語)

わからないとき

←

ひらがなを入れ、その後辞書で調べる

二 新出漢字を確認しよう

⑤ 宿題（音読・漢字）の確認をする。

⑦ 次時の見通しを持つ。

今日の学習のめあて

□問一に挑戦しよう

(1) ■友 ( ) 世界 ●▲ ( )

(2) 正 ● ( ) 位 ▲ ( )

(3) ■品 ( ) 電 ▲ ( )

(4) 自 ● ( )

(5) ■行 ( )

□新出漢字の練習をしよう。

	旧	圧	授
	規	仮	紀
	則	基	脈
	貯	額	織
	液	故	築

今日の学習のめあて

暗号読解の仕方を考え、問題を解こう。

□問一に挑戦しよう

- (1) ■友(親友 ) 世界●▲(各地 )
- (2) 正●(正確 ) 位▲(位置 )
- (3) ■品(新品 ) 電▲(電池 )
- (4) 自●(自覚 )
- (5) ■行(進行 )

□新出漢字の練習をしよう。

	旧	圧	授
	規	仮	紀
	則	基	脈
	貯	額	織
	液	故	築

# 51

**題材名** 「カンジー博士の暗号解読」②（第2時／全2時間）

**目標** 同音意義の漢字を文や文章の中で書き分け、適切に使っていくことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
展 開 35 分	① 題材名「カンジー博士の暗号解読」を黒板に書く。	
	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">暗号を解いて、自分の暗号文を作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>ワークシートに書く。</li> <li>範読を聞いた後、音読する。</li> </ul>
	③ 教科書の暗号を解かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>好きな問題から取り組んでよい。</li> <li>わからない漢字は、漢字字典やパソコンを使ってよい。</li> <li>早く終わった児童は、わからない友達を教えてよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗号を解く。</li> </ul>
終 5 分	④ 答えあわせをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で・グループで どちらでも可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えあわせをする。</li> </ul>
	⑤ パソコンや国語辞典などを使って、ほかの同音異義の漢字を調べたり、問題を作ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>同音異義の漢字を探したり、問題を作ったりする。</li> </ul>
	⑥ 宿題（音読・漢字）の確認する。	
	⑦ 次時の予告をする。 「古典の世界（二）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 前時の学習をもとに、個に応じた方法で学習が進められるように工夫する。やりたい問題から取り組ませることで、興味のある児童はどんどん問題を解いていく。漢字に対する興味関心をよりを深めることにつながっていく。
- 漢字に苦手意識を持っている児童には、教師が答えを教えるのではなく、一緒に漢字字典を引いてみたり、パソコンで検索したりしながら、やり方を教えていく。
- 問題作りは、できた問題を友達同士で解きあったり、印刷して配布したりして、楽しむこともできる。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④ 答え合わせをする。

③ 第2問から第4問まで解説させる。

カンジー博士の暗号解読

目標

暗号を解いて、自分の暗号文を作ろう

一 暗号を解読しよう

※第二問の確認

※第三問の確認

※第四問の確認

二 ほかの同音異義語を使って、暗号文を作ろう。

⑤ パソコンや辞書を使って、同音意義の漢字を探したり、問題を作ったりする。

⑥ 新出漢字の練習をする。

⑦ 宿題の確認をする。

今日の学習のめあて

□問二・問三に挑戦しよう

問二

- (1) 実 ■ ( )
- (2) 天 ▲ ( ) 流 ● ( ) ● ▲ ( )
- (3) ■ ▲ ( ) ● 活 ( )
- (4) 愛 ■ ( )
- (5) ● 備 ( )

問三

- (1) 商 ■ ( ) (2) 七 ▲ ( )
- (3) ▲ ■ 車 ( )
- (4) 成 ● ( ) 百 科 ▲ ■ ( )
- (5) 学 級 新 ● ( ) ● 章 ( )

□問題を作ってみよう

五年 組 氏名( )

今日の学習のめあて

暗号を解いて、自分の暗号文を作ろう。

□問二・問三に挑戦しよう

問二

- (1) 実 ■ ( ) 実験 ( )
- (2) 天 ▲ ( ) 天気 ( ) 流 ● ( ) 流星 ( ) ● ▲ ( ) 成功 ( )
- (3) ■ ▲ ( ) 健康 ( ) ● 活 ( ) 生活 ( )
- (4) 愛 ■ ( ) 愛犬 ( )
- (5) ● 備 ( ) 整備 ( )

問三

- (1) 商 ■ ( ) 商店 ( ) (2) 七 ▲ ( ) 七時 ( )
- (3) ▲ ■ 車 ( ) 自転車 ( )
- (4) 成 ● ( ) 成分 ( ) 百科 ▲ ■ ( ) 辞典 ( )
- (5) 学級新 ● ( ) 新聞 ( ) ● 章 ( ) 文章 ( )

□問題を作ってみよう

## 5 2

題材名 「古典の世界（二）」（第1時／全1時間）

目標 親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
 ◎ 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、漢文を音読しようとするすることができる。

領域等 （3）我が国の言語文化

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「古典の世界（二）」を黒板に書く。 P.64～「古典の世界（一）」を振り返り、今回は「漢文」であることを伝える。漢文と古文の違いについて確認させる。  ② 本時の目標を黒板に書く。 漢文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢文を音読させ、文の意味を理解させる。 「まず先生が読みます。様子を想像しながら聞きましょう。」 「次は、みんなで読みます。先生が1文ずつ読むので、続けて読みましょう。」 「最後は、みんなで音読します。大きな声で読みましょう。」 現代語で読んでいるところが漢文のどの部分にあたるか確認しながら、現代語訳を読む。 ○ 「論語」「漢詩」などの意味を解説しながら読む。 「子曰く」や「処々」「夜来」など、解説を加える。	・音読し、読み方を覚える。  ・現代語訳の解説を聞き、文の意味を理解する。
終 2分	④ 読んでみた感想を伝え合う。 「声に出して読んでみた感想を伝え合いましょう」 ○ ただ「感想」と言われても、なかなか話すことは難しい。 「現代文や古文と、どんなところが違うかな」など比較して考えさせるとよい。  ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『漢字の広場④』を学習します。」	・感想を話し合う。  ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・ 読み方が難しいところ、うまく読めないところなどは、教師が読んだ後に読み直させ、音で覚えられるようにするとよい。
- ・ 漢文の細かい意味は理解できなくても、何度も読んで響きやリズムに親しむことを中心に行う。
- ・ なかなか感想が出ない場合は無理をせず、何度も読んだり、気に入った文を暗唱させたりするなど、児童の実態に合わせて、漢文に親しむことを中心に行うとよい。

## 5 2

題材名 「古典の世界(二)」(第1時/全1時間)

目標 親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
◎ 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、漢文を音読しようとするすることができる。

領域等 (3) 我が国の言語文化

① 題材名「古典の世界(二)」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「漢文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「教師が全文を読む。教師の後に児童が読む。児童が全文を音読する。」という順で何度も読み、読み方を覚える。その後、現代語訳を読み、意味を理解する。

④ 読んでみた感想を伝え合う。  
「声に出して読んでみた感想を伝え合いましょう」

### 板書例

古典の世界(二)

現代文 古文 漢文

漢文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。

論語

子曰く、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」と。

子曰く、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。

漢詩

春曉 孟浩然

春眠 曉を覚えず

処々 啼鳥を聞く

夜来 風雨の声

花落つること 知る多少

板書は状況に応じて、全て書かなくてもよい。何回も音読して響きやリズムを感じることを目的なので、写して書く必要もない。

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『漢字の広場④』を学習します。」

# 5 3

題材名 「漢字の広場④」（第1時／全1時間）

目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎ 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

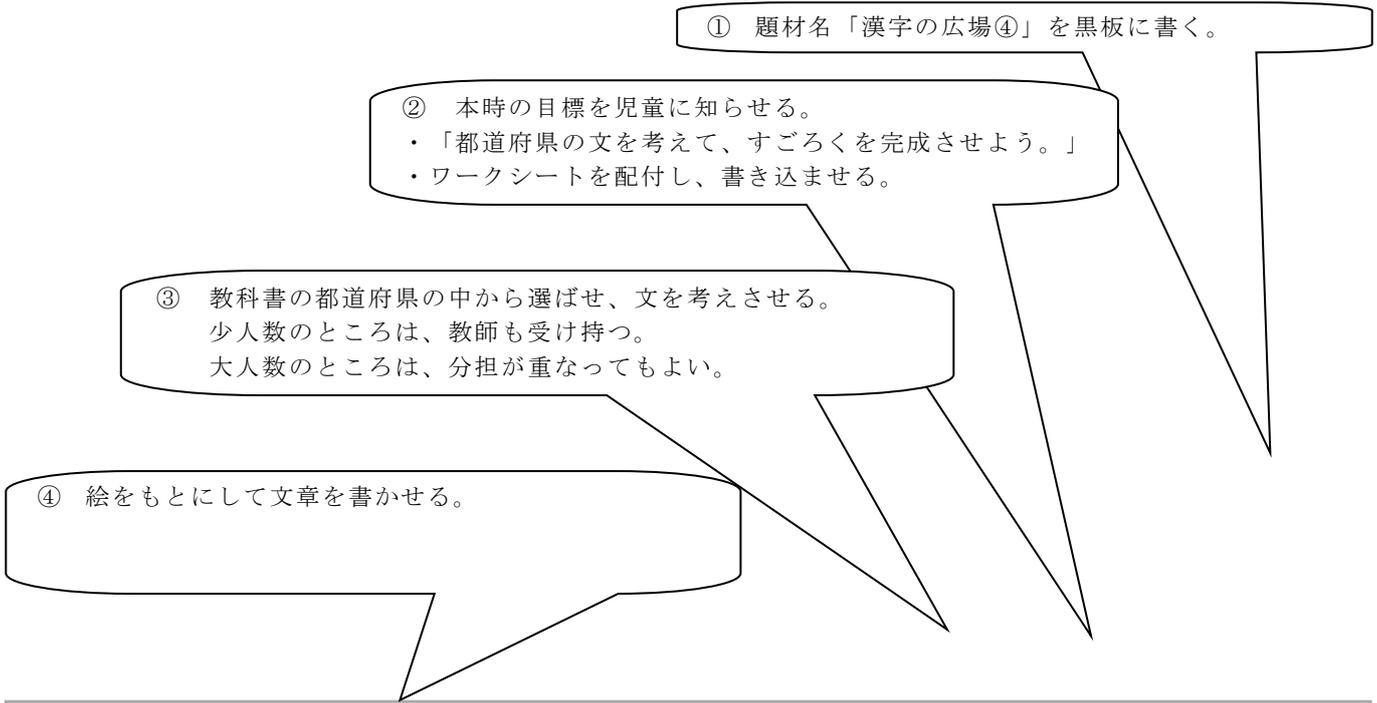
## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">都道府県の文を考えて、すごろくを完成させよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ 都道府県名を読み、その後に音読させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 ○ 「すごろく遊び」の簡単な説明と、教科書の絵が日本列島の北から並んでいることなどを確認しながら話すときよい。 ○ 読みと一緒に絵の解説を加えられるところがあったら話す。 「先生は千葉出身です。落花生という豆の産地です。」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読し、読み方を覚える。</li> </ul>
終 2分	④ 都道府県の文を、ワークシートに書かせる。 「分担して、都道府県の紹介をする文を書きましょう。」 「どんな文が書けそうですか？ 書く前に発表しましょう。」 「考えた文章を、ワークシートに書きましょう。」 「書けたら互いに読み合ってみましょう。」 都道府県すごろくを実際にやってみる。 「コマが自分の担当のところに来たら、紹介しましょう」 ○ 書いた人が読んでも、コマを動かした人に読ませてもよい。  ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『やなせたかし』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県の文をワークシートに書く。</li> <li>・すごろくをする。</li> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 楽しく活動しながら紹介文を考えるために
  - ・サイコロ、コマが用意できない場合は、じゃんけんすごろくをしてもよい。じゃんけんをして、勝った決まり手の数だけ進む「グー(1歩)チョキ(3歩)パー(5歩)」コマは、指でさしたり消しゴムを使ったりする。
  - ・児童の実態に合わせて、「紹介が10秒以内にできたらさらに1歩進める」などルールを追加すると、楽しく遊びながら考えることができる。
- 日本の特産などに詳しくない児童への配慮
  - ・都道府県の特産品やお祭りなど知らない児童が多いことが予想される(国内の児童でも同じである)。「北海道は北にあって、土地が広く農業が盛んです。ジャガイモがたくさん取れます。」など、解説を加えるとよい。
  - ・それでもわかりにくいものについては、県名だけ言ったり、「三重県に赤いエビがいます。」など、絵をそのまま話したりしてもよいことにする。

板書例



漢字の広場④

都道府県の文を考えて、すごろくを完成させよう。

都道府県

北海道…ジャガイモが取れます。

青森県…リンゴの産地です。

沖縄県…サトウキビ畑があります。暑いです。

大分県…温泉があります。

(例に一つ黒板に書き、それを参考にワークシートに書かせてもよい)

<すぐに書けない子への手だて>

- 都道府県の特産品やお祭りなど知らない児童が多いことが予想される(国内の児童でも同じである)。「北海道は北にあって、土地が広く農業が盛んです。ジャガイモがたくさん取れます。」など、解説を加えるとよい。それでもわかりにくいものについては、県名だけ言ったり、「三重県に赤いエビがいます。」など、絵をそのまま書いたりしてもよいことにする。児童の出身地やかかわりのある場所を選ばせて、児童に説明させてもよい。

⑤次時の予告をする。  
「次の時間は、『やなせたかし』を学習します。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 都道府県の読みを確認して、文を考えよう。

二 都道府県すごろくをやってみよう。

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

都道府県の文を考えて、すごろくを完成させよう。

一 都道府県の読みを確認して、文を考えよう。

(例)

北海道は、ジャガイモがたくさん取れます。

青森県は、リンゴの産地として有名です。

岩手県は、実は、わかめの産地です。

宮城県は、七夕祭りが有名です。

秋田県には、なまはげ祭りというお祭りがあります。など

二 都道府県すごろくをやってみよう。

① 順番にサイコロをふってコマを動かす。

② コマを動かしたら、都道府県の文を読む。

③ まだ文ができていないところに行ったら、文を考えて発表する。

④ 一番に「あがり」にいった人の勝ち。

# 54

題材名 「やなせたかし①」（第1時／全3時間）

目標 文章を読んで理解したことにもとづいて、自分の考えをまとめることができる。  
 ◎ 積極的に文章を読み、理解しようとしている。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「やなせたかし①」を黒板に書く。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     「やなせたかし」を読み、「たかし」の生き方をとらえよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。</li> <li>「伝記」を説明する。必要ならば黒板に書く。</li> <li>やなせたかしとアンパンマンについて知っていることを聞き、簡単に説明するとよい。</li> <li>教科書P. 172とP. 173の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習を進めることを伝える。</li> </ul> 「今日の学習は『とらえよう』です。取り上げられている出来事確かめ、その時『たかし』がどんなことをしたか、どんなことを考えたか読み取りましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
	③ 教科書を読む。 実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、出来事で区切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を読み内容を捉える。</li> </ul>
終 2分	④ ワークシートにたかしの生き方を書かせる。 「『たかし』がしたことや考えたことを書きましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容を読み取り、ワークシートに書く。</li> </ul>
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。正義⇔悪 貧しい⇔富む など対義語を紹介すると漢字の定着が図られる。 ・ P. 285からを見直して忘れていそうな漢字を復習してもよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の練習をする。</li> </ul>
	⑥ 次時の予告をする。 「次は、『ふかめよう』の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ワークシートに書かせる内容については、児童が選んだ言葉でよい。記入例と同じにする必要はない。
- 漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くとよい。

板書例

① 題材名「やなせたかし①」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「『やなせたかし』を読み、たかしの生き方をとらえよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書を読む。  
実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、出来事で区切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。

④ ワークシートにたかしの生き方を書かせる。  
「『たかし』がしたことや考えたことを書きましょう。」

やなせたかし①

「やなせたかし」を読み、「たかし」の生き方をとらえよう。

伝記 実在の人物の人生をえがいた読み物

おじとおばに引き取られる

十八で入学。戦場へ行く

弟が戦死したことを知る

三十四でまんが家

五十四で「あんぱんまん」をかく

九十 大震災

九十四 なくなる直前まで絵をかく

新出漢字

夫婦 救う 墓 正義 殺し合い 貧しい 出版社

悪 富む

<すぐに書けない子への手だて>  
「たかし」の行動や考えが表れているところに線を引きながら読ませる。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
対義語を紹介したり、ほかの読みの例を出したりするとよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『ふかめよう』の学習をします。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 それぞれの出来事と、たかしの生き方をまとめよう。

おじとおばに引き取られ生活する	
十八さいで入学。一年後、戦場へ行く。	
弟の千尋が戦死したことを知る。	
三十四さいでまんが家としてデビューする	
東日本大震災が起きる	

○ 新出漢字の練習をしよう。


五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

「やなせたかし」を読み、「たかし」の生き方をとらえよう。

一 それぞれの出来事と、たかしの生き方をまとめよう。

<p>おじとおばに引き取られ生活する</p>	<p>内気な少年になる。 絵をかくようになる。 将来まんが家になりたいという夢をいだく。</p>
<p>十八さいで入学。 一年後、戦場へ行く。</p>	<p>戦場で苦しい目にあう。 食べるものがなく、うえる苦しさを知る。</p>
<p>弟の千尋が戦死したことを知る。</p>	<p>正義とはなんだろうと考える。 「本当の正義とは、おなかがすいている人に、食べ物をわけてあげることだ。」と気がつく。</p>
<p>三十四さいでまんが家としてデビューする</p>	<p>どんな仕事も決して手をぬかなかつた。 五十四さいのとき「あんばんまん」を出版。 人気が出なくても信念をもつて書き続けた。</p>
<p>東日本大震災が起きる</p>	<p>アンパンマンと共に被災地の人々をばげまし続けた。九十四さいでなくなる直前まで、絵や物語をかいていた。</p>

○ 新出漢字の練習をしよう。

<p>夫婦</p>	<p>救う</p>	<p>墓</p>	<p>正義</p>
<p>殺し合い</p>	<p>貧しい</p>	<p>出版社</p>	

# 5 5

題材名 「やなせたかし②」 (第2時/全3時間)

目標 文章を読んで理解したことにもとづいて、自分の考えをまとめることができる。  
 ◎ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとにとらえようとしている。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「やなせたかし②」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">                     言動からうかがえる「たかし」の考え方をふかめよう。                 </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ・教科書P. 172とP. 173の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『ふかめよう』です。『たかし』の言動から『たかし』がどんな考え方をしているか、伝記の筆者が『たかし』をどんな人物だと考えているかまとめていきます。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ 教科書を読む。 実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、出来事で区切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。 「たかしの考え方がわかるどころ、筆者の思いがわかるところに線を引きながら読みましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読み内容を捉える。</li> </ul>
	④ ワークシートにたかしの生き方を書かせる。 「言動からわかる『たかし』の考え方を書きましょう。」 ・児童から出た「〇〇な人」という書き方でまとめさせる。 ・筆者が「たかし」をどのような人物だと思っていたかについても考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を読み取り、ワークシートに書く。</li> </ul>
終 2分	⑤ 新出漢字の練習をさせる。正義⇔悪 貧しい⇔富む など対義語を紹介すると漢字の定着が図られる。 ・P. 285からを見直して忘れていそうな漢字を復習してもよい。  ⑥ 次時の予告をする。 「次は、『まとめよう』の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・ ワークシートに書かせる内容については、児童が選んだ言葉でよい。記入例と同じにする必要はない。
- ・ 漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くとよい。

板書例

① 題材名「やなせたかし②」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・言動からうかがえる「たかし」の考え方をふかめよう。
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書を読む。  
実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、出来事で区切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。

④ ワークシートにたかしの生き方を書かせる。  
「言動からわかる『たかし』の考え方を書きましょう。」

やなせたかし②

言動からうかがえる「たかし」の考え方を  
ふかめよう。

本当の正義

手をぬかない  
三十四さいでデビュー  
書き続ける

本当の勇氣

なくなる直前まで

新出漢字

夫婦 救う 墓 正義 殺し合い 貧しい 出版社  
悪 富む

<すぐに書けない子への手だて>  
「たかし」の行動や考えが表れているところに線を引きながら読ませる。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
対義語を紹介したり、ほかの読みの例を出したりするとよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『まとめよう』の学習をします。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 たかしの言動と、そこからうかがえる考え方を書こう。

言動	考え方
<p>「正義の戦争なんていうものはないんだ。」 「本当の正義とは、おなかがすいている人に、食べ物を分けてあげることだ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな仕事にも決して手をぬかない</li> <li>・三十四さいでまんが家としてデビュー</li> <li>・人気が出なくてもアンパンマンを書き続けた</li> </ul>	
<p>「自分の食べ物をあげてしまったら、自分ができるかもしれない。いじめられている人を。それでも、どうしてもだれかを助けたいと思うとき、本当の勇気がわいてくるんだ。」</p>	
<p>・九十四さいでなくなる直前まで、絵や物語をかいていた。</p>	

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

言動からうかがえる「たかし」の考え方をまとめよう。

一 たかしの言動と、そこからうかがえる考え方を書こう。

言動	考え方
<p>「正義の戦争なんていうものはないんだ。」 「本当の正義とは、おなががすいている人に、食べ物を分けてあげることだ。」</p>	<p>「正義」について真剣に考えた人 平和を願った人</p>
<p>・どんな仕事にも決して手をぬかない ・三十四さいでまんが家としてデビュー ・人気が出なくてもアンパンマンを書き続けた</p>	<p>あきらめない人 信念をもった人</p>
<p>「自分の食べ物をあげてしまったら、自分ができるかもしれない。いじめられている人を。それでも、どうしてもだれかを助けたいと思うとき、本当の勇気がわいてくるんだ。」</p>	<p>自分を犠牲（ぎせい）にしても人のために尽くす人</p>
<p>・九十四さいでなくなる直前まで、絵や物語をかいていた。</p>	<p>自分の生き方をつらぬき通した人</p>

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

# 56

題材名 「やなせたかし③」 (第3時/全3時間)

目標 文章を読んで理解したことにもとづいて、自分の考えをまとめることができる。  
 ◎ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「やなせたかし③」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     伝記から読み取ったことと自分自身のこととを関わらせて、考えたことを書こう。                 </div> ・ ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ・ 教科書P. 172とP. 173の①とらえよう②ふかめよう③まとめようの3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『まとめよう』です。『たかし』の行動や考え方で、共感することや自分もこうありたいと思うところを考えて書きましょう。」	・ 教科書を読み内容を捉える。
終 2分	③ 教科書を読む。 実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、出来事で区切って、その都度線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。 「たかしの行動や考え方で、『すごい』『見習いたい』と思うところに線を引きながら読みましょう。」 ④ ワークシートを書かせる。 「自分の生き方に取り入れたいことを考えて書こう。」 ・ 前回のワークシートを使いながら、事実→考えの順で書かせる。 ・ 思いつかない児童には「あきらめない」「夢を追い続ける」「本当の勇氣」「本当の正義」「最後までつらぬく」など「たかし」の言動を振り返らせ、その中から選んで書かせるとよい。	・ 内容を読み取り、ワークシートに書く。
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。正義⇔悪 貧しい⇔富む など対義語を紹介すると漢字の定着が図られる。 ・ P. 285からを見直して忘れていそうな漢字を復習してもよい。 ⑥ 次時の予告をする。 「次は、『あなたは、どう考える』の学習をします。」	・ 新出漢字の練習をする。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ ワークシートに書かせる内容については、児童が選んだ言葉でよい。記入例と同じにする必要はない。
- ・ 漢字の学習については、何度も書かせるより、まず意味と使い方を理解することに重点を置くとよい。

板書例

① 題材名「やなせたかし③」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「伝記から読み取ったことと自分自身のこととを関わらせて、考えたことを書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書を読む。  
実態に合わせ、教師の音読、児童の音読など、調整して読んでよい。一気に読むのではなく、重要だと思われるところに線を引いたり解説したりするなど、理解度に合わせて進める。

④ ワークシートに書かせる。  
「自分の生き方に取り入れたいことを考えて書こう。」

やなせたかし③

伝記から読み取ったことと自分自身のこととを関わらせて、考えたことを書こう。

読み取ったこと

本当の正義

手をぬかない  
三十四さいでデビュー  
書き続ける

本当の勇氣

なくなる直前まで

新出漢字

夫婦 救う 墓 正義 殺し合い 貧しい 出版社  
悪 貧富 版画など 富む

(救助 殺菌 貧富 版画など)

<すぐに書けない子への手だて>  
「自分の成長したいところは？」と聞いて、そこから「たかし」の生き方と照らし合わせてもよい。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
対義語を紹介したり、ほかの読みの例を出したりするとよい。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『あなたは、どう考える』の学習をします。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 「たかし」の行動や考え方で共感することを書こう。

			「たかし」の考え方	自分もこうありたいと思うこと

二 自分自身の生き方に取り入れたいと思うことを書こう。

--

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

五年

組

氏名 (

)

今日の学習のめあて

伝記から読み取ったことと自分自身のこととを関わらせて、考えたことを書こう。

一 「たかし」の行動や考え方で共感することを書こう。

<p>「たかし」の考え方 (例) 本当の正義を考えた 本当の勇気をもっていた</p>	<p>自分もこうありたいと思うこと (例) 強いだけでは「正義」ではないから、人に優しくできることが正義なのはその通りだと思う。 すぐにあきらめてしまう性格なので、たかしの「あきらめないところ」は見習いたい。</p>
<p>あきらめない やりぬく</p>	<p>自分も夢をかなえたい。 最後まで人のために何かをしたい。</p>
<p>夢をかなえた 自分の人生をつらぬく</p>	<p>自分も夢をかなえたい。 最後まで人のために何かをしたい。</p>

二 自分自身の生き方に取り入れたいと思うことを書こう。

(例) やなせたかしさんは、自分をつらぬき通した人だと思います。なぜなら、死ぬ直前まで好きな物語や絵をかいていたからです。自分も、陸上選手になるという夢があります。最後まであきらめず、やり通す「たかし」の生き方を見習いたいです。やなせさんの「本当の勇気」に共感しました。悪をやっつけることが勇気ではないと自分も思っていたからです。本当の勇気とは、人に優しくできることだと思えます。自分も、たかしの考えを見習って、誰にでも優しくできる人になりたいです。

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

# 57

**題材名** 「あなたは、どう考える？ ①」（第1時／全3時間）

**目標** 「読み手が納得する意見文を書く」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書けるようになる。

◎ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「あなたは、どう考える？ ①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 意見文の題材を決め、自分の考えをもとう。	・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	・ ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ・ 「意見文」について説明する。P. 178の意見文を読んでもよい。 ・ 教科書P. 174の①決めよう集めよう②組み立てよう③書こうの3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『決めよう集めよう』です。意見文の題材を決め、自分の考えをもちます。」 ③ P. 178の意見文を例に、自分の主張、理由と根拠、予想される反論・それに対する考え、まとめ・主張の順に文章が組み立てられていることに気付かせる。 「3回の学習で、178ページの文章のような意見文を書きます。今日は、自分の関心のあることから題材を決めましょう。」	・ 3時間の学習の最初の授業であることを知る。 ・ 教科書を読み、意見文の構成を理解する。
	④ 題材を決めさせ、それについての主張と、理由①、理由②を考えさせる。ワークシートに書かせる。 「題材についての自分の主張を決めましょう。決めたらワークシートに書きましょう。」 ○書くことが難しい場合は、理由は1つでもよい。	・ 題材を決め、自分の主張と、理由を書く。 ・ 新出漢字の練習をする。
終 2分	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 防犯 講師→「構」成と違う ⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、『組み立てよう』のところですよ。」	・ 次時の見通しを持つ。 ワークシートは次も使用するため、回収する。

## 指導のポイント

- ・ 主張、根拠など、学習に用いる言葉については、P. 295を参照するとよい。
- ・ 題材が決められない子には、いくつか例を出して選ばせる。資料を集めることが難しい場合は、身近な例から考えさせるとよい。

例：住むならどこの国か 兄弟の上と下どちらがよいか 手紙かメールか 飼うなら犬かネコか

# 板書例

① 題材名「あなたは、どう考える? ①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「意見文の題材を決め、考えをまとめよう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・教科書P.174の①決めよう集めよう②組み立てよう③書こう の3回に分けて学習を進めることを伝える。「今日の学習は『決めよう集めよう』です。意見文の題材を決め、自分の考えをもちます。」

③ P.178の意見文を例に、自分の主張、理由と根拠、予想される反論・それに対する考え、まとめ・主張の順に文章が組み立てられていることに気付かせる。  
「3回の学習で、178ページの文章のような文を書きます。  
今日は、自分の関心のあることから題材を決めましょう。」

④ 題材を決めさせ、それについての主張と、理由①、理由②を考えさせる。ワークシートに書かせる。  
「題材についての自分の主張を決めましょう。決めたらワークシートに書きましょう。」

新出漢字	あなたは、どう考える? ①
防犯 講師	意見文の題材を決め、考えをまとめよう。
	意見文  自分の主張、意見を述べる文章。 感想文とは異なる。
	題材 例 住むなら日本かロシアか 自分の主張 ロシアがよい
	理由① 日本ではできない体験ができる。 自分の体験から
	根拠 スケートをしたり、ロシア語を習った りした。
	理由② 素晴らしい芸術がある。
	根拠 バレエやピアノをやっている人に聞いた 世界中からロシアの芸術を学びに来 ている人がいる。そんな国に住める ことはめったにないチャンスだ。

<すぐに書けない子への手だて>

題材が決められない子には、いくつか例を出して選ばせる。資料を集めることが難しい場合は、身近な例から考えさせるとよい。

例：住むならこの国か 兄弟の上と下どちらがよいか 手紙かメールか 飼うなら犬かネコか

⑤新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥次時の予告をする。  
「次の学習は、『組み立てよう』のところですよ。」

あなたは、どう考える？ ①

W  
57

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 題材を決め、自分の考えをもとう。

	題材 (P.175 題材の例を参考に決める)
	自分の考え

二 自分の主張、理由、根拠に分けて、考えをまとめよう。

自分の主張	
理由①	
理由②	
根拠	

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

あなたは、どう考える？

①

記入見本例

w 57

五年

組

氏名

(

)

今日の学習のめあて

意見文の題材を決め、自分の考えをもとう。

一 題材を決め、自分の考えをもとう。

題材 (P.175 題材の例を参考に決める)	自分の考え
・電車やバスの優先席は必要か。・スーパーマーケットは二十四時間営業がよいか。	・優先席は要らないと思う。 ・二十四時間営業がよい。

二 自分の主張、理由、根拠に分けて、考えをまとめよう。

自分の主張	バスの優先席は要らない	二十四時間営業がよい。
理由①	優先席がなくてもゆずるべきだ ・〇〇国に住んでみて ↓ 優先席がなくても席をゆずっている。	非常時のとき開いていると助かる ・新聞で読んだ ↓ 台風で停電になったとき、スーパーに避難した。
根拠	優先席と書いていると座りにくい ・家族から聞いた話 ↓ 優先席と書いてあるところが空いていてもつたいない。	便利だ ・〇〇国と比べて ↓ 夜中に物がないうとき、さっと買いにいけることができる。
理由②		
根拠		

○ 新出漢字の練習をしよう。

防犯		講師	
----	--	----	--

# 58

**題材名** 「あなたは、どう考える? ②」 (第2時/全3時間)

**目標** 「読み手が納得する意見文を書く」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書けるようになる。

◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「あなたは、どう考える? ②」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">意見文の構成を決めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> <li>教科書P. 174の②組み立てようの学習であることを伝える。「今日の学習は『組み立てよう』です。文章の構成を決めて、理由や根拠、予想される反論に対する考えを書きます。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	<p>③ P. 178の意見文を例に、自分の主張、理由と根拠、予想される反論・それに対する考え、まとめ・主張の順に文章が組み立てられていることに気付かせる。</p> <p>「今日は、文章の構成を決めます。特に、主張を支える理由と根拠、予想される反論と、それに対する考えを書けるようにしましょう。」</p> <p>④ ワークシートに沿って、初め、中、終わりの構成で文章を組み立てさせる。</p> <p>「どんな反論が予想できますか。それに対する考えは何ですか?」</p> <p>○予想される反論などは教師が示してあげるとよい。</p> <p>⑤ 新出漢字の練習をさせる。時間があれば前回の復習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を読み、理由と根拠、予想される反論とそれに対する考えについて例を元に考える。</li> <li>自分の主張と、理由を書く。</li> <li>新出漢字の練習をする。</li> </ul>
終 2分	<p>⑥ 次時の予告をする。</p> <p>「次の学習は、『書こう』『つなげよう』のところですよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> <li>ワークシートは次も使用するため、回収する。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 補習授業校においては、情報を集めることが難しいことが予想される。インターネットを活用できる場合は「○○のホームページによると…」などと引用したり、保護者や先生の話から想起させて「～の話によると…」と、聞いた話を根拠にしたりできることを伝える。
- 時間があれば今まで習った漢字の復習なども行う。

板書例

① 題材名「あなたは、どう考える? ②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「意見文の題材を決め、考えをまとめよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
・教科書P. 174の②組み立てようの学習であることを伝える。  
「今日の学習は『組み立てよう』です。文章の構成を決めて、理由や根拠、予想される反論に対する考えを書きます。」

③ P. 178の意見文を例に、自分の主張、理由と根拠、予想される反論・それに対する考え、まとめ・主張の順に文章が組み立てられていることに気付かせる。  
「今日は、文章の構成を決めます。特に、主張を支える理由と根拠、予想される反論と、それに対する考えを書けるようにしましょう。」

④ ワークシートに沿って、初め、中、終わりの構成で文章を組み立てさせる。  
「どんな反論が予想できますか。それに対する考えは何ですか?」

<p>新出漢字</p> <p>防犯</p> <p>講師</p>	<p>終わり</p>	<p>・予想される反論と、 それに対する考え</p>	<p>・主張を支える理由と根拠</p>	<p>中</p>	<p>初め</p>	<p>意見文の構成を決めよう。</p>	<p>あなたは、どう考える? ②</p>
---------------------------------	------------	--------------------------------	---------------------	----------	-----------	---------------------	--------------------------

<すぐに書けない子への手だて>  
初めと終わりは、前回のワークシートを参考に書かせるとよい。  
予想される反論はなかなか思いつかない児童が多い。教師から「でも、~だったら?」「もし~と言われたら?」と、異なる立場に立って話すといよい。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、『書こう』『つなげよう』のところですよ。」

あなたは、どう考える？ ②

W  
58

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 初め、中、終わりの順で構成を決めて書こう。

終わり	中	初め
<ul style="list-style-type: none"><li>・まとめ</li><li>・自分の主張</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・主張を支える理由と根拠</li><li>・予想される反論と、それに対する考え</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の主張</li></ul>

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

意見文の構成を決めよう。

一 初め、中、終わりの順で構成を決めて書こう。

終わり	中	初め
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・自分の主張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される反論と、それに対する考え</li> <li>・主張を支える理由と根拠</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の主張</li> </ul>
<p>○わかりやすくあっても困らない。優先席はあるべきだ。</p> <p>●優先席がなくてもゆずりあえる世の中になるべきだ。</p>	<p>○優先席がなくてもゆずるべきではないのか。</p> <p>→優先席がないとゆずるのに勇気がある。ゆずってよいか迷ってしまふ。</p> <p>●優先席があったらゆずりやすいのではないか。</p> <p>→優先席があると、「他の席ではゆずらなくてもよい。」と考えて座ったままの人がいる。(先生に聞いた話)</p>	<p>○電車やバスの優先席は必要だと思う。</p> <p>●必要ないと思う。</p> <p>○優先席があった方が気持ちよくゆずれる。(根拠) 自分の経験。</p> <p>●なくてもゆずるのが当たり前だから。(根拠) ○○国に住んで。</p>

# 59

**題材名** 「あなたは、どう考える? ③」 (第3時/全3時間)

**目標** 「読み手が納得する意見文を書く」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書けるようになる。

◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「あなたは、どう考える? ③」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>考えた構成をもとに、意見文を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> <li>教科書P. 174の③書こう の学習であることを伝える。「今日の学習は『書こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに、自分の考えを文章にまとめます。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	<p>③ 前回のワークシートの構成をもとにして意見文を書かせる。</p> <p>※ 原稿用紙を用意できる場合は用紙に書かせるとよい。</p> <p>「前回のワークシートの構成を使って、1つの文章になるよう書きましよう。」</p> <p>「P. 178の意見文を参考にして書きましよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文を書く。</li> </ul>
	<p>④ 書けた意見文を読み返させて、事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないかなど確かめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話型を使って、前回のワークシートの構成を当てはめるように書かせる。書き出しを与えてもよい。</li> <li>「中」が全てかけなくても、「初め」「終わり」が書けて、「中」で考えの根拠が書けていたらそれを称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書けた意見文を読み返す。</li> <li>互いに読み合う。</li> </ul>
終 2分	<p>⑤ 新出漢字の練習をさせる。時間があれば前回の復習を行う。</p> <p>⑥ 次時の予告をする。</p> <p>「次は、『冬の朝』を学習します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の練習をする。</li> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 補習授業校においては、情報を集めることが難しいことが予想される。インターネットを活用できる場合は「○○のホームページによると…」などと引用したり、保護者や先生の話から想起させて「～の話によると…」と、聞いた話を根拠にしたりできることを伝える。
- 時間があれば今まで習った漢字の復習なども行う。

## 板書例

① 題材名「あなたは、どう考える？ ③」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「考えた構成をもとに、意見文を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。
  - ・教科書P.174の③書こう の学習であることを伝える。  
「今日の学習は『書こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに、自分の考えを文章にまとめます。」

- ③ 前回のワークシートの構成をもとにして、意見文を書かせる。  
原稿用紙を用意できる場合は用紙に書かせることよい。  
「前回のワークシートの構成を使って、1つの文章になるよう書きましょう。」  
「P.178の意見文を参考にして書きましょう。」  
ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。

- ④ 書けた意見文を読み返させて、事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないかなど確かめさせる。

あなたは、どう考える？ ③

考えた構成をもとに、意見文を書こう。

事実 「〜とということがあった。」 「〜と聞いた。」

意見 「〜と考える。〜だと思う。」

「〜のほうがよい。」

わたし・ぼくは〇〇だと思う。

この間、〜と聞いて聞いた。

〜とということがあった。

〜の方がよいだろう。

〜だともうかもしれない。

しかし、〜なのではないだろうか。

〜という点から、〇〇のほうがよい。

<すぐに書けない子への手だて>

- ・話型を使って、前回のワークシートの構成を当てはめるように書かせる。書き出しを与えてもよい。
- ・「中」が全てかけなくても、「初め」「終わり」が書けて、「中」で考えの根拠が書けていたらそれを称賛する。

- ⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

- ⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『冬の朝』を学習します。」

あなたは、どう考える？ ③

W  
59

五年 組 氏名 (

)

今日の学習のめあて

まとめ・主張	予想される反論・それに対する考え	理由と根拠	主張 氏名 題

書いた文章を読み返して、事実と意見が区別できているか、  
分かりにくい言葉や表現がないかなど、確かめましょう。

あなたは、どう考える？ ③ 記入見本例 W 59

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

考えた構成をもとに、意見文を書こう。

(例) 前回のワークシートをつながけながら文章にする。P.118の意見文を参考に、  
話型などはそのまま使ってもよいことを伝える。

わたし・ぼくは○○だと思う。

この間、〓ということを聞いた(ということがあった)。

〓の方がよいだろう。

〓だともうかもしれない。しかし、〓なのではないだろうか。

〓という点から、○○のほうがよい。

ぼくは、電車やバスの優先席は必要だと思う。

この間、日本に帰った時、電車に乗った。優先席が空いていたので座っていた時、お年寄りがきた。普段ぼくは、なかなか席をゆずれない。しかし、このときは、パツとゆずることができた。それは、自分が優先席に座っていたからだと思う。

そうやって考えて周りを見ると、優先席の近くでは席をゆずっている人が多い。ゆずってもらう人も安心してゆずってもらえるようだった。

「優先席がなくても席はゆずるべきだ。」と思うかもしれない。しかし、もし優先席でなかったら、ぼくはなかなかゆずる勇気を出せなかったと思う。それに(資料があれば引用しつつ考えを書く)なのではないだろうか。

多くの人が安心してゆずり合えるという点から、優先席はあったほうがよい。

まとめ・主張 予想される反論・それに対する考え 理由と根拠 主張 氏名 題

書いた文章を読み返して、事実と意見が区別できているか、  
分かりにくい言葉や表現がないかなど、確かめましょう。

# 60

題材名 「冬の朝」 (第1時/全1時間)

目標 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
 ◎ 「枕草子」を音読し、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「冬の朝」を黒板に書く。 P35「春の空」P80「夏の夜」P126『秋の夕暮れ』を振り返り、今回は「冬」について書かれた文章であることを伝える。 ② 本時の目標を黒板に書く。 古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 古文を音読させ、文の意味を理解させる。 「まず先生が読みます。様子を想像しながら聞きましょう。」 「次は、みんなで読みます。先生が1文ずつ読むので、続けて読みましょう。」 「最後は、みんなで音読します。大きな声で読みましょう。」 現代語で読んでいるところが古文のどの部分にあたるか確認しながら、現代語訳を読む。 ○ わかりにくい言葉については黒板に書き、説明を加える。 「つとめて」「言ふべきにもあらず」「つきづきし」など他にも児童から質問が出た場合、説明をする。	・音読し、読み方を覚える。 ・現代語訳の解説を聞き、文の意味を理解する。
終 2分	④ 冬らしいものや様子を文に書き、伝え合う。 「枕草子やP.181の冬に関わる言葉、俳句などを参考にして、『冬らしいもの』を考えて、文に書きましょう。」 「書いたものを伝え合ひましょう。」 ・発表できた児童の文を黒板に書き、紹介する。 ○ 単語でも思いついた児童を称賛し、文にできるように促す。 ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『生活の中で詩を楽しもう』を学習します。」	・冬らしいものや様子を書く。 ・書いたものを発表する。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・読み方が難しいところ、うまく読めないところなどは、教師が読んだ後に読み直させ、音で覚えられるようにするとよい。
- ・古文の細かい意味は理解できなくても、何度も読んで響きやリズムに親しむことを中心に行う。
- ・「冬らしいもの」は、育った環境や住んでいる国によって異なる。「なぜそれが冬らしいか」について児童なりに考えがもてていればよい。
- ・なかなか書けない場合は無理をせず、何度も読んだり、P.36「春の空」P.80「夏の夜」P.126「秋は夕暮れ」を振り返って読んだりするなど、児童の実態に合わせて、古文に親しむことを中心に行ってもよい。この学習で春夏秋冬をやったことになるため、改めてつなげて読むのもよい。

# 板書例

① 題材名「冬の朝」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「教師が全文を読む。教師の後に児童が読む。児童が全文を音読する。」という順で何度も読み、読み方を覚える。その後、現代語訳を読み、意味を理解する。

④ 枕草子やP. 181の冬に関わる言葉、俳句などを参考にして、冬らしいものや様子を文に書き、伝え合う。

冬は朝	枕草子 春はあけぼの 夏は夜 秋は夕暮れ
つとめて	早朝
言ふべきにもあらず	言うまでもない
さらでも	そうでなくても
つきづきし	ふさわしい
わろし	よくない
冬らしいもの	
(例)	
雪(初雪、粉雪、雪化粧)	氷 梅 みかん
正月 こたつ たこあげ	
北風がほおを赤くする。	
朝起きると、一面の雪模様だった。	
みかんがおいしい季節になった。	

<すぐに書けない子への手だて>  
教科書の文や写真について解説し、考えさせる。日本に限定せず、現地での冬を感じさせるものでよい。教科書から言葉を抜き出して、それを文にしてもよい。言葉が思いついた子については、単語から文章にしたり、さらに他の言葉も考えたりするように勧める。

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『生活の中で詩を楽しもう』を学習します。」

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

- 一 音読をして、言葉の響きやリズムに親しもう。  
はじめて聞く言葉を上に書き、意味を調べよう。

はじめてきく言葉	意味

二 冬らしいものや様子を文に書こう。

--

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しもう。

- 一 音読をして、言葉の響きやリズムに親しもう。
- はじめて聞く言葉を上に書き、意味を調べよう。

はじめてきく言葉	意味
つとめて 言ふべきにもあらず さらでも つきづきし わるし	早朝 言うまでもない そうでなくても ふさわしい よくない

二 冬らしいものや様子を文に書こう。

北風がほおを赤くする。  
朝起きると、一面の雪模様だった。  
みかんがおいしい季節になった。



# 板書例

① 題材名「生活の中で詩を楽しもう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「詩の表現の効果を見つけ、お気に入りの詩を選ぼう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「教師が全文を読む。教師の後に児童が読む。児童が全文を音読する。」という順で何度も読み、読み方を覚える。  
比喩や繰り返しの表現を抜き出し、その効果を考えさせる。

④ 教科書の詩の中からお気に入りの詩を1つ選ばせ、どのような表現の効果が使われているか説明させる。  
ワークシートに書かせる。

生活の中で詩を楽しもう

詩の表現の効果を見つけ、お気に入りの詩を選ぼう。

蛇 路

ながすぎる。 路をみれば

するめ ところ おどる

とうとう 土

やじるしに なって 蟻が

きいている 蝶の羽をひいて行く

ああ

ヨットのやうだ

うみは  
あちらですかと…

(詩は、すべて書かなくてよい)

比喩 するめ↓やじるし

蝶の羽↓ヨット

繰り返し 強調する 言いたいことを強める

韻を踏む リズムにのる

お気に入りの詩を選び、その理由を書こう。

<すぐに書けない子への手だて>

教科書の中から詩を1つ選ばせて、書き写させる。選んだ理由を聞き、言えたらそのまま書かせるか、代わりに教師が書いてもよい。

詩の本があるような環境であれば、その中から選んでもよい。

無ければ、P.14の詩を紹介して、韻を踏んでリズムにのれるようになっていることや繰り返しで強調されていることを紹介する。

⑤ 次時の予告をする。

「次の時間は、『方言と共通語』を学習します。」

生活の中で詩を楽しもう

W  
61

今日の学習のめあて

五年

組

氏名（

）

--

一 音読をして、詩の表現の効果を考えよう

表現	効果

二 お気に入りの詩を選ぼう。選んだ理由を書こう。

詩	選んだ理由

今日の学習のめあて

五年

組

氏名（

）

詩の表現の効果を見つけ、お気に入りの詩を選ぼう。

一 音読をして、詩の表現の効果を考えよう

表現	効果
比ゆ 繰り返し 韻（いん）を踏む	想像が広がる。生き生きとする。 言いたいことを強める。強調する。 リズムにのる。

二 お気に入りの詩を選ぼう。選んだ理由を書こう。

詩	選んだ理由
(例) 土 蟻が 蝶の羽をひいて行く ああ ヨットのやうだ	チヨウの羽を ヨットに例えて いるのが面白か ったから。

## 62

**題材名** 「方言」（第1時／全1時間）  
**目標** 書き言葉と話し言葉のちがいを知ろう。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「方言」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">方言について知ろう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書く。
展開 35分	③ 246 ページを範読する ④ 各自音読させる ⑤ 方言の特徴をワークシートにまとめさせる。 ⑥ 方言と共通語について整理させる。 ⑦ 自分の知っている方言について発言させる。	・特徴のちがいをワークシートにまとめる
終末 5分	⑧ 次時の見通しを持たせる 「次の時間は、漢字の広場を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

○ 宿題を出す

・自分の出身地の方言を家の人に聞くなどして調べさせる（調べてきたら、みんなに発表させる）使われている言葉の相違、それから受ける印象の相違などといった観点で読み比べさせる。

# 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④各自で音読させる。

③ 範読する

⑤方言の特徴をまとめる。

方言

目標

方言について知ろう

□方言の特徴

地方特有

感情が伝わりやすい

□方言と共通語

誤解のないように伝えるための共通語

◇自分が知っている方言

ビー紙

模造紙のこと

机をつる

机を運ぶこと

⑥方言と共通語について整理する。

⑦自分の知っている方言を整理する。

五年 組 氏名 )

今日の学習のめあて

□方言の特徴についてまとめよう

□方言と共通語をどのように使い分けるとよいか、まとめよう。

五年 組 氏名（

）

今日の学習のめあて

方言について知ろう

□方言の特徴についてまとめよう

家族や友達と話す時に出る、地方特有の表現方法

住む人の気もちや感覚をぴったりと言い表すことができる。

□方言と共通語をどのように使い分けるとよいか、まとめよう。

違う地方の人どうしが、それぞれの方言で会話したのでは、事柄や気持ち  
ちが伝わらないことがあるので、どの地方の人でも分かる「共通語」を使う  
とよい。

# 63

題材名 「漢字の広場⑤」（第1時／全1時間）

目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎ 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 教科書の漢字を使って、道案内する文を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③漢字を読み、その後に音読させ、ワークシートに練習させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 「漢字をワークシートに書きましょう。」 ○ 書くときは、とめ・はね・はらい・おれや、書き順を確認しながら書く。  ④ 道案内する文を、ワークシートに書かせる。 「目的地のおばあさんの家まで道案内する文をワークシートに書きましょう。」 「『まず』『それから』など、つなげる言葉を使って相手に伝わるように書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」 ○ 実態に合ったかたちで漢字が使えていたら称賛し紹介する。 ○ すぐに書けた児童については、違う道を通る案内や、ほかの場所に行く方法などを書かせてクイズにしてもよい。	・音読し、読み方を覚える。  ・漢字をワークシートに書く。  ・道案内する文をワークシートに書く。  ・書いたものを発表する。
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、『想像力のスイッチを入れよう』を。学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 既習の漢字の読み書きを確実に身に着けさせるために
  - ・読みがわからない児童には、挿絵を手がかりに思い出すよう声をかける。知らない児童が多い場合は先に読みと意味を説明して、練習に時間をとる。
  - ・上、中、下、と分けて、順番に説明していくと、苦手な児童も、どこを読んでいるかがわかる。
  - ・扱う漢字をカードなどに書いておくと黒板に書く手間が省ける。
- 既習の漢字を生活の中で適切に使う力をつけるために
  - ・国語辞典、漢字辞典が用意できる場合は、いくつかの漢字については辞書で調べさせてもよい。（清流、街灯など、漢字から意味を想像しやすい熟語がよい）
  - ・できた文を紹介しあい、道案内ができているかどうか確認すると同時に、漢字が使えていたら丸をつける。漢字で書けるところがあったら「ここも漢字が使えるよ。」と促す。

# 板書例

① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「教科書の漢字を使って、道案内する文を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書の熟語を、一通り読み、書き、意味を教える。  
街灯「街の灯り」清流「清い流れ」のように漢字の意味について説明を受けながら書くと理解がしやすくなる。

④ 道案内の文章を書かせる。  
道順を決め、「まず」「それから」などの言葉を使って説明する文章を書く。

## 漢字の広場⑤

教科書の漢字を使って、道案内する文を書こう。

清流  
街灯  
牧場

・  
・  
・

(児童の実態によっては、全て書かなくてもよい。  
左折、直進など、道案内に必要な言葉があったら黒板に書いて教える)

道案内する文を書こう。

例(途中まで黒板に書き、続きをワークシートに書かせてもよい)

まず、改札を出ます。徒歩でまっすぐ行って博物館を右折します。印刷所を通り過ぎたら左折します。

<すぐに書けない子への手だて>

- ・教科書を指でなぞり、どこの前を通り過ぎるかなど確認して○をつける。それらを参考に文を書かせる。
- ・すぐに書けた児童については、違う道を通る案内や、ほかの場所に行く方法などを書かせてクイズにしてもよい。

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『想像力のスイッチを入れよう』を学習します。」

漢字の広場⑤

W  
63

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。


二 「まず」「それから」などつなげる言葉を使って  
道案内する文を書こう。書ききれなかったらうらに書こう。

五年

組

氏名（

）

今日の学習のめあて

教科書の漢字を使って、道案内する文を書こう。

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。

目的地	清流	街灯	浅い
付近	牧場	両側	野菜畑
松	民家	建物	低い
衣料品店	木材	倉庫	
印刷所	博物館	右折	交差点
陸上競技場	百貨店	徒歩	改札

二 「まず」「それから」などつなげる言葉を使って  
道案内する文を書こう。書ききれなかったらうらに書こう。

# 64

**題材名** 「想像力のスイッチを入れよう①」（第1時／全2時間）

**目標** 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。  
 ◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。

**領域等** B 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「想像力のスイッチを入れよう①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 事例と筆者の意見との関係に気を付けて読もう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。</li> <li>・教科書P. 196の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう④ひろげよう の内容の①と②をやることを伝える。 「今日の学習は『とらえよう』『ふかめよう』です。本文を読んで、筆者の考えを整理しましょう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間の学習の最初の授業であることを知る。</li> </ul>
終 2分	③ P. 188の本文を読み、大きく三つのまとまりの中でそれぞれ筆者が何を言おうとしているかまとめさせる。 「この本文は、始め188～189 中190～193の2行目 終わり193の3行目から最後まで、の3つに分けられます。それぞれのところで筆者が何を伝えようとしているか、ワークシートに書きましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読み、ワークシートに記入していく。</li> </ul>
	④ 筆者の考える「想像力のスイッチ」とはどのようなことか、まとめさせる。 「筆者の考える『想像力のスイッチ』とはどのようなことでしょうか、本文中の言葉を使ってまとめましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。</li> </ul>
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 慣 性 益 制 造 型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> </ul>
	⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、③まとめよう④ひろげよう のところです。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・2時間で「とらえ」「ふかめる」まで行うことが難しい場合は、読み取りと音読に時間をかける。
- ・事例と、その事例を入れる効果を考えながら読ませるとよい。

# 64

題材名 「想像力のスイッチを入れよう①」（第1時／全2時間）

目標 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。  
◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。

領域等 B 読むこと

① 題材名「想像力のスイッチを入れよう①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「事例と筆者の意見との関係に気を付けて読もう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
・教科書P.196の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう④ひろげようの内容の①と②をやることを伝える。  
「今日の学習は『とらえよう』『ふかめよう』です。本文を読んで、筆者の考えを整理しましょう。」

③ P.188の本文を読み、大きく三つのまとまりの中でそれぞれ筆者が何を言おうとしているかまとめさせる。  
「この本文は、始め188～189 中190～193の2行目 終わり193の3行目から最後まで、の3つに分けられます。それぞれのところで筆者が何を伝えようとしているか、ワークシートに書きましょう。」

④ 筆者の考える「想像力のスイッチ」とはどのようなことか、まとめさせる。  
「筆者の考える『想像力のスイッチ』とはどのようなことでしょうか、本文中の言葉を使ってまとめましょう。」

## 板書例

想像力のスイッチを入れよう①

事例と筆者の意見との関係に気を付けて読もう。

① 始め  
事例 半分かくされた図形  
筆者の言いたいこと 与えられた情報だけを  
事実の全てだと受け止めるのではなく、「想像力のスイッチ」を入れることが大切

② 中  
事例 サッカーの報道  
筆者の言いたいこと メディアが伝えた情報  
について、冷静に見直すこと、伝えていないことにも想像力を働かせることが大切

③ 終わり まとめ  
筆者の考える「想像力のスイッチ」とは？  
あたえられた小さいまどから小さい景色をながめるのではなく、自分の想像力でかべを破り、大きな景色をながめて判断できる人間になること

新出漢字 慣性 益 造型

<すぐに書けない子への手だて>  
音読しながら、板書例の部分に線を引かせたり、何度か読み返したりするなどして、筆者が言いたいことの部分を強調して読ませる。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、『まとめよう』『広げよう』です。」

想像力のスイッチを入れよう①

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 本文の事例と、筆者が言いたいことをまとめよう。

(「終わり」は、筆者が考える「想像力のスイッチ」について本文から抜き出して書きましよう)

終わり	中	始め	
			事例
	筆者が考える「想像力のスイッチ」とは？		筆者が言いたいこと

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

事例と筆者の意見との関係に気を付けて読もう

一 本文の事例と、筆者が言いたいことをまとめよう。  
 (「終わり」は、筆者が考える「想像力のスイッチ」について本文から抜き出して書きましよう)

終わり	中	始め	
図形と報道	サッカーの報道	半分かくされた図形	事例
筆者が考える「想像力のスイッチ」とは？ あたえられた小さいまどから小さい景色をながめるのではなく、自分の想像力でかべを破り、大きな景色をながめて判断できる人間になること	メディアが伝えた情報について、冷静に見直すこと、伝えていないことにも想像力を働かせることが大切	与えられた情報だけを事実の全てだと受け止めるのではなく、「想像力のスイッチ」を入れることが大切	筆者が言いたいこと

○ 新出漢字の練習をしよう。

慣性	収益	制限	造型
----	----	----	----

# 65

題材名 「想像力のスイッチを入れよう②」（第2時／全2時間）

- 目標 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- ◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。

領域等 B 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「想像力のスイッチを入れよう②」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メディアとの関わり方について自分の考えを文に書こう。</div> <p>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。</p> <p>・教科書P. 196の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう④ひろげよう の内容の③と④をやることを伝える。 「今日の学習は『まとめよう』『ひろげよう』です。本文を読んで、自分の考えを書きましょう。」</p>	<p>・本時の目標を知る。</p> <p>・声を合わせて目標を読む。</p> <p>・2時間の学習の2時間目の授業であることを知る。</p>
展開 38分	<p>③ P. 188の本文を読み、共感したこと、疑問に思ったことをワークシートに書かせる。 「先生が読みます。共感したこと(そうだな、と思ったこと)、疑問に思ったこと(あれ? と思ったこと)をそれぞれ探して書きましょう。」</p> <p>○文章を読みながら線を引かせるとよい。</p> <p>④ 自分の考えを書かせ、発表させる。 「メディアとの関わり方についての自分の考えを書きましょう。」</p> <p>○194ページは詳細に読むのではなく、それぞれのメディアの特徴を伝えるだけでよい。考えを書くヒントを見つけられるよう扱う。 「書いたことを発表しましょう。」</p> <p>⑤ 新出漢字の練習をさせる。 慣 性 益 制 造 型</p>	<p>・教科書を読み、共感したこと、疑問に思ったことをワークシートに書く。</p> <p>・ワークシートに記入する。</p> <p>・新出漢字の練習をする。</p>
終 2分	<p>⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、『複合語』です。」</p>	<p>・次時の見通しを持つ。</p>

## 指導のポイント

- ・2時間で「ひろげる」「まとめる」まで行うことが難しい場合は、読み取りと音読に時間をかける。本単元は、「読むこと」を中心とした学習であり、本時の「考えを書く」活動は、より筆者の考えを理解したり自分の考えをもって読んだりするための学習である。「どの文からそう考えましたか。」などの発問をして、本文に戻って考えさせるとよい。

# 65

題材名 「想像力のスイッチを入れよう②」 (第2時/全2時間)

目標 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。  
◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。

領域等 B 読むこと

① 題材名「想像力のスイッチを入れよう②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「メディアとの関わり方について自分の考えを文に書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
・教科書P.196の①とらえよう②ふかめよう③まとめよう④ひろげようの内容の③と④をやることを伝える。  
「今日の学習は『まとめよう』『ひろげよう』です。本文を読んで、自分の考えを書きましょう。」

③ P.188の本文を読み、共感したこと、疑問に思ったことをワークシートに書かせる。  
「先生が読みます。共感したこと(そうだな、と思ったこと)、疑問に思ったこと(あれ?と思ったこと)をそれぞれ探して書きましょう。」

④ 自分の考えを書かせ、発表させる。  
「メディアとの関わり方についての自分の考えを書きましょう。」  
「書いたことを発表しましょう。」

## 板書例

新出漢字	友達の考え	自分の考え	疑問に思うこと	共感すること	文に書こう。	想像力のスイッチを入れよう①
慣性					メディアとの関わり方について自分の考えを	
益						
製造						
型						

<すぐに書けない子への手だて>

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、『複合語』です。」

想像力のスイッチを入れよう②

W  
65

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 本文を読んで共感したところ、疑問に思ったことをまとめよう。

疑問	共感

二 「もっと読もう」(194ページ)を読んだり、これまでにメディアとかかわった経験を思い出したりして、メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書こう。

--

○ 新出漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

メディアとの関わり方について自分の考えを文に書こう

一 本文を読んで共感したところ、疑問に思ったことをまとめよう。

疑問	共感
	自分も全然違うことを周りに言われて嫌な思いをしたことがある。「だけれか言っていた。」だけでその言葉を事実だと思うのは危険だと思った。一つ一つの言葉について、事実か印象かと考えることは大切だと思った。
	テレビやインターネットなどのメディアが必ず本当とは言えないのはわかったが、ほかに見るものがない状況で、何を信じればいいのかわからない。

二 「もつと読もう」(194ページ)を読んだり、これまでにメディアとかかわった経験を思い出したりして、メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書こう。

よくインターネットを見るけれど、そこに書かれていることが本当かどうかあまり考えたことがなかった。「あらゆる立場の人がアクセス可能なだけに、その情報が本当なのかどうか、どういう立場から発せられたものなのか、テレビや新聞以上に情報を判断する力(メディアリテラシー)が求められます。」と書いてあったが、その通りだと思う。

その情報が本当かどうかも大切だが、書かれていないことにも「想像力のスイッチ」を入れて考えられるようになりたい。

○ 新出漢字の練習をしよう。

慣性	収益	制限	造型
----	----	----	----

# 66

題材名 「複合語」①（第1時／全2時間）

目標 ◎複合語とはどういうものだろう

領域等 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「複合語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 複合語とはどういうものだろう	③ ④ ・ 本時の目標を知る。 ・ 漢字から考えさせる。
展開 30分	③ 複合語の意味を考えさせる。 ④ P. 199の本文を判読する。 ⑤ 本文を読んで、複合語の意味をワークシートにまとめさせる。 ⑥ 「飛びー」という言葉を集めさせる。 ⑦ いろいろな組み合わせがあることを知らせる。 ⑧ 漢字の読みを確認し、書かせる。	・ ワークシートにまとめる。     ・ 組み合わせの1と2の漢字と読みをワークシートに書く。 ・ 元の言葉と発音が変わることがあることを知る。
終末 5分	⑨ 次時の見通しを持つ。 「次の時間は『複合語の他の組み合わせ』について、学習します。」	

## 指導のポイント

- 漢字を正しく発音しているか、正しく書いているか、一人ずつ確認する。
- 宿題を出す
  - ・ 漢字の練習



複合語①

五年組 氏名 ( )

W 66

今日の目標			
複合語とは			
「飛び」のつく複合語			
複合語の組み合わせ 1 和語と和語			
綿毛		魚市場	
たまご形		角笛	
正夢		墓参り	
枝分かれ		早起き	
細長い		息苦しい	
2 漢語と漢語			
消費税		輸入品	
団体戦		人工衛星	
農耕地帯		損害保険	
管理事務所			

# 複合語①

五年組 氏名 ( )

W 66

今日の目標			
複合語とはどういうものだろう			
<b>複合語とは</b> 二つ以上の言葉が結びついて、新たな一つ言葉になったもの			
<b>「飛び」のつく複合語</b> 飛び上がる ぼくは君の訪問に、飛び上がっておどろいた。			
<b>複合語の組み合わせ</b> 1 和語と和語			
綿毛	わたげ	魚市場	うおいちば
たまご形		角笛	
正夢		墓参り	
枝分かれ		早起き	
細長い		息苦しい	
2 漢語と漢語			
消費税	しょうひぜい	輸入品	
団体戦		人工衛星	
農耕地帯		損害保険	
管理事務所			

# 67

題材名 「複合語」②（第2時／全2時間）

目標 ◎複合語の組み合わせを調べよう

領域等 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「複合語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 複合語の組み合わせを調べよう	③ ④ ・ 本時の目標を知る。
展開 30分	③ 複合語の復習をする。 ④ 前時のワークシートを見ながら、漢字の読みの確認をする。 ⑤ 前時の続きの漢字の読みを確認し、複合語の組み合わせ（3）からワークシートに書かせる。 ・ 新出漢字は書き順も全員で確認する。	・ 複合語の意味をワークシートに書く。 ・ 全員または一人ずつ読む。 ・ 声に出して読む。 ・ 教科書を見ながら、ワークシートに書きこむ。 ・ 発音の変わる言葉と読みをワークシートに書きこむ。
終末 5分	⑥ わからない言葉の意味を国語辞典で調べさせる。 ⑦ 次時の見通しを持つ。 「次の時間は『伝わる表現を選ぼう』です。」	・ わからない言葉を書き出し、意味を調べて書く。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 読み方をしっかりおさえるようにする。  
早く終わった児童には漢字練習をさせる。
- 宿題を出す。  
・ 新出漢字の練習。

板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書かせる。

- ③ 複合語の復習をする。
- ④ 前時のワークシートを見ながら、漢字の読みの確認をする。

- ⑤ 前時の続きの漢字の読みを確認し、ワークシートに書かせる。

6	5	4	3	2	1	複	一	複	言葉
漢	和	和	外	漢	和	合	つ	合	の
語	語	語	語	語	語	語	の	語	組
と	と	と	語	と	と	の	言	と	み
外	外	漢	と	漢	和	組	葉	は	立
来	来	語	外	語	語	み	に	の	て
語	語	来	語	語	語	合	な	言	
		語				わ	っ	葉	
						せ	た	が	
						ら	も	結	
						い	の	び	
						っ	い	つ	
						て	て	い	
								っ	
								た	
								な	

- ⑥ わからない言葉の意味を国語辞典で調べさせる。

- ⑨ 次時の見通しを持つ

# 複合語②

五年 組 氏名 ( )

今日の目標			
複合語とは			
複合語の組み合わせ			
3 外来語と外来語			
4 和語と漢語			
5 和語と外来語			
6 漢語と外来語			
発音の変わる言葉			
意味調べ			
言葉	意味		

# 複合語②(記入例)

五年 組 氏名 ( )

今日の目標	
複合語の組み合わせを調べよう	
複合語とは 二つ以上の言葉が結びついて、新たな一つ言葉になったもの	
複合語の組み合わせ	
3 外来語と外来語	
ビデオカメラ	オレンジジュース
4 和語と漢語	
待ち時間	雪合戦
5 和語と外来語	
粉ミルク	スープ皿
6 漢語と外来語	
ピアノ教室	
発音の変わる言葉	
前歯	まえは
船旅	ふなたび
意味調べ	
言葉	意味

# 68

題材名 「伝わる表現を選ぼう」（第1時／全1時間）

目標 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる  
 ◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「伝わる表現を選ぼう」を黒板に書く。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     相手や意図に応じた言葉を使って、手紙を書こう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
	③ 本時の課題を確認させ、相手と意図を決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.202～P.204を教師が読む。児童も読んで、わからない言葉を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と意図を決めてワークシートに書く。</li> </ul>
終 2分	④ 相手や意図に応じた手紙の文を書かせる。 「相手に伝わるように手紙の文を書きましょう。」 （相手が思いつかない）隣の子、先生、テレビで見る人でもよい。手紙の練習なので、うまく書く必要はない、また、実際に出せない人でもよいと伝える。 （書き出しが思いつかない）「お久しぶりです。」「〇〇国は暑く（寒く）なってきましたが、そちらはいかがでしょう。」など、書き出しを与える。 （意図が明確でない）感謝の気持ちなら、ただ「ありがとう」ではなく、自分がどれくらいうれしかったか、よろこんでいるかを聞き出し、それを書かせる。 お願ひも、なぜそうして欲しいか話をさせて、それから書かせると、より伝わることを教える。 「お互いに読んで、アドバイスをしましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙文を書く。</li> <li>・互いに手紙の文を読みあい意見を伝える。</li> </ul>
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・採集 採用 伐採 など、使い方も合わせて教える。</li> <li>・前回、学習した漢字の復習も合わせて行う。P.199の漢字の読みだけでも確認するとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> </ul>
	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は『この本、おすすめします』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・ 相手や意図に応じた手紙文を書くことが目的である。教科書の読み取りを詳細に行う必要はない。
- ① 相手が知っている言葉を使う「採集→取り 各自→一人一人 適切→ちょうどよい 容器→入れ物 持参→持ってくる」
  - ② 文末表現を書きかえると「行くにあたり→行きますので すること→しましょう」となる。
  - ③ 書きかえてよい言葉と、よくない言葉 「校外学習を遠足にすると、意味が変わってしまう」  
 以上を踏まえ、教科書の文は「校外学習でこん虫取りに行きますので、一人一人がちょうどよい入れ物を持ってきましょう。」と変えることができる。

# 板書例

① 題材名「伝わる表現を選ぼう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「相手や意図に応じた言葉を使って、手紙を書こう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P.202～P.204を教師が読む。

- ③ 「相手に応じた言葉」「意図に応じた言葉」を読み、相手と意図をワークシートに書かせる。
- ・この場合の意図は「手紙で伝えたい気持ち」であることを伝える。「誰に書くか、相手を決めましょう。」
  - 「何のために書くかはっきりさせましょう。」

- ④ 相手や意図に応じた手紙の文を書かせる。
- ・ワークシートはそのまま持って帰り、実際に渡しても、手紙に書くための下書きとして使ってもよいことを伝える。
  - ・P.256、P.257の文例を読ませてから書かせるとよい。

新出漢字 採  
(時間があれば、前回の漢字の復習も  
する)

連絡  
お願い  
感謝の気持ち

相手  
意図 (何を伝えたいか)

相手や意図に応じた言葉を使って、手紙を書こう

伝わる表現を選ぼう

<すぐに書けない子への手だて>  
 (相手が思いつかない) 隣の子、先生、テレビで見る人でもよい。手紙の練習なので、うまく書く必要はない、また、実際に出せない人でもよいと伝える。  
 (書き出しが思いつかない) 「お久しぶりです。」「〇〇国は暑く(寒く)なってきましたが、そちらはいかがでしょう。」など、書き出しを与える。  
 (意図が明確でない) 感謝の気持ちなら、ただ「ありがとう」ではなく、自分がどれくらいうれしかったか、よろこんでいるかを聞き出し、それを書かせる。お願いでも、なぜそうして欲しいか言わせて、それから書かせる。  
 このように、すぐに書けない場合は、まず話をさせて、それをそのまま書くように伝えるとよい。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
 とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
 「次の時間は『この本、おすすめします』を学習します。」





# 69

題材名 「この本、おすすめします ①」（第1時／全3時間）

目標 「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて簡単に書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができる。

◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「この本、おすすめします ②」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
展開 38分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">すいせんしたい本を選び、すすめる理由を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声に合わせて読ませる。</li> <li>・「推薦文」について説明する。P. 208、209の文を読んでもよい。</li> <li>・教科書P. 206の①決めよう②集めよう③組み立てよう④書こうの3回に分けて学習を進めることを伝える。</li> </ul> <p>「今日の学習は『決めよう集めよう』です。すいせんしたい本を決め、すすめる理由を考えます。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> <li>・3時間の学習の最初の授業であることを知る。</li> </ul>
	<p>③ P. 208、209のすいせん文を例に、見出し、本の情報、本のしょうかい、すいせんする理由、よびかけの順に文章が組み立てられていることに気付かせる。</p> <p>「3回の学習で、209ページのようなすいせん文を書きます。今日は、自分のすいせんしたい本を決めましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読み、すいせん文の構成を理解する。</li> </ul>
終 2分	<p>④ 本を決めさせ、すいせんする相手、本の内容、理由をワークシートに書かせる。</p> <p>「ワークシートに書きましょう。」</p> <p>○P. 207の文例を参考に書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいせんする本を決める。</li> <li>・理由などを考える。</li> </ul>
	<p>⑤ 漢字の練習をさせる。</p> <p>綿 枝 費 税 輸 団 衛 耕 損 険 務 粉 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の練習をする。</li> </ul>
	<p>⑥ 次時の予告をする。</p> <p>「次の学習は、『組み立てよう』のところですよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> <li>ワークシートは次も使用するため、回収する。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・ 自分のすいせんしたい本を選ばせる。難しい本でなくてよいことや、相手に合った本にするとよいことを伝える。
- ・ すいせんしたい本が見つからない場合は、教科書に載っている話でもよいことを伝える。
- ・ 本単元に新出漢字はない。以前の漢字の復習を行うとよい。
- ・ 単元を通して、毎回、少しでも音読をするとよい。

板書例

① 題材名「この本、おすすめします ①」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「すいせんしたい本を選び、すすめる理由を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。
  - ・「推薦文」について説明する。P. 208、209の文を読んでもよい。
  - ・教科書P. 206の①決めよう ②集めよう ③組み立てよう ④書こうの3回に分けて学習を進めることを伝える。

③ P. 208、209のすいせん文を例に、見出し、本の情報、本のしょうかい、すいせんする理由、よびかけの順に文章が組み立てられていることに気付かせる。  
「3回の学習で、209ページのようなすいせん文を書きます。今日は、自分のすいせんしたい本を決めましょう。」

④ 本を決めさせ、すいせんする相手、本の内容、理由をワークシートに書かせる。  
「ワークシートに書きましょう。」

<p>漢字 (例) 201ページ 綿 枝 費 税 輸 団 衛 耕 損 険 務 粉 など</p> <p>(ただ書き写すのではなく、熟語で覚えたり、その漢字を使って文章を作らせたりする学習が有効) 綿製品の輸入に費用がかかったが、税金がたくさんかかり結局損をした。など</p>	<p>理由 来年読むから アンパンマンはみんなが好き 自分が読んで感動した など</p>	<p>本の内容 アンパンマンの作者 やなせたかさんの伝記</p>	<p>すいせんする本 やなせたかし</p>	<p>相手 (例) 弟 妹 友達 4年生の友達</p>	<p>すいせん文 何かについてすすめる、紹介する文</p>	<p>書こう。 すいせんしたい本を選び、すすめる理由を書こう。</p>	<p>この本、おすすめします ①</p>
--	--	--	---------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---	----------------------

<すぐに書けない子への手だて>

題材が決まらない子には、いくつか例を出して選ばせる。資料を集めることが難しい場合は、身近な例から考えさせるとよい。

例：住むならどこの国か 兄弟の上と下どちらがよいか 手紙かメールか 飼うなら犬かネコか

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の学習は、『組み立てよう』のところです。」

この本、おすすめします ①

W  
69

五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

--

一 すいせんしたい本を選ぼう。

相手	すいせん する本	本の内容	理由

○ 漢字の練習をしよう。

--	--	--	--

この本、おすすめします ① 記入見本例 w 69

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

すいせんしたい本を選び、すすめる理由を書こう。

一 すいせんしたい本を選ぼう。

相手	自分の妹(四年生)
すいせん する本	「やなせたかし」
本の内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ アンパンマンの作者 やなせたかさんの伝記</li></ul>
理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 妹は4年生で、来年この話を読むから。</li><li>・ 小さい頃からアンパンマンが大好きだったから。</li><li>・ 写真や絵があってわかりやすい。</li><li>・ みんなが知っているアンパンマンだけれど、作者については知られていない。</li><li>・ アンパンマンを生み出した理由や平和への思いが伝わる。</li></ul>

○ 漢字の練習をしよう。

--	--	--	--



# 70

題材名 「この本、おすすめします ②」 (第2時/全3時間)

目標 「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて簡単に書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができる。

◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「この本、おすすめします ②」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">すいせん文の構成を決めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> <li>教科書P. 206の②組み立てようの学習であることを伝える。「今日の学習は『組み立てよう』です。どんな内容を、どのような順序で伝えると、相手に伝わるか考えます。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ P. 208を例に、見出し、本の情報、本のしょうかい、すいせんする理由、よびかけの順に文章が組み立てられていることに気付かせる。  ④ ワークシートに沿って、横書きで文章を組み立てさせる。「ワークシートに沿って下書きをしていきましょう。」 ○相手に合った言葉を選んで書くように声をかける。 ○前回のワークシートをもとに書かせるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を読み、例を元に構成を考える。</li> <li>下書きを書く。</li> </ul>
終 2分	⑤ 漢字の練習をさせる。 綿 枝 費 税 輸 団 衛 耕 損 険 務 粉 など ⑥ 次時の予告をする。 「次の学習は、『書こう』『つなげよう』のところですよ。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の練習をする。</li> <li>次時の見通しを持つ。 ワークシートは次も使用するため、回収する。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 自分のすいせんしたい本を選ばせる。難しい本でなくてよいことや、相手に合った本にするとよいことを伝える。
- すいせんしたい本が見つからない場合は、教科書に載っている話でもよいことを伝える。
- 本単元に新出漢字はない。以前の漢字の復習を行うとよい。
- 単元を通して、毎回、少しでも音読をするとよい。

板書例

① 題材名「この本、おすすめします ②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 ・「すいせん文の構成を決めよう。」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
 ・教科書P. 206の②組み立てようの学習であることを伝える。  
 「今日の学習は『組み立てよう』です。どんな内容を、どのような順序で伝えると、相手に伝わるか考えます。」

③ P. 208を例に、見出し、本の情報、本のしょうかい、すいせんする理由、よびかけの順に文章が組み立てられていることに気付かせる。

④ ワークシートに沿って、横書きで文章を組み立てさせる。  
 「ワークシートに沿って下書きをしていきましょう。」  
 ○相手に合った言葉を選んで書くように声をかける。  
 ○前回のワークシートをもとに書かせるとよい。

<p>漢字                  (例) 201ページ                  綿 枝 費 税 輸 団 衛                  耕 損 険 務 粉 など</p> <p>(ただ書き写すのではなく、熟語で覚えたり、その漢字を使って文章を作らせたりする学習が有効)                  綿製品の輸入に費用がかかったが、税金がたくさんかかり結局損をした。など</p>	<p>見出し                  本の情報                  本のしょうかい                  すいせんする理由                  よびかけ</p>	<p>この本、おすすめします ②                  すいせん文の構成を決めよう。</p>
--	---	--

<すぐに書けない子への手だて>  
 前回のワークシートを参考に書かせるとよい。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
 とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
 「次の学習は、『書こう』『つなげよう』のところですよ。」

この本、おすすめします ②

W  
70

五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

--

一 構成を決めて下書きを書こう。

横書き (すいせんする本が用意できないときの一例として)	見出し
	本の情報
	本の しょうかい
	すいせん する理由
	よびかけ

○ 漢字の練習をしよう。

今日の学習のめあて

すいせん文の構成を決めよう。

一 構成を決めて下書きを書こう。

<p>横書き (すいせんする本が用意できないときの一例として)</p> <p style="text-align: center;"><b>本当の正義をつらぬいた人</b></p>	<p>見出し</p>
<p style="text-align: center;">やなせたかし アンパンマンの勇氣</p> <p style="text-align: center;">梯 久美子 文 光村図書 5年 教科書</p>	<p>本の情報</p>
<p>この本(話)は、アンパンマンの作者であるやなせたかさんの生き方を紹介した伝記です。アンパンマンを作ったやなせたかさんの思いや願いがとてもよくわかる本です。</p> <p>子どものころ、アンパンマンが好きだった人や、伝記から生き方を学びたい人におすすめです。</p>	<p>本の しょうかい</p>
<p>よく知っているつもりだったアンパンマンが、実は、戦争や別れを経験したやなせたかさんが本当の勇氣とは何かを考え抜いて作られたことが書かれており、読むと、友達に知らせたくなります。</p> <p>やなせさんの生まれてからのことが書かれていますが、とても読みやすい本(話)です。</p> <p>そして、写真ややなせたかさんの直筆メッセージも載っており、とても素敵な本(話)です。</p>	<p>すいせん する理由</p>
<p>ぜひ読んで、アンパンマンのことをもっと好きになってください。</p>	<p>よびかけ</p>

○ 漢字の練習をしよう。

# 7 1

**題材名** 「この本、おすすめします ③」（第3時／全3時間）

**目標** 「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」という学習課題を設定し、目的や意図に応じて簡単に書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができる。

◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「この本、おすすめします ③」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">             相手が読みやすいように書き方を工夫して、清書しよう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> <li>・教科書P. 206の③書こう の学習であることを伝える。「今日の学習は『書こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに、すいせん文を書きます。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	③ 前回のワークシートの構成をもとにしてすいせん文を書かせる。※ カードを用意できる場合はそれに書かせるとよい。「前回のワークシートの構成を使って、相手に伝わるようにすいせん文を書きましょう。」 「P. 209のすいせん文を参考にして書きましょう。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいせん文を書く。</li> </ul>
	④ 書けたすいせん文を読み返させて、事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないかなど確かめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・P. 210を参考に読み合って感想を伝え合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書けたすいせん文を読み返す。</li> <li>・互いに読み合う。</li> </ul>
	⑤ 漢字の練習をさせる。 綿 枝 費 税 輸 団 衛 耕 損 険 務 粉 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の練習をする。</li> </ul>
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次は、『提案しよう、言葉とわたしたち』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・本単元の例では、しょうかいする本が全く手に入らない状況を想定して教科書の題材を元になっているが、できるだけ子どもが気に入っている本や自分の紹介したい本などを用意させるとよい。
- ・本単元に新出漢字はない。以前の漢字の復習を行うとよい。
- ・単元を通して、毎回、少しでも音読をするとよい。

# 板書例

① 題材名「この本、おすすめします ③」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「相手を読みやすいように書き方を工夫して、清書しよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
・教科書P.206の③書こう の学習であることを伝える。  
「今日の学習は『書こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに、すいせん文を書きます。」

③ 前回のワークシートの構成をもとにしてすいせん文を書かせる。  
「前回のワークシートの構成を使って、相手に伝わるようにすいせん文を書きましょう。」  
「P.209のすいせん文を参考にして書きましょう。」

④ 書けたすいせん文を読み返させて、事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないかなど確かめさせる。

<p>横書き→</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ この本は、～した本です。</li><li>・ おすすめしたい理由は〇つあります。</li><li>・ ～を知ることができます。</li><li>・ 読むと、必ず友達に知らせたくなります。</li><li>・ 〇〇が、～形でのっています。</li><li>・ ～とても分かりやすいです。</li><li>・ この本を読めば、あなたも〇〇になれます。</li><li>・ ぜひ読んでみてください。</li></ul>	<p>この本、おすすめします ③</p> <p>相手を読みやすいように工夫して、清書しよう</p>
--	---

<すぐに書けない子への手だて>  
・ ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『提案しよう、言葉とわたしたち』を学習します。」

この本、おすすめします ③

W  
70

五年 組 氏名 (

)

今日の学習のめあて

みんなでも読み合い、感想を伝え合いましょ。伝えたい相  
手に読んでもらいましょ。

五年組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

相手が読みやすいように書き方を工夫して、清書しよう。

- (例) 前回のワークシートをつなげながら文章にする。P. 209の 話型などはそのまま使ってもよいことを伝える。
- ・ この本は、～した本です。
  - ・ おすすめしたい理由は〇つあります。
  - ・ ～を知ることができます。
  - ・ 読むと、必ず友達に知らせたくくなります。
  - ・ ○〇が、～形でのっています。
  - ・ ～とても分かりやすいです。
  - ・ この本を読めば、あなたも○〇になれます。
  - ・ ぜひ読んでみてください。

本当の勇気がわいてくる

アンパンマンが  
好きだったあなたに  
おすすめ

やなせたかし アンパンマンの勇気  
梯 久美子 文 光村図書 5年 教科書

この本（話）は、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんの生き方を紹介した伝記です。おすすめしたい理由は、二つあります。

**おすすめポイント①**

アンパンマン誕生の秘密が書かれており、読むと、必ず友達に知らせたくくなります。

やなせさんの生まれてからのことが書かれています。とても読みやすい本（話）です。

**おすすめポイント②**

やなせたかしさん写真や直筆メッセージも載っており、とても素敵な本（話）です。

この本を読めば、あなたもますますアンパンマンが好きになります。そして、本当の勇気がわいてきます。ぜひ読んでみてください。

手 みんなで読み合ひ、感想を伝え合ひましよう。伝えたい相

# 72

**題材名** 「提案しよう、言葉とわたしたち①」（第1時／全2時間）

**目標** 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

◎ 粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって、提案するスピーチをしようとしている。

**領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「提案しよう、言葉とわたしたち①」を黒板に書く。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 提案したいことを決め、内容や構成を考えよう。	・ 本時の目標を知る。
	・ ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。「スピーチ」について説明する。P. 214の文を読んでもよい。 ・ 教科書P. 211の①決めよう集めよう②組み立てよう③書こうの3回に分けて学習を進めることを伝える。 「今日の学習は『決めよう集めよう』『準備しよう』です。スピーチで提案したいことを決め、情報を集めます。」	・ 声を合わせて目標を読む。
終 2分	③ 日常生活の中から提案したいことを決めさせる。 ・ 教科書P. 211～215を読む。 「日常生活の中でこうなるといいなと思うことを提案しよう。」 ○ 教科書の内容は、言葉の使い方に関する課題で、学校生活や日常生活をよりよくするためにできることを提案することになっているが、補習授業校においては提案内容考えることが困難なことも考えられる。 P. 214の例などを参考に、言いたい内容を整理してスピーチできればよい。	・ 。
	④ スピーチの原稿を書かせる。 「課題に沿ってスピーチの原稿を書きましょう。」 ○ P. 214を参考に、資料も準備させる。	・ 自分の提案内容が伝わるように原稿を書く。
	⑤ 新出漢字の練習をさせる。 ・ 豊 それ以外の以前の漢字の練習もできるとよい。	・ 新出漢字の練習をする。
	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は実際にスピーチをします。」 ワークシートは回収しておく。	・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・ 「話し合い」の学習は、補習授業校では特に難しい。2時間しか取れないこと、次の授業まで、一週間の間があくことを考慮して、児童の実態にあった内容にする。
- ・ 「自分がこうならない。」など、自分の課題について話すだけでもよいこととする。

板書例

① 題材名「提案しよう、言葉とわたしたち①」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 ・「提案したいことを決め、内容や構成を考えよう。」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。  
 ・教科書P.211～P.215を読む。

③ 日常生活の中から議題を決めさせる。  
 ・教科書P.211～P.215を教師が読む。実態に合わせて例を出すとよい。  
 「日常生活の中でこうなるといいなと思うことについて意見を出そう」

④ スピーチの原稿を書かせる。  
 「課題に沿ってスピーチの原稿を書きましょう。」  
 ○ P.214を参考に、資料も準備させる。

新出漢字 豊	まとめ	提案の理由 と根拠	問題	提案内容	提案の きっかけ	提案したいこと 例 教室に入ったらあいさつをしたい 海外の生活を楽しみたい 他の国にも目を向けよう	提案しよう、言葉とわたしたち① 提案したいことを決め、内容や構成を考えよう
-----------	-----	--------------	----	------	-------------	--	--

<すぐには書けない子への手だて>  
 教科書の内容は、言葉の使い方に関する課題で、学校生活や日常生活をよりよくするためにできることを提案することになっているが、補習授業校においては提案内容を考えることが困難なことも考えられる。  
 その場合、P.214の例などを参考に、言いたい内容を整理して原稿を書かせてもよい。「好きな学習、場所、食べ物」などは比較的書きやすい。  
 その場合、好きになったきっかけ、好きな理由、具体的な体験、まとめに「○○をおすすめします。」といった形で書かせる。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
 とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
 「次の時間は、実際に話し合いをします。」  
 「自分の意見をいくつか考えておきましょう。」

提案しよう、言葉とわたしたち①

W  
72

五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

--

一 スピーチの内容や構成を考えよう。

終わり	中	初め
・まとめ	・現状の問題 ・提案の理由と根拠	・提案のきっかけ ・提案内容

提案しよう、言葉とわたしたち① 記入見本例 W 72

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

提案したいことを決め、内容や構成を考えよう。

一 スピーチの内容や構成を考えよう。

終わり	中	初め
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の問題</li> <li>・提案の理由と根拠</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案のきっかけ</li> <li>・提案内容</li> </ul>
<p>○普段から気を付けて、敬語を使うようにしませんか。</p> <p>●皆さんもなわとびで心と体をリフレッシュさせませんか。</p>	<p>○先生にもつい普通の言葉で話してしまう。</p> <p>●毎日にこもってばかりで体を動かさない人が多い。</p> <p>○敬語は日本の生活でとても大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語で話したときに、とても喜ばれた。相手を大切にしている気持ちになれる。</li> </ul> <p>●体を動かさないと気分も悪くなるし、健康にもよくない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびは誰でもすぐに始められて、室内でもできる。練習すれば上達がとてもよくわかる。</li> </ul>	<p>(教科書の課題の例) ○敬語を使ってきましたか。</p> <p>普段の生活で敬語が使えていない。敬語を使うようにする。</p> <p>(好きな遊びの例) ●みんなでなわとびをやりましょう。</p> <p>運動不足でゲームばかりやっている。なわとびで体を動かそう。</p>



# 73

**題材名** 「提案しよう、言葉とわたしたち②」（第2時／全2時間）

**目標** 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

◎ 粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって、提案するスピーチをしようとしている。

**領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「提案しよう、言葉とわたしたち②」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>考えた構成をもとに、原稿を書いてスピーチをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>声を合わせて読ませる。</li> <li>教科書P.211の④⑤の学習であることを伝える。「今日の学習は『話そう聞こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに原稿を書いてスピーチをします。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 38分	<p>③ 前回のワークシートの構成をもとにして原稿を書かせる。</p> <p>※ 原稿用紙を用意できる場合は用紙に書かせるとよい。</p> <p>「前回のワークシートの構成を使って、1つの文章になるよう書きましょう。」</p> <p>「P.214を参考にして書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。</li> </ul> <p>④ 書けた原稿をもとにスピーチを聞き合わせる。</p> <p>「声の強弱や話す速さ、間の取り方などに気をつけ、構成にそって、スピーチをしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に合った形で、スピーチできたことを称賛する。</li> <li>スピーチの感想を交流させる。</li> </ul> <p>⑤ 新出漢字の練習をさせる。時間があれば前回の復習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原稿を書く。</li> <li>書けた原稿をもとにスピーチをする。</li> <li>互いに聞き合って意見を言う。</li> <li>新出漢字の練習をする。</li> </ul>
終 2分	<p>⑥ 次時の予告をする。</p> <p>「次は、『日本語の表記』を学習します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 本指導資料は、補習授業校において、構成だけをもとにスピーチすることが困難な児童がいることを考慮し、原稿を書いてからスピーチをする形にしている。構成（前回のワークシート）を使って何度か練習してスピーチできるようであれば、それでもよい。
- 資料の活用も割愛している。児童の実態によって資料も用意させるとよい。
- 何回か練習をして、声の強弱や話す速さ、間の取り方なども指導する。

# 板書例

① 題材名「提案しよう、言葉とわたしたち②」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「考えた構成をもとに、原稿を書いてスピーチをしよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。  
・教科書P.211の④⑤ の学習であることを伝える。  
「今日の学習は『話そう聞こう』『つなげよう』です。前回考えた構成をもとに原稿を書いてスピーチをします。」

③ 前回のワークシートの構成をもとにして、意見文を書かせる。  
原稿用紙を用意できる場合は用紙に書かせるとよい。  
「前回のワークシートの構成を使って、1つの文章になるよう書きましょう。」  
「P.214を参考にして書きましょう。」  
・ワークシート記入見本例の話型を使うよう声をかけるとよい。

④ 書けた原稿をもとにスピーチを聞き合わせる。  
「声の強弱や話す速さ、間の取り方などに気をつけ、構成にそって、スピーチをしましょう。」

提案しよう、言葉とわたしたち②

考えた構成をもとに、原稿を書いてスピーチをしよう。

スピーチを聞くとときのポイント

○ 声の強弱

○ 話す速さ

○ 間の取り方

<すぐには書けない子への手だて>

- ・ 話型を使って、前回のワークシートの構成を当てはめるように書かせる。書き出しを与えてもよい。
- ・ 提案が難しければ「好きな○○を紹介する」など、児童の実態に合った形で行う。

⑤ 新出漢字の練習をする。  
とめはねはらいに気を付けて練習をする。

⑥ 次時の予告をする。  
「次は、『日本語の表記』を学習します。」

提案しよう、言葉とわたしたち②

W 73

五年 組 氏名 (

今日の学習のめあて

--

まとめ	提案の理由と根拠	現状の問題	提案内容	提案のきっかけ

書いた原稿をもとにスピーチを聞き合って、感じたことを伝え合いましょう。

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

考えた構成をもとに、原稿を書いてスピーチをしよう。

(例) 前回のワークシートをつなげながら文章にする。P.214の原稿を参考に、話型などはそのまま使ってもよいことを伝える。

みなさんは、ふだん、○○していますか。わたし自身、○○なことがあります。ですが、○○はとても大切です。そこでわたしは、○○を提案します。まず、わたしは○○をしました。この結果から、○○が分かりました。

でも、みなさん、○○のことを思い出してください。○○ですよね。

○○で調べてみると、○○がありました。やはり、○○だと思いました。

わたしたちは、○○です。そのことを自覚し、○○すること、○○べきだと思います。その第一歩として、○○にしませんか。

これでわたしの提案を終わります。

まとめ

提案の理由と根拠 現状の問題 提案内容 提案のきっかけ

書いた原稿をもとにスピーチを聞き合って、感じたことを伝え合いましょう。

# 74

**題材名** 「日本語の表記」 (第1時/全1時間)

**目標** 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けることができる。  
 ◎ 進んで、日本語の表記における漢字と仮名の適切な使い分けについて考え、学習課題に沿って理解しようとしている。

**領域等** 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「日本語の表記」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 漢字とひらがな、かたかなの使い分けを考えよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 本時の課題を確認させる。 ・教科書P. 216、P. 217を教師が読む。児童も読んで、わからない言葉を確認する。  ④ ワークシート一に、漢字と仮名の使い分けについて書かせる。 ワークシート二に、印象の違いを書く。	・教科書を音読する。  ・ワークシートを書き、意見の交流をする。
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『漢字の広場⑥』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。



五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 漢字と、ひらがなやかたかなとの違いを考えよう。

文字	漢字	平仮名 片仮名 ローマ字
特ちょう		
使い方		

二 P.212の1を読み、文字によって受ける印象がどう変わるか書きましよう。

五年

組

氏名（

）

今日の学習のめあて

漢字とひらがな、かたかなの使い分けを考えよう。

一 漢字と、ひらがなやかたかなとの違いを考えよう。

文字	漢字	平仮名 片仮名 ローマ字
特ちょう	(表意文字) 一字一字が意味を表す。	(表音文字) 意味を表さず音だけを表す。
使い方	同じ音の言葉がたくさんある。 漢字で書くと意味が伝わる。	漢字だけでは何と読むのか分かりづらいとき、仮名やローマ字で読み方を示すことができる。

二 P.217の①を読み、文字によって受ける印象がどう変わるか書きましよう。

# 75

題材名 「漢字の広場⑥」（第1時／全1時間）

目標 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 ◎ 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 教科書の漢字を使って、新聞記事を書こう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字を読み、その後に音読させ、ワークシートに練習させる。 「まず先生が読みます。その後に続けて読みましょう。」 「漢字をワークシートに書きましょう。」 ○ 書くときは、とめ・はね・はらい・おれや、書き順を確認しながら書く。	・音読し、読み方を覚える。  ・漢字をワークシートに書く。
終 2分	④ 新聞記事の文を、ワークシートに書かせる。 「『いつ、どこで、誰（何）が、どうした』が伝わる新聞記事を書きましょう。」 「どんな記事ができそうですか？ 書く前に発表しましょう。」 「考えた文章を、ワークシートに書きましょう。」 「書いたことを発表しましょう。」 ○ 実態に合ったかたちで漢字が使えていたら称賛し紹介する。 ○ すぐに書けた児童については、違う場面の記事を書かせる。  ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は『大造じいさんとガン』を学習します。」	・新聞記事の文をワークシートに書く。  ・書いたものを発表する。  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 既習の漢字の読み書きを確実に身に着けさせるために
  - ・読みがわからない児童には、挿絵を手がかりに思い出すよう声をかける。知らない児童が多い場合は先に読みと意味を説明して、練習に時間をとる。
  - ・絵の場面で分けて順番に説明していくと、苦手な児童もどこを読んでいるかがわかる。
  - ・扱う漢字をカードなどに書いておくと黒板に書く手間が省ける。
- 既習の漢字を生活の中で適切に使う力をつけるために
  - ・国語辞典、漢字辞典が用意できる場合は、いくつかの漢字については辞書で調べさせてもよい。
  - ・できた文を紹介しあい、「いつ、どこで、誰（何）が、どうした」という、新聞記事に必要な情報が書かれているか確認すると同時に、漢字が使えていたら丸をつける。漢字で書けるところがあったら「ここも漢字が使えるよ。」と促す。

# 板書例

① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「教科書の漢字を使って、新聞記事を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 教科書の熟語を、一通り読み、書き、意味を教える。  
絵と漢字をセットで確認する。

④ 新聞記事の文章を書かせる。  
「いつ」「どこで」「誰(何)が」など、必要な事から  
考えて新聞記事を書く。

## 漢字の広場⑥

教科書の漢字を使って、新聞記事を書こう。

いつ 本日 今日 昨日 明日 近い未来

どこで 国会で 空港で 研究所で

誰(何)が 大臣 国会議員 孫 飛行機

どうした 公害を無くすよう求めた

投票によって選挙で選ばれた  
台風によって欠便した。

(児童の実態によっては、全て書かなくてもよい。  
新聞記事を書くのに必要な言葉があったら黒板に  
書いて教える)  
新聞記事を書こう。

(例に一つ黒板に書き、それを参考にワークシート  
に書かせてもよい)

○本日、梅の花が満開になり、老人と孫が絶景を楽し  
みながら日光浴をした。

<すぐに書けない子への手だて>

- ・ 場面の中から1つ選ばせ、「いつ」「どこで」「誰が」を確認して○をつける。それらを参考に文を書かせる。
- ・ すぐに書けた児童については、違う場面の記事を書かせてもよい。

⑤次時の予告をする。  
「次の時間は、『大造じいさんとガン』を学習します。」

漢字の広場⑥

W  
75

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

--

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。


二 「いつ」「どこで」「誰(何)が」など必要な情報を入れて新聞記事を書こう。書ききれなかったらうららに書こう。

五年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

教科書の漢字を使って、新聞記事を書こう。

一 漢字を練習して、読みを確認しよう。

満開	協力	けんび鏡	完成	飛行機	未来	国会議員	課題
老人	城	治す	浴びる	昨夜	軍手	選挙	大臣
梅	鹿	器官	照明	欠便	巣箱	投票	公害
日光浴	孫	夫	泣く	機械	関心	自然	求める

二 「いつ」「どこで」「誰(何)が」など必要な情報を入れて新聞記事を書こう。書ききれなかったらうららに書こう。

# 76

**題材名** 「大造じいさんとガン」①（第1時／全5時間）

**目標** 全文を読んで感想を話し合う

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大造じいさんとガン」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">全文を読んで感想を話し合おう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 範読をする。 交代で音読させる。 ④ 読んで感じたことをワークシートにまとめさせる ⑤ 感想を発表させる。 ⑥ 感想をもとに登場人物や物語のあらすじを確認する。	・漢字の読みを確認しながら範読を聞く。 ・音読する。 ・感じたことをワークシートにまとめる。 ・書いたことを発表し合う。 ・物語のあらすじをつかむ。
終末 5分	⑤ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑥ 次時の見通しを持つ。 「大造じいさんの気持ちの移りかわりを読んでいきます」	・新出漢字の練習をする。 ・次時の見通しをもつ。

## 指導のポイント

- 一人で学習を進めることは補習校では難しいと思われるので、目標を立てさせる程度でよい。やるならば、長期の休みなどで取り組ませる。
- 最初の感想は、学びの足跡となるので、必ず把握しておく。
- 新出漢字の練習を宿題に出す。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

- ③ 読んで感じたことをワークシートにまとめさせる。

- ④ 全文を音読する。

大造じいさんとガン

目標

全文を読んで感想を話し合おう

感じたこと

(場面と登場人物ごとにわかりやすく書く)

(最初の感想を大切にしておく)

登場人物

物語のあらすじ

(時間がない場合は、感じたことを優先)

- ⑤ 感想を発表させる。
- ⑥ 感想をもとに、登場人物や物語のあらすじを確認する。

- ⑦ 次時の見通しを持つ。

大造じいさんとガン①

W 76

五年 組 氏名 ( )

今日の目標	
感じたこと	
登場人物	
物語のあらすじ	

# 大造じいさんとガン①(記入例)

W 76

五年組 氏名 ( )

<b>今日の目標</b>
全文を読んで感想を話し合おう
<b>感じたこと</b>
<b>登場人物</b>  大造じいさん 残雪 なつたがん
<b>物語のあらすじ</b>

# 77

**題材名** 「大造じいさんとガン」②（第2時／全5時間）

**目標** 一の場面での、残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読む。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大造じいさんとガン」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             一の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読む。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を書く</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 一の場面を読み、大造じいさんの気持ちがわかるところに線を開引かせる。 ④ 線を引いたところを全体で確認し、ワークシートに感想を発表させる。 ⑤ 気持ちを考えさせる。 ⑥ 残雪に対する気持ちの変化を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きもちがわかるところを書き出す。</li> <li>・気持ちを想像する。</li> <li>・気持ちの変化を読み取る。</li> </ul>
終末 5分	⑤ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑥ 次時の見通しを持たせる 「二の場面を読んでいます」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 気持ちのわかるところを見つけられないときは、教師が黒板に書き出してもよい。
- 変化の様子が見える板書を構成する。
- 気持ちの変化，変化の理由は押さえておく。
- 次時間「ううん」がキーワードとなるので，本時の「ううむ」を押さえておく。
- 新出漢字の練習・音読を宿題に出す。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

③ 気持ちがわかる言葉を書き出させる。

④ 一の場面を読み、大造じいさんの気持ちがわかるところに線を引かせる。

大造じいさんとガン

目標  
一の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう。

いましましく ↓ 今年こそは

なんだかうまくいきそう  
わくわく  
うれしく

たかが鳥のことだ

ううむ（感嘆の声）  
たいしたちえをもっているものだな

どのような気持ちになっているか共有しておく

- ⑤ 気持ちを考えさせる。
- ⑥ 残雪に対する気持ちの変化を確認する。

⑦ 次時の見通しを持つ。

大造じいさんとガン②

W 77

五年 組 氏名 ( )

今日の目標	
気持ちのわかるころ	気持ち

大造じいさんとガン②(記入例)

五年組 氏名 ( )

今日の目標	
一のばめんの残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう	
気持ちのわかるところ	気持ち
しまいまして	今年こそは
なんだかうまくいきそう	わくわく うれしく
ううむ	たいしたちえをもっているものだ な

# 78

**題材名** 「大造じいさんとガン」③（第3時／全5時間）

**目標** この場面での、残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読もうちの移りかわりを読む。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大造じいさんとガン」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             この場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読もう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を書く。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ この場面を読み、大造じいさんの気持ちがわかるところに線を引かせる ④ 今年の作戦を読み取る。 ⑤ 227ページの1行目の「」を視写させる。 「」からじいさんの意気込みを読み取らせる。 ⑥ 「ううん」の気持ちを考えさせる。残雪に対する気持ちの変化を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがわかるところに線を引く。</li> <li>・今年はどうな作戦か考える。</li> <li>・「」に込められた気持ちを想像する。</li> <li>・じいさんの気持ちを考えさせる</li> </ul>
終末 5分	⑤ 新出漢字の練習と宿題の確認をする。 ⑥ 次時の見通しを持たせる 「三の場面を読んでいます」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- タニシ・あんばい・案の定・会心のえみをもらす・目にも物を見せるなどの言葉の意味を確認する。
- 前時「ううむ」と本時「ううん」の違いをとらえておく。
- 新出漢字の練習・音読を宿題に出す。

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

- ③ 今年の作戦を読み取り、視写させる。

- ④ 二の場面を読み、大造じいさん気持ちが分かるところに線を引かせる。

大造じいさんとガン

目標

二の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう

第一場面の最後「ううむ」（感嘆）

翌年

タニシ作戦

- ・残雪を認めている
- ・念を入れて↓何度もまく

- ・うまくいったぞ
- ・会心の笑み
- ・目にももの見せてやる

作戦失敗

「ううん」（うなった意味を考える）

残雪に対しての気持ちも共有しておく

- ⑤ じいさんの意気込みを読み取らせる
- ⑥ 「ううん」の気持ちを考えさせる。

- ⑦ 次時の見通しを持つ。

# 大造じいさんとガン③

五年組 氏名 ( )

今日の目標	
今年の作戦	
三三七ぐーシー行目	「          」
大造じいさんの意気込み	
「へっん。」	

# 大造じいさんとガン③(記入例)

五年組 氏名 ( )

<b>今日の目標</b>	この場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう。
<b>今年の作戦</b>	ごちそうをばらまいた。
<b>二二七ページ一行目</b>	「しえ田たぞ。もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にも物を見せてくれるぞ。」
<b>大造じいさんの意気込み</b>	知恵ならまけないぞ
<b>「うっん。」</b>	やはり残雪の方が上手だったのか

# 79

**題材名** 「大造じいさんとガン」④（第4時／全5時間）

**目標** 三の場面での、残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読む。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大造じいさんとガン」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             三の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読もう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を書く。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 今年の作戦を考え、じいさんの意気込みと自信を読み取ちを考えワークシートにまとめる。 ④ ねらったじゅうを下ろしたじいさんの気持ちを考えさせる。 ⑤ P234・11行目 ～ P235・3行目までを視写させる ⑥ じいさんの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の作戦を知り、じいさんの気持ちを考えワークシートにまとめる。</li> <li>・ワークシートに視写する。</li> <li>・残雪に対する気持ちの変化を読み取る。</li> <li>・じいさんの気持ちを考えさせる</li> </ul>
終末 5分	⑤ 新出漢字の練習と宿題の確認する。 ⑥ 次時の見通しを持たせる 「四の場面を読んでいます」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> <li>・次時の見通しをもつ。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 新出漢字の練習・音読を宿題に出す。
- これまでの作戦と比較しておく。  
 普通の猟→ 手間をかけた作戦（タニシ） → おとり
- 作戦名は子どもの言葉を大切に
- 「頭領らしい、堂々たる態度」の様子と理由を把握しておく

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④ねらったじゅうを下したじいさんの気持ちを考える。

③ 今年の作戦を考え、じいさんの意気込みと自信を読み取らせる。

大造じいさんとガン

目標

三の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう

「ううむ」↓「ううん」

今年の作戦

おとり作戦

- ・残雪を認めた
- ・手段は選んでいられない

ハヤブサの登場 逃げ遅れた おとり

←残雪をねらう

じゅうを下ろしてしまいました

大造じいさんの気持ち

- ・見守ろうと思った
- ・まちがってうつかもしいれない
- ・残雪に見とれた

頭領らしい 堂々たる態度

大造じいさんの気持ちを共有しておく

⑤視写させる

⑥じいさんの気持ちを考える。

⑦次時の見通しを持つ。





# 80

**題材名** 「大造じいさんとガン」⑤（第5時／全5時間）

**目標** この場面での、残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読もうちの移りかわりを読む。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大造じいさんとガン」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             四の場面での、残雪に対する大造じいさんの気持ちの移りかわりを読もう。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を書く。</li> <li>・声を合わせて目標を読む。</li> </ul>
展開 35分	③ 残雪を大空に放すじいさんの気持ちを考える。 行動・言葉・情景から考えさせる。 ④ 237ページ5行～9行目までを視写させる。 ⑤ 長い間見守っていたじいさんの気持ちを考えさせる。 ⑥ 自分の学習課題が解決したか確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「英ゆう」「おれたち」という言い方に気づく</li> <li>・視写してじいさんの思いを感じ取る。</li> <li>・ワークシートにまとめる。</li> <li>・長い間見守っていたじいさんの気持ちを考えさせる。</li> <li>・作品の主題を確認する。</li> </ul>
終末 5分	⑦ 新出漢字の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習をする。</li> </ul>

## 指導のポイント

- これまでの、大造じいさんの心情の変化を追わせる。
- 最初の感想と比較させる。→ 読みが深まった部分

## 板書例

- ① 題材名を黒板に書く。
- ② ワークシートを配布し、本時の目標を書く。

④ 視写させる。

③ 残雪を大空に放すじいさんの気持ちを考える。

大造じいさんとガン

目標

四の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り  
変わりを読もう

ひと冬、大造じいさんがかけた言葉

- ・ 早くよくなれ
- ・ また、わしと戦おうじゃないか

おりのふたを開けたときの気持ち

おれたち

えらぶつ

ひきょうなやりかた

堂々と

晴れ晴れとした表情

いつまでも見守っていた

大造じいさんの気持ちを共する

- ⑤ 長い間見守っていたじいさんの気持ちを考えさせる。
- ⑥ 自分の学習課題が解決したか確認させる。

⑦ 作品の主題をまとめる。

大造じいさんとガン⑤

五年 組 氏名 ( )

今日の目標	
二三七ページ五行目～九行目	

大造じいさんとガン⑤(記入例)

五年 組 氏名 ( )

<b>今日の目標</b>	
	四の場面での残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを読もう
<b>二三七ページ五行〜九行目</b>	